

茨城県教育財団文化財調査報告第355集

鹿島台遺跡 保土通遺跡

都市計画道路平野杉本線道路整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 24 年 3 月

茨城県常陸大宮土木事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第355集

か しま だい
鹿 島 台 遺 跡
ほ ど とおり
保 土 通 遺 跡

都市計画道路平野杉本線道路整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 24 年 3 月

茨城県常陸大宮土木事務所
財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、一般国道や主要地方道などの広域的なネットワークの整備を進めています。

その一環として、茨城県常陸大宮土木事務所は、那珂市瓜連地区において、都市計画道路平野杉本線道路整備事業を計画しました。しかしながら、その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である鹿島台遺跡、保土通遺跡が所在し、記録保存の措置を講じる必要があるため、当財団が茨城県常陸大宮土木事務所から埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、平成22年7月から12月までの6か月間にわたりこれを実施しました。

本書は、鹿島台遺跡と保土通遺跡の調査成果を取録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者であります茨城県常陸大宮土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、那珂市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成24年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木欣一

例 言

- 1 本書は、茨城県常陸大宮土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成22年度に発掘調査を実施した茨城県那珂市瓜連866-1番地ほかに所在する鹿島台遺跡、那珂市瓜連811-3番地ほかに所在する保土通遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 両遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成22年7月1日～12月31日
整理 平成23年7月1日～12月31日
- 3 両遺跡の発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 仲村浩一郎 平成22年7月1日～12月31日
主任調査員 齋藤 貴史 平成22年7月1日～12月31日
主任調査員 長津 盛男 平成22年10月1日～12月31日
調査員 宮崎 剛 平成22年7月1日～9月30日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、調査員宮崎 剛が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、竈道具については、茨城県工業技術センター竈業指導所工芸技術部門主任久野亘央氏ほかにご指導いただいた。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、 $X = +54,980\text{ m}$ 、 $Y = +55,760\text{ m}$ の交点を基準点(A1a1)とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。











大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…; 西から東へ1、2、3…とし、「A1区」「B2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」「B2b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P-ピット PG-ピット群 SA-竪溝 SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡 SE-井戸跡
SF-道路跡 SH-竪穴遺構 SI-竪穴住居跡 SK-土坑 SN-粘土探掘坑 SY-竪跡
遺物 DP-土製品 M-金属製品 Q-石器・石製品 TP-拓本記録土器
土層 K-攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉		炉・火床面
	竪部材・粘土範囲・黒色処理		煤
	土器		土製品
	石器・石製品		金属製品
	硬化面		破線

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

- (1) 現存値は()を、推定値は[]を付して示した。計測値の単位はm、cm、kg、gで示した。
- (2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
- (3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 竪穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 $N-10^{\circ}-E$)。

目 次

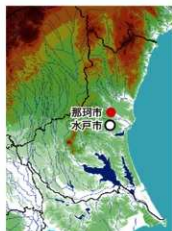
序	
例言	
凡例	
目次	
鹿島台遺跡・保土通遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	6
第2章 位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 鹿島台遺跡	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 遺構と遺物	14
1 古墳時代の遺構と遺物	14
(1) 竪穴住居跡	14
(2) 溝跡	17
2 奈良時代の遺構と遺物	19
(1) 竪穴住居跡	19
(2) 掘立柱建物跡	32
3 平安時代の遺構と遺物	34
(1) 竪穴住居跡	34
(2) 竪穴遺構	43
(3) 粘土採掘坑	44
(4) 土坑	47
4 その他の遺構と遺物	54
(1) 掘立柱建物跡	54
(2) 井戸跡	56
(3) 溝跡	57
(4) 土坑	58
(5) ビット群	69
(6) 遺構外出土遺物	72
第4節 まとめ	73

第4章 保土通遺跡	79
第1節 調査の概要	79
第2節 基本順序	79
第3節 遺構と遺物	80
1 古墳時代の遺構と遺物	80
(1) 竪穴住居跡	80
2 近世の遺構と遺物	84
(1) 竪穴連遺構	84
ア 竪跡	84
イ 掘立柱建物跡	90
ウ 欄跡	93
エ 竪穴遺構	93
オ 粘土採掘坑	94
カ 土坑	97
(2) 道路跡	97
(3) 溝跡	99
3 その他の遺構と遺物	100
(1) 掘立柱建物跡	100
(2) 井戸跡	102
(3) 土坑	102
(4) 溝跡	117
(5) ビット群	121
(6) 遺構外出土遺物	125
第4節 まとめ	128
写真図版	PL 1 ~ PL 20
抄録	
付図	

かしまだい ほ ど と おり 鹿島台遺跡・保土通遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

鹿島台遺跡と保土通遺跡は、那珂市の北部に位置し、久慈川右岸の那珂台地上に立地しています。今回の発掘調査は、都市計画道路平野杉本線道路整備事業の道路予定地内に両遺跡があることから、遺跡の内容を図や写真に記録するため、茨城県教育財団が平成22年度に実施しました。



鹿島台遺跡

調査の内容

当遺跡は、久慈川と春日川に挟まれた標高36～39mの台地の上にあります。東西約1.5km、南北約0.4kmと広大な遺跡で、本格的な調査は今回が初めてです。遺跡の北西部の1,720㎡について発掘調査しました。

この遺跡からは、古墳時代から平安時代までの堅穴住居跡12軒が見つかりました。土師器の高坏や壺、お米を蒸すための甌や、須恵器の高台付坏、蓋、甕などが見つかりました。



南東上空から見た鹿島台遺跡・保土通遺跡

調査の成果

調査の結果、集落は古墳時代中期から平安時代まで継続して営まれ、春日川へ下る台地縁辺部まで広がっていたことが確認できました。調査区は遺跡の一部のため、集落全体の様子はわかりませんが、集落の中心はおそらく北東側の台地上に広がっていたものと考えられます。この遺跡の竪穴住居の竈は、良質な粘土で造られており、調査区南西部の大きな粘土採掘坑で採取された粘土が使われたと考えられます。

また、この粘土採掘坑からは、右の「高月郷」と記された平安時代の坏（墨書土器）が出土しています。高月郷は、当遺跡から北東約18kmにある現在の日上市水木周辺にあります。当遺跡のある地域は倭文郷で、布を産出していました。高月郷のあった水木周辺は古代から海産物が豊富であったことから、布と海産物の交換が行われていたのかもしれませんが、離れた地域との交流を知る貴重な遺物です。



2か所の炉と貯蔵穴を持つ古墳時代の住居



墨書土器が出土した粘土採掘坑



「高月郷」と記された土師器の坏

保土通遺跡

調査の内容

保土通遺跡は、春日川右岸の標高約 38 m ほどの那珂台地上にあり、北と南をその支流に挟まれています。今回の調査で、5,607㎡の範囲を発掘調査しました。この調査区の中央部では、古墳時代の住居跡 1 軒が見つかりました。また、東部では窯跡と、それに関わる掘立柱建物跡 2 棟や竪穴遺構 1 基、粘土を貼った土坑などが確認できました。

第 1 号住居跡からは土師器の坏、甕、甑や手捏土器、須恵器の甕や甕が出土しました。また、窯跡とその関連遺構からは、7 種類の窯道具（トチン、粉団子、サヤ鉢、輪ドチ、棒状粘土紐、留具、杭）が見つかりました。

調査の成果

調査区の中央部にある古墳時代後期の竪穴住居跡からは、須恵器の甕が見つかりました。容器の真ん中に穴が開いており、この穴に竹管などを通して、お酒などを注いだと考えられています。この住居跡から見つかったその他の土器は、時代が少し新しいため、この甕は何代かにわたり、受け継がれて使用されていたものと思われます。この時代の住居に住む人々にとって、この甕は貴重なものであったと考えられます。

また、調査区の東部では、窯跡とその関連遺構、色々な窯道具が見つかりました。



古墳時代後期の住居



第 1 号住居から出土した甕

窯関連遺構と窯道具

窯自体は削平されており、接地面と真北を向く火道、焼土しか確認できませんでした。窯に関わる一連の遺構が確認できました。ここからは7種類の窯道具が出土しています。トチンは、窯床の砂や土と製品が直接接触することを防ぐ台です。初団子も同様に高さを出すために使います。強度を増し、陶器とくっつきづらくするために、初殻を混ぜてあります。サヤ鉢は陶器を焼く時に灰がかからないようにする容器です。輪ドチは小皿のような陶器を重ね焼きする窯道具で、リング状をしています。棒状粘土紐は、角皿のような長方形の器を焼く際に使用し、留具は円筒状の陶器が転がるのを防ぎます。杭は棚板を支えたり高さを出すため、窯の砂床に刺して使用します。これらの窯道具を観察したところ、何度も繰り返して使用した痕跡が見られないことから、当遺跡の窯は、短期間の操業で廃棄されたことがわかりました。

9代水戸藩主の徳川斉昭は、陶器生産による殖産興業を目指し、陶土のある候補地を探していたことから、当遺跡の窯跡も、候補地の一つであったのかもしれませんが。



窯関連遺構



トチン



トチン



サヤ鉢



初団子



輪ドチ



棒状粘土紐



留具



杭

窯跡とその関連遺構から出土した窯道具

第1章 調 査 経 緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県常陸大宮土木事務所は、那珂市瓜連地区において、都市計画道路平野杉本線の道路整備を進めている。

平成20年6月2日、茨城県常陸大宮土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、都市計画道路平野杉本線道路整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成20年7月8日に現地踏査を実施した。平成21年2月24・26・27日に保土通遺跡、同年5月21日に鹿島台遺跡の試掘調査を実施し、両遺跡の所在を確認した。

平成21年3月30日、茨城県教育委員会教育長は茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、事業地内に保土通遺跡が存在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であると回答した。また、同年10月5日、鹿島台遺跡についても同様に別途協議が必要であることを回答した。

平成21年11月20日、茨城県常陸大宮土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更による現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成22年2月10日、茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成22年2月15日、茨城県常陸大宮土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、都市計画道路平野杉本線道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。

平成22年3月9日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、鹿島台遺跡、保土通遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、あわせて調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県常陸大宮土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成22年7月1日から12月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

鹿島台遺跡、保土通遺跡の調査は、平成22年7月1日から12月31日までの6か月間にわたって実施した。
以下、その概要を表で記載する。

(1) 鹿島台遺跡

工程	期間	7月	8月	9月
調査表遺	準備 土除 確認	■		
遺構	調査		■	■
遺物 写真	洗浄 整理		■	■
補足 撤収	調査			■

(1) 保土通遺跡

工程	期間	7月	8月	9月	10月	11月	12月
調査表遺	準備 土除 確認	■	■			■	■
遺構	調査			■	■	■	■
遺物 写真	洗浄 整理				■	■	■
補足 撤収	調査						■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

鹿島台遺跡は、茨城県那珂市瓜連 866 - 1 番地ほかに所在し、保土通遺跡は、那珂市瓜連 811 - 3 番地ほかに所在している。

那珂市は、茨城県の北部に位置しており、平成 15 年に瓜連町と那珂町の合併により誕生した市である。両遺跡が所在する瓜連は、那珂市北部の那珂台地北縁に位置する。東部を久慈川と那珂川に挟まれた那珂台地上に所在している。那珂市瓜連付近の地形は、西に標高 90m 前後の丘陵地、中央に那珂台地、東に久慈川に沿って広がる沖積低地の三つに区分できる。

那珂台地は、下層には茨城粘土層と見和層の砂層や砂礫層が堆積し、表層には関東ローム層がほぼ水平に堆積し、下位の段丘礫層と接している部分は粘土化している。関東ローム層の厚さは 2 ~ 3m で、下部より 1m 前後のところには 15 ~ 20cm の鹿沼軽石層が挟まれている¹⁾。

鹿島台遺跡は、瓜連地区の北東部、久慈川と春日川に挟まれた標高 36 ~ 39m の台地上に位置しており、東西約 1.5km、南北約 0.4km の広範囲にわたる遺跡である。今回の調査区はその北西部に位置する。保土通遺跡は、春日川右岸の標高 36 ~ 39m の台地上に位置し、北と南を春日川の支流が流れている。

第2節 歴史的環境

瓜連地区周辺には古くから人々の生活の痕跡を見出すことができ、特に旧石器時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が久慈川に面した台地縁辺部に多く所在している。ここでは、鹿島台・保土通両遺跡周辺の遺跡を時代ごとに概観していく。特に鹿島台遺跡〈①〉は、旧石器時代から近世まで連続と続く遺跡である。

旧石器時代の遺跡としては、久慈川右岸の額田大宮遺跡、森戸遺跡、西組遺跡(9)、北坪遺跡(15)、中丸遺跡(30)、八石遺跡(32)や飛内遺跡(41)、がある。額田大宮遺跡からは 1977 年の発掘調査で旧石器時代終末期の細石刃、彫刻刀、スクレイパー、円ノミ形石器などの良好な資料が検出されている。また森戸遺跡でも、1987 ~ 1988 年の当財団の発掘調査で、チョッパー、削器、掻器、石核、剥片等が出土している¹⁾。北坪遺跡では頁岩の石刀核、西組遺跡からは安山岩製の尖頭器が出土している²⁾。

縄文時代の遺跡としては、早期の田戸下層式土器や子母口式土器が出土した大塚遺跡、鹿島台遺跡や石井戸遺跡、中期では加曾利 E 式や大木 8a 式、大木 8b 式、堀ノ内式土器が出土している下大賀遺跡(50)、鹿島台遺跡のすぐ南に位置し、加曾利 E 式や堀ノ内式土器が出土している谷津向遺跡(34)がある³⁾。鹿島台遺跡、保土通遺跡から東南に 1km ほどの野田遺跡(43)、西方 1km ほどにある権現下遺跡(42)、西室家遺跡(44)、辻後遺跡(46)でも縄文土器が採集されている¹⁾。那珂市瓜連で発見された縄文土器の大半は、南関東の子母口式に比定されるもので、大塚遺跡から出土した縄文土器が、瓜連地区では最古のものとして⁵⁾。縄文時代中期・後期の土器は、JR 水郡線の静駅付近の畑やその西側に広がる上宿地区から出土しており、この地方が数千年前から人々の生活の場として拓けていたことがうかがえる⁶⁾。

弥生時代の遺跡は、東中根式土器や十玉台式土器と呼ばれる後期の土器が出土した瓜連遺跡(48)、下大賀遺跡、大塚遺跡等があり、台地縁辺部に広がっている。弥生土器が茨城県にもたらされたのは弥生時代中期前

半とされ、瓜連地区出土の弥生時代後期の東中根式、十王台式土器などから推測すると、瓜連地区は紀元前3世紀後半頃より稲作文化の影響を受け入れ、久慈川に面した瓜連、下大賀、大塚、鹿島地区の谷津田を開拓して水稲耕作が進められたと考えられる⁷⁾。

古墳時代の遺跡としては、下大賀遺跡や十林寺古墳群等がある。以前は上宿古墳群、上宿遺跡、ニツ堂遺跡、新宿古墳群、静駅付近遺跡に登録されていたが、2000年の分布調査によりこれらの遺跡は下大賀遺跡と同一遺跡となった⁸⁾。近隣の同時代の遺跡として、久慈川右岸に小谷場遺跡(11)、中組遺跡(13)、おはぐろ塚古墳(19)、白河内松原遺跡(21)や白河内台坪遺跡(24)、那珂川左岸台地上に権現山横穴群(20)、富士山古墳群、白石遺跡、西木倉古墳群、津田西山古墳群などが所在している。那珂市に古墳文化が最初に伝来したのは、瓜連、下大賀、鹿島付近であったと思われる、この地域からは初期の五領式土器が出土している⁹⁾。古墳時代になると、鹿島・大塚・十林寺・静地区などの台地縁辺部に20基近くの古墳が築造され、その周辺に同時期の集落遺跡が認められている。特に静神社の東方約700mの下大賀遺跡内にある新宿・上宿古墳群は、「倭文」すなわち機織りの神を祭る静神社を奉祭した人々の墳墓とされ、この人々の住む集落が『常陸国風土記』久慈郡の条に「郡西口里静織里」と記された静織の里であろうと考えられている¹⁰⁾。風土記によれば、静の地名は静織、倭文から出たもので、綾布を常陸で初めて織りだしたのでこう名付けられたと説明している。古代に倭文部という一族が集団で盛んに倭文布を生産しており、一族は建築・樞命を祖神としてこの地に奉斎したのが静神社である。那珂市瓜連の古墳のうち、新宿古墳や鹿島古墳は半地下式の石室を有する古墳であるが、この他にも地下に営まれた石室をもつ古墳が発見されている。鹿島古墳に隣接した畑中から方頭の太刀が出土しているが、その出土状況から、地下式古墳の出土品と考えられている¹¹⁾。那珂市や常陸太田市内には、権現山横穴等の多くの横穴墓が確認されているが、横穴墓を持たない瓜連付近の人々は、8世紀には地下式古墳を造営していたものと推定される。

奈良・平安時代の遺跡としては、権現下遺跡や、保土通遺跡から1kmほど南に位置する十文字遺跡(40)がある。古墳時代から奈良時代にかけて、国家体制が確立し、従来の家族は大和朝廷の政治体制の中に次第に組み入れられた。『常陸国風土記』の中にも随所にその形成の過程が述べられており、水戸付近にも河内駅家をはじめ郡衙や郡寺なども置かれて、都市的な機構も整備されたことがうかがわれる。律令期になると、瓜連地区は久慈郡に編入され、『和名類聚抄』に記載されている久慈郡の倭文郷に属していたと推測される¹²⁾。久慈郡十九郷一余戸の位置や範囲については、地名、地形などを基に研究者によって考証がなされてきた。『新編常陸国誌』の「倭文郷 之登利」には、「風土記ニヨリテ地図ヲ按ズルニ、コノ郷東ハ木前郷ニ接シ、西南並ニ那珂郡ノ界ニ至リ、北ハ真野郷ニ隣リテ静、古徳、瓜連、戸崎、下大賀、上村田、下村田、石沢、上岩瀬、下岩瀬ノ十村、九千石ハカリノ地、皆古ノ倭文郷ナリ」とあり、「木前郷 支左岐」には、「倭名鈔云、木前、按ズルニ、今ノ那珂郡南酒出、北酒出ノ両村共ニ木崎ト云フ地アリ、コノ地古ハ久慈郡ニ属シタレバ、古ノ木前郷タルコト明ナリ、木前ハ城崎ナリ、凡古俗ノ言ニ、地ノ一区ヲナシタルモノコレヲ城ト云フ、其崎ヲハコレヲ城崎ト云ヘバナリ、地図ニヨリテ考フルニ、コノ郷東ハ神崎郷ニ隣リ、西ハ倭文郷ニ接シ、南ハ那珂郡ノ界ニ至リ、北ハ久慈川ニ涯リテ、南北酒出、門部、磯崎、中岡、中里、豊吹、飯田、福田、鴻巣ノ十村、七千七百石ノ地、皆古ノ木前郷ナリ」となっている¹³⁾。これによれば両遺跡が位置する瓜連地区は、「倭文郷」全体と「木前郷」の一部とにまたがっていることになる。瓜連町教育委員会によって、2000年に発掘調査が行われた権現下遺跡では、古墳時代から平安時代後期頃までの29軒の住居跡が確認されている¹⁴⁾。これらの調査結果からもわかるように、平安時代のこの地域にはいくつかの集落が存在していた。那珂市の鹿島台、瓜連、古徳、静地区など谷津や台地下の低湿地では、各所に7～8世紀の条里制水田が見られるようになり、土

師器や須恵器が多く採集されている。

南北朝時代に入ると、常陸の南朝方拠点として、楠木正成の代官として遣わされた楠木正家（うすのぎ まさけ）が瓜連城（49）を築き、北朝方の将、佐竹の軍勢と久慈川を挟んで対峙した。瓜連城は常福寺境内を本丸とし、旧町域をほぼ含む東西南北にそれぞれ700 mほどで、各所に深い堀と土塁を残している。瓜連城落城の後、草地山蓮華院常福寺二世了誉上人によってこの地に常福寺が再建され、佐竹氏・江戸氏の保護を受けて発展した。さらに江戸期には徳川家康から百石の寺領が与えられ、早くから壇林として格付けされ、寛永十二（1635）年には、当寺は常陸国の浄土宗の総本山となり、近隣の人々より厚い信仰を受け現在に至っている^{10）}。

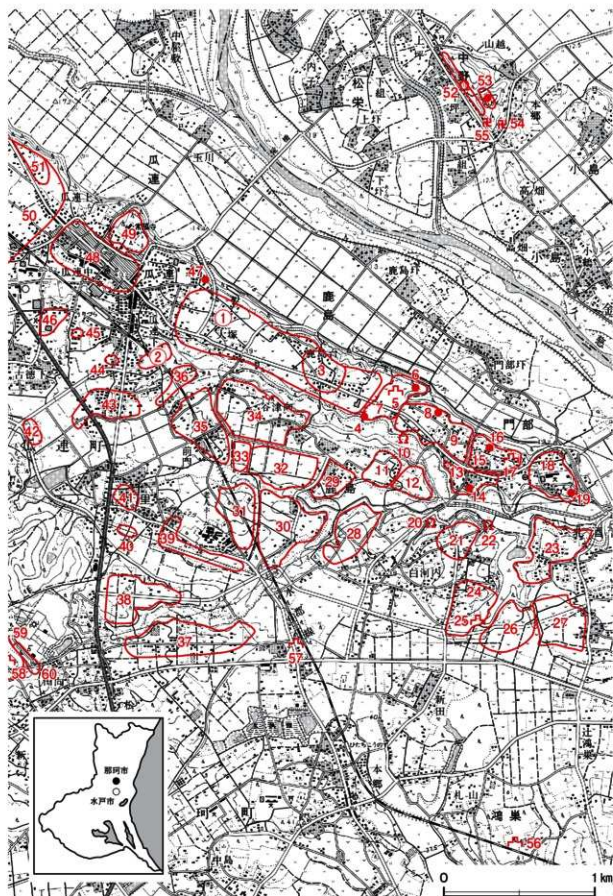
このように瓜連地区周辺は旧石器時代から近世までの遺跡が周知されているが、台地縁辺部に多く、中央部では減少する傾向を示している。

註

- 1) 小松崎和浩・栗田功「久保山遺跡 主要地方道那珂浜那珂線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第274集 2007年3月
- 2) 那珂町史編さん委員会「那珂町の考古学」那珂町 1990年1月
- 3) 千種重樹「山王原遺跡 県営那珂北部畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」那珂町教育委員会 2000年3月
- 4) 加藤雅美「十林寺古墳第1号墳・下大賀遺跡調査報告書市道153号線・929号線改良工事に伴う埋蔵文化財の調査」那珂市教育委員会・常総考古学研究所 2007年2月
- 5) 瓜連町史編さん委員会「瓜連町史」1985年7月
- 6) 註5に同じ
- 7) 註5に同じ
- 8) 註4に同じ
- 9) 註5に同じ
- 10) 加藤雅美「瓜連城跡地内埋蔵文化財発掘調査報告書 No1～No4 地点」瓜連町教育委員会 1996年3月
- 11) 註5に同じ
- 12) 註5に同じ
- 13) 中山信名著・栗田寛補訂『新編常陸国誌』宮崎報恩会 1969年
- 14) 註13に同じ
- 15) 茨城県那珂郡瓜連町教育委員会「権現下遺跡調査報告書 瓜連町ふれあいの社公園用地内遺跡調査報告書」2002年3月
- 16) 註10に同じ

参考文献

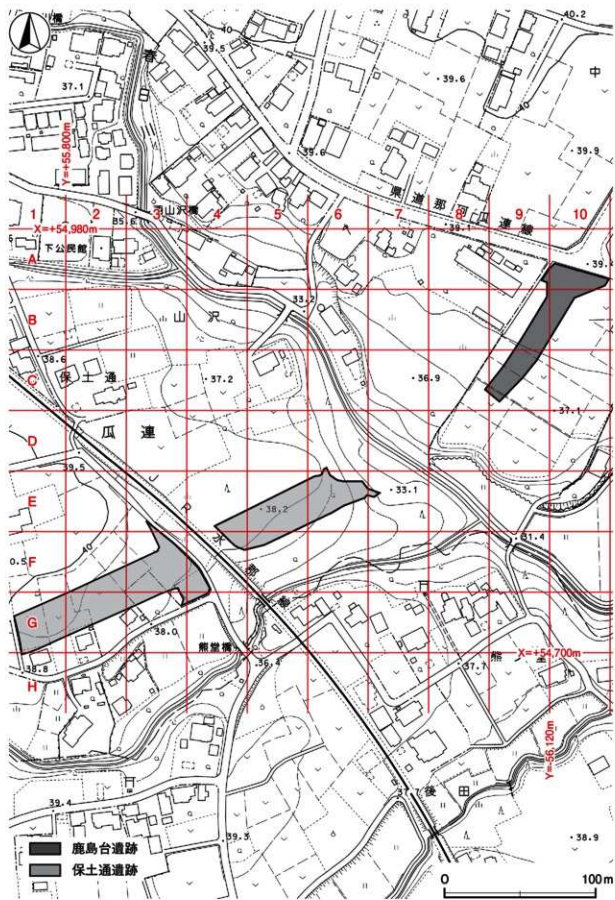
- ・茨城地方史研究会「茨城の歴史 県北編」茨城新聞社 2002年5月
- ・茨城県教育庁文化課「茨城県遺跡地図 地図編」茨城県教育委員会 2001年3月



第1図 鹿島台遺跡・保土通遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「石塚」「常陸大宮」）

表1 鹿島台・保土通遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世
①	鹿島台遺跡	○	○	○	○	○	○	29	鹿島幅遺跡				○	○		
②	保土通遺跡				○		○	30	中丸遺跡	○			○	○		
3	鹿島台古墳群				○			31	孫目遺跡		○		○	○	○	
4	塚の根古墳群				○			32	八石遺跡	○	○		○	○		
5	要害城跡						○	33	榎戸遺跡					○		
6	要害古墳				○			34	谷津向遺跡		○		○	○		
7	要害遺跡		○	○	○	○	○	35	高後遺跡		○		○	○	○	
8	稲荷様古墳				○			36	熊ノ堂遺跡		○	○		○	○	
9	西組遺跡	○	○	○	○	○	○	37	戸崎木戸遺跡		○		○	○		
10	門部西組横穴墓群				○			38	戸崎井尻遺跡				○	○		
11	小谷場遺跡				○	○		39	前谷津遺跡		○			○	○	
12	小谷場館跡						○	40	十文字遺跡						○	
13	中組遺跡		○	○	○	○		41	飛内遺跡	○	○		○	○		
14	中組古墳				○			42	権現下遺跡		○			○		
15	北坪遺跡	○	○	○	○	○	○	43	野田遺跡		○		○	○	○	○
16	熊ノ堂遺跡		○	○		○	○	44	西室家遺跡		○		○	○	○	
17	門部館跡						○	45	水戸海道遺跡		○	○	○	○	○	
18	東組遺跡		○	○	○	○		46	辻後遺跡		○		○	○	○	○
19	おはぐろ塚古墳				○			47	大塚古墳					○		
20	権現山横穴群				○			48	瓜連遺跡		○	○	○		○	○
21	白河内松原遺跡		○	○	○	○		49	瓜連城跡							○
22	白河内横穴墓群				○			50	下大賀遺跡		○	○	○	○	○	○
23	宮の脇遺跡		○		○	○	○	51	十林寺古墳群					○		
24	白河内台坪遺跡		○	○	○	○		52	ばくち穴横穴群					○		
25	白河内台坪館跡						○	53	東山古墳群						○	
26	山王原遺跡		○	○	○	○	○	54	大角寺跡							○
27	宮の台遺跡		○		○			55	長慶寺跡							○
28	立花遺跡			○	○			56	稲荷山館跡							○



第2図 鹿島台遺跡・保土通遺跡調査区設定図(那珂市都市計画図2,500分の1)

第3章 鹿島台遺跡

第1節 調査の概要

当遺跡は、那珂市の北部に位置し、久慈川右岸の標高約40mほどの那珂台地上に立地している。調査面積は1,720㎡で、調査前の現況は畑地である。

調査の結果、竪穴住居跡12軒（古墳時代1・奈良時代5・平安時代6）、掘立柱建物跡2棟（奈良時代・時期不明）、竪穴遺構1基（平安時代）、粘土採掘坑2か所（平安時代）、土坑117基（平安時代11・時期不明106）、井戸跡2基（時期不明）、溝跡2条（古墳時代・時期不明）、ピット群3か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に12箱出土している。主な出土遺物は、土師器（坏・碗・高台付坏・高坏・壺・甕・瓶）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・鉢・甕・甌）、土製品（支脚・管状土錘）、石器（砥石）・石製品（双孔門板）、金属製品（釘・銭貨）などである。

第2節 基本層序

調査区北部の平坦面（A10h4区）にテストピットを設定し、調査面から20mまで掘り下げて基本層序の確認を行った（第3図）。土層は8層に分層でき、観察結果は以下のとおりである。

第1層は、いびい褐色のソフトローム層である。粘性は強く、締まりは普通で、層厚は6～14cmである。

第2層は、明褐色のハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は30～50cmである。

第3層は、明褐色の鹿沼バミス層への漸移層である。鹿沼バミスを中量含み、粘性は強く締まりは普通で、層厚は4～20cmである。

第4層は、褐色の鹿沼バミス層である。粘性は強く、締まりは普通で、層厚は12～24cmである。

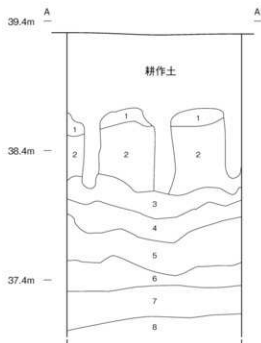
第5層は、褐色のハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は20～40cmである。

第6層は、褐色のハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は6～28cmである。

第7層は、明褐色のハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は20～30cmである。

第8層は、橙色の粘土層である。粘性・締まりともに強く、層厚は10cmまで確認したが、下層は未掘のため不明である。

なお、遺構は第1層の上面で確認できた。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で確認した当時時代の遺構は、竪穴住居跡1軒、溝跡1条である。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第4号住居跡（第4～7図）

位置 調査区北部のA10h2区、標高38mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第69号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.96m、短軸5.56mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は14～70cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部まで踏み固められている。貼床は全体をほぼ平坦に掘り込み、ローム粒子や炭化粒子を含んだ第13層を埋土して構築されている。壁下には、南コーナーを除き壁溝が巡っている。

炉 2か所。炉1は北壁際に付設された地床炉である。規模は長径70cm、短径50cmの楕円形である。炉床部は床面を8～12cm掘りくぼめており、火を受けてわずかに赤変している。炉2は、中央部西側に付設された地床炉である。規模は長径130cm、短径47cmの楕円形であり、2か所の炉床部が認められる。土層から確認すると、これら2か所の炉床部に新旧関係はない。炉床部は床面を6～12cm掘りくぼめており、わずかに赤変している。炉1の炉床面は、炉2と比較して赤変の度合いが強いため、炉2よりも使用頻度が高く長期間使用されていたと考えられる。

炉1土層解説

1 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	4 明褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量
2 にぶい褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 にぶい褐色	ローム粒子・炭化粒子中量	6 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量

炉2土層解説

1 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量	4 明褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 明褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	5 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量		

ピット 4か所。P1～P4は深さ45～68cmで、配置から主柱穴である。

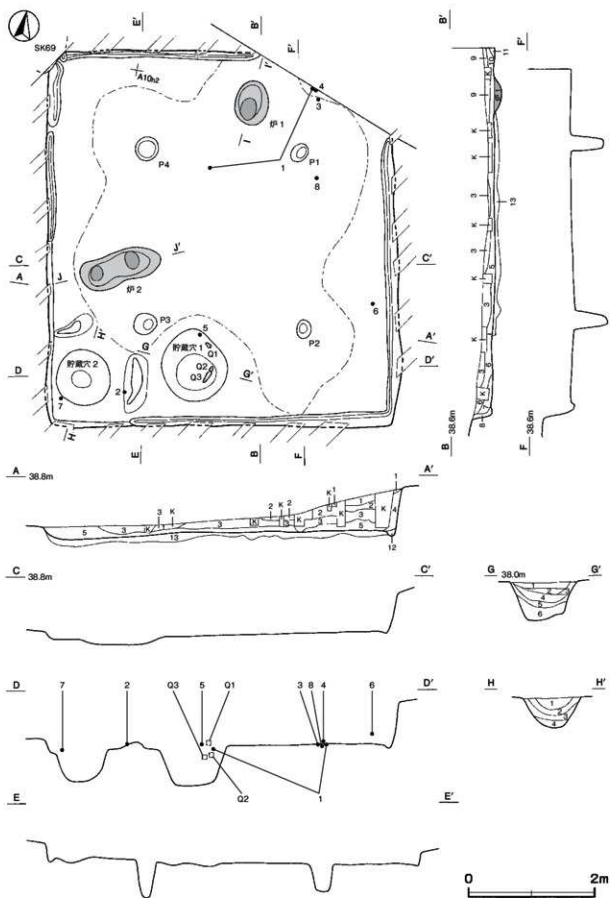
貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南壁寄りの中央部に位置し、長径113cm、短径105cmの円形で、深さは62cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は南西コーナー部に位置し、長径90cm、短径87cmの円形で深さは50cm、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2の北側と東側に2か所の高まり部を確認した。規模は、北側は長軸66cm、短軸28cmで、東側は長軸93cm、短軸38cmで、いずれも床面からの高さは8cm程度である。

貯蔵穴1土層解説

1 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量		
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量		

貯蔵穴2土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量



第4图 第4号住居跡実測图 (1)



第5図 第4号住居跡実測図(2)

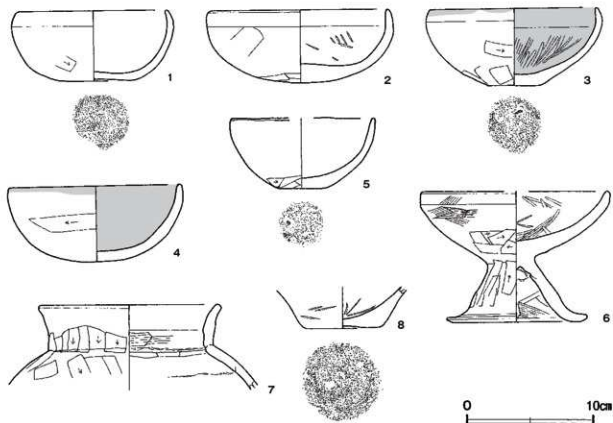
覆土 12層に分層できる。壁際にロームブロックが含まれているが、周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。第13層は貼床の構築土である。

土層解説

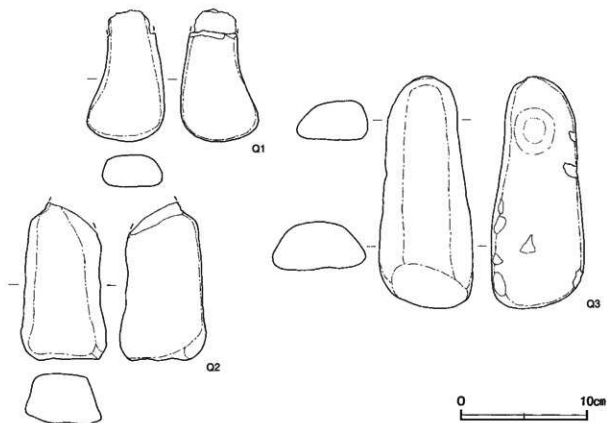
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 13 橙褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片304点(坏55, 碗16, 高坏5, 甕類228), 石器3点(台形石器), 鉄滓1点, 粘土塊3点, 磔4点が, 全面の覆土上層から下層にかけて出土している。3・4は北東部の床面から, 2・7は南西コーナー部の床面から出土している。Q1~Q3は貯蔵穴1の壁に貼り付けられた状態で, 5は貯蔵穴1の覆土上層からそれぞれ出土している。1は北東部と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。6は東部の覆土下層から横位で, 8は中央部東側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から5世紀後葉に比定できる。



第6図 第4号住居跡出土遺物実測図(1)



第7図 第4号住居跡出土遺物実測図(2)

第4号住居跡出土遺物観察表(第6・7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.7	5.5	4.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面剥離 内面直状溝 底部へラ削り残ナデ 底部二次被熱痕	床面	90% PL7
2	土師器	坏	14.1	5.8	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り残ナデ 内面ナデ 二次被熱痕有り	床面	100% PL7
3	土師器	碗	13.1	6.1	4.2	長石・石英・雲母・針状鉱物	浅黄橙	普通	体部外面へラ削り残ナデ 内面へラ磨き 底部外面へラ削り残ナデ 赤彩	床面	95% PL7
4	土師器	碗	13.3	6.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面へラ削り残ナデ 内面ナデ 外・内面直状溝 二次被熱痕 赤彩	床面	95% PL7
5	土師器	碗	[11.2]	5.6	3.6	長石・石英	浅黄橙	不良	外・内面剥離 底部へラ削り残ナデ 赤彩	貯蔵穴1 覆土上層	30% PL7
6	土師器	滴坏	[14.7]	10.4	11.1	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	良好	体部外面へラ削り残ナデ 底部内面直状溝へラミヤク残存 脚部組位のへラ削り 脚部内面毛目調整	覆土下層	80% PL9
7	土師器	甕	14.2	(6.8)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物・黒色粒子	明赤褐	良好	脚部組位のへラ削り残ナデ 底部内面直状溝へラミヤク残存 脚部組位のへラ削り 体部組位のへラ削り	床面	20% PL8
8	土師器	甕	-	(3.3)	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	不良	外面体部ナデ 内面へラナデ 底部ナデ 二次被熱痕	貯蔵穴1 覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	台形石器	(10.5)	6.2	2.6	(207.5)	凝灰岩	断面楕円形 持ち手部欠損	貯蔵穴1 覆土上層	壁面 PL10
Q2	台形石器	(12.6)	6.8	4.1	(544.5)	凝灰岩	断面台形 上部欠損	貯蔵穴1 覆土上層	壁面 PL10
Q3	台形石器	18.5	7.4	3.8	(714.5)	凝灰岩	研磨痕	貯蔵穴1 覆土上層	壁面 PL10

(2) 溝跡

第1号溝跡(第8図)

位置 調査区北部のA10a8～B10a7区、標高39m程の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北端部と南端部が調査区域外へ延びているため、長さ9.25mしか確認できなかった。南西方向

(N - 145° - W)に直線状に延びている。規模は上幅0.97～1.4m,下幅0.44～0.64m,深さ25～57cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

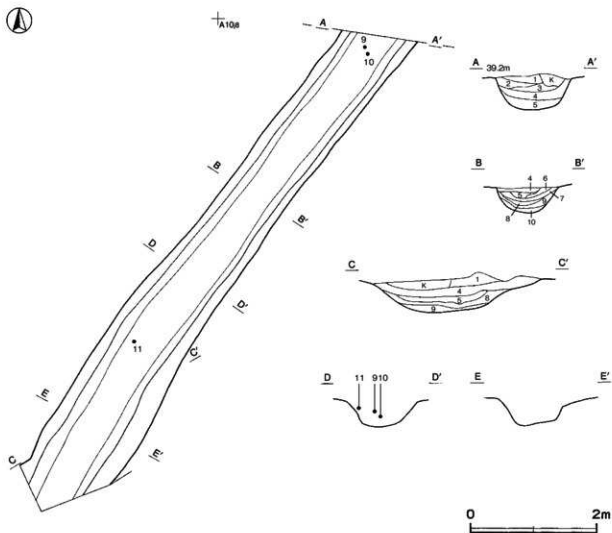
覆土 10層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

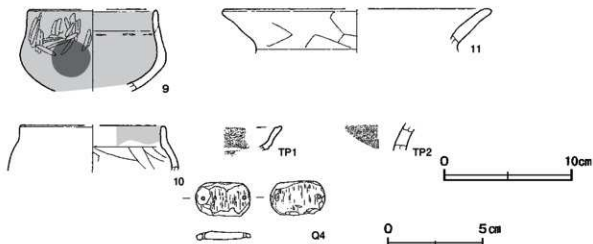
1 黒 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量	7 黒 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
3 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗 褐 色	ロームブロック少量
4 暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化物微量	9 褐 色	ロームブロック多量
5 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	10 黒 褐 色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片259点(坏40, 碗13, 高台付坏2, 壺3, 甕類201), 須恵器片20点(甕1, 壺1, 甕18), 石製品1点(双孔円板)が, 全面の覆土中層から下層にかけて出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片1点(深鉢), 弥生土器片1点(壺), 灰軸陶器片1点(壺)が出土している。10は覆土下層から, 9は覆土中層から, 11は覆土上層からそれぞれ出土している。TP1・TP2, Q, 4は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から5世紀末～6世紀前葉に比定できる。



第8図 第1号溝跡実測図



第9図 第1号溝跡出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	土師器	碗	[10.0]	(6.5)	-	長石・石英	褐色	普通	体部ヘラ削り、底ヘラミ字本、体部内面輪積重底部内面直線、半粒、外面僅柱着	覆土中層	15%
11	土師器	壺	[21.0]	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面斜位のヘラナデ	覆土上層	5%
10	土師器	小型甕	[11.4]	(3.6)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	内面ヘラナデ、口縁部赤彩残存、外・内面二次焼成痕	覆土下層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP1	須恵器	甕	長石	灰	口縁部外面横位の磨蝕或状文（磨面7本）	覆土中	PL9
TP2	須恵器	壺	長石・石英	褐色	胴部外面横位の磨蝕或状文	覆土中	PL9

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	双孔内板	29	1.8	0.5	(4.3)	滑石	両面平滑 表面磨痕	覆土中	PL10

2 奈良時代の遺構と遺物

今回の調査で確認した当時代の遺構は、竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡1棟である。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2号住居跡（第10・11図）

位置 調査区北部のA105区、標高39mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号住居に掘り込まれている。

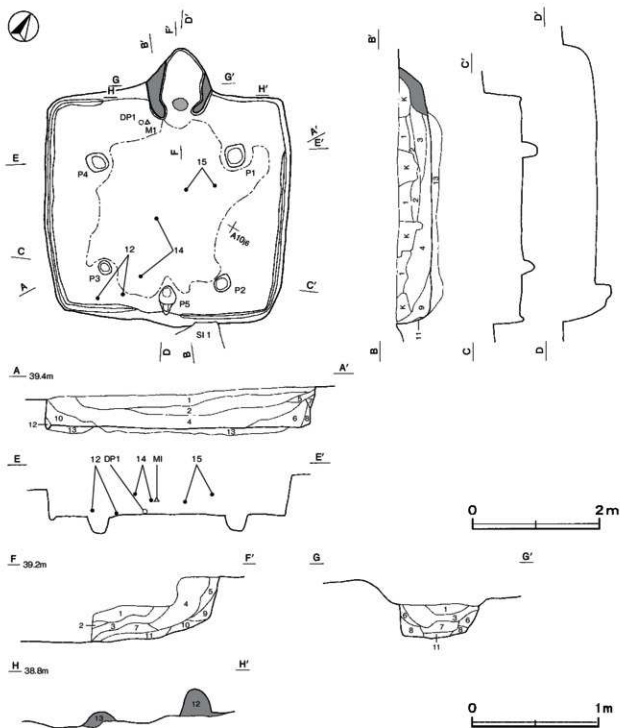
規模と形状 長軸3.90m、短軸3.69mの方形で、主軸方向はN-26°-Wである。壁高は40～60cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は全体をほぼ平坦に掘り込み、ロームブロックを多く含んだ第13層を埋土して構築されている。壁溝が北東コーナー部を除いた壁下に巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで、燃焼部幅は58cmである。袖部は黄褐色土の第12・13層を主体として構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に61cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

遺土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|------------|----------------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 7 灰 褐 色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量、白色粘土ブロック微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・白色粘土ブロック微量 | 8 灰 褐 色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量、白色粘土粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・白色粘土ブロック・炭化物微量 | 9 褐 灰 色 | 白色粘土粒子多量、ローム粒子微量 |
| 4 褐 灰 色 | 白色粘土ブロック多量、ロームブロック微量 | 10 褐 色 | ローム粒子多量 |
| 5 褐 灰 色 | ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量 | 11 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 灰 褐 色 | ロームブロック・白色粘土ブロック少量、炭化物微量 | 12 灰 黄 褐 色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| | | 13 にいり黄褐 | 白色粘土粒子中量、炭化物少量 |



第10図 第2号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ18～27cmで、配置から支柱穴である。P5は南壁際のはほぼ中央に位置していることや、硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

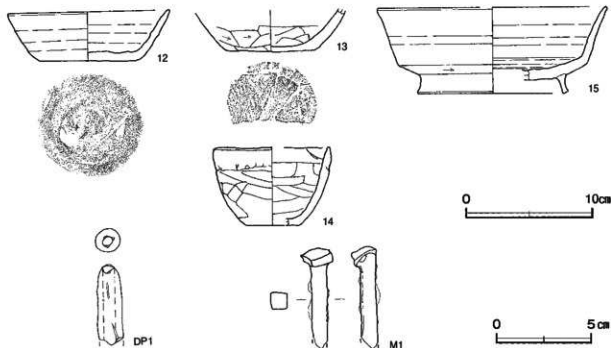
覆土 12層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。第13層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量	7 褐 色	ローム粒子中量
2 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 黒 褐 色	ローム粒子中量
3 黒 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	9 黒 褐 色	ローム粒子少量
4 黒 褐 色	ローム粒子・砂粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒 褐 色	ローム粒子微量
5 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量	11 にぶい褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗 褐 色	ローム粒子少量	12 褐 色	ローム粒子少量
		13 褐 色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片532点(坏109, 椀4, 鉢1, 甕類418), 須恵器片62点(坏30, 高台付坏1, 鉢27, 甕類4), 土製品1点(管状土錘), 鉄製品7点(釘)が全面の覆土上層から下層にかけて出土している。また、混入した灰軸陶器片1点(椀), 陶器片1点(甕類), 磁器片4点(碗)が出土している。DP1は竈左袖前の床面から出土している。M1は竈左袖前の覆土中層から、12は南部壁際の床面から、14は中央部と南部の覆土中層から、それぞれ出土している。15は中央部の覆土中層から、13は北西部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第11図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表 (第11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	須恵器	坏	126	4.0	7.7	長石・石英	黄灰	普通	底部ヘラ削り後ナデ	床面	70% PL7
13	土師器	甕	-	(3.4)	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部内面粗いヘラナデ 互接ナデ 編積痕	覆土中	10%
15	須恵器	高台付坏	[18.1]	6.8	[12.0]	長石・磁礫・黒色粒子	灰	良好	底部右回りの回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土中層	15% PL7
14	土師器	鉢	[9.0]	6.2	[4.2]	長石・石英・磁礫	浅黄橙	普通	外・内面ヘラ削り後ナデ 頭部編積痕	覆土中層	30% PL7

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP1	管状土鉢	(4.3)	1.4	0.6	(5.6)	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	釘	(5.4)	17	0.9	(16.2)	鉄	断面方形	覆土中層	PL10

第3号住居跡 (第12・13図)

位置 調査区北部のA104区、標高39mほどの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第1号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.32mの方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は32～55cmである。

床 平坦な貼床で、壁際まで踏み固められている。貼床は北部と西部を溝状に掘り込み、ロームブロックを多く含む第26・27層を埋土して構築されている。北壁を除いた壁下には壁溝が通っている。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cmで、燃焼部幅は42cmである。両袖とも攪乱を受けているため遺存状態はよくないが、袖部は、15cm程皿状に掘り込み、ロームブロックを含む第11層を埋土とし、その上に白色粘土混じりの第9・10層を主体として、その上に粘土層である第8層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面はわずかに赤変している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰 褐色 焼土粒子少量	7 褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量
2 暗褐色 砂質粘土粒子多量、焼土粒子微量	8 灰褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子微量
3 暗褐色 焼土粒子中量	9 褐色 白色粘土粒子多量、焼土粒子微量
4 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 褐色 白色粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化物微量
5 暗褐色 ロームブロック少量	11 暗褐色 ロームブロック中量
6 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量	

ピット 深さ35cmで、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 25層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示すことから自然堆積である。第26・27層は貼床の構築土である。

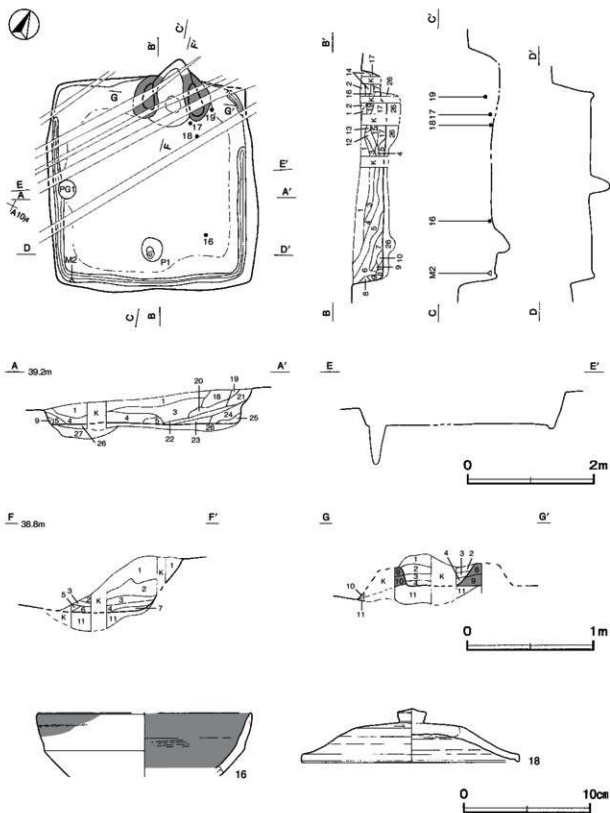
土層解説

1 灰褐色 ロームブロック少量	16 褐色 灰色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量
2 褐色 灰色 ロームブロック少量	17 褐色 灰色 白色粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量	18 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量	19 黒褐色 ロームブロック少量
5 暗褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量	20 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	21 黒褐色 ロームブロック微量
7 黒褐色 ローム粒子微量	22 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
8 にぶい褐色 ローム粒子多量	23 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗褐色 ロームブロック少量	24 暗褐色 ローム粒子中量
10 暗褐色 ローム粒子少量	25 暗褐色 ロームブロック微量
11 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	26 褐色 ロームブロック多量
12 黒褐色 白色粘土ブロック・ローム粒子微量	27 黒褐色 ロームブロック多量、白色粘土ブロック微量
13 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	
14 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	
15 褐色 灰色 白色粘土ブロック多量、ロームブロック微量	

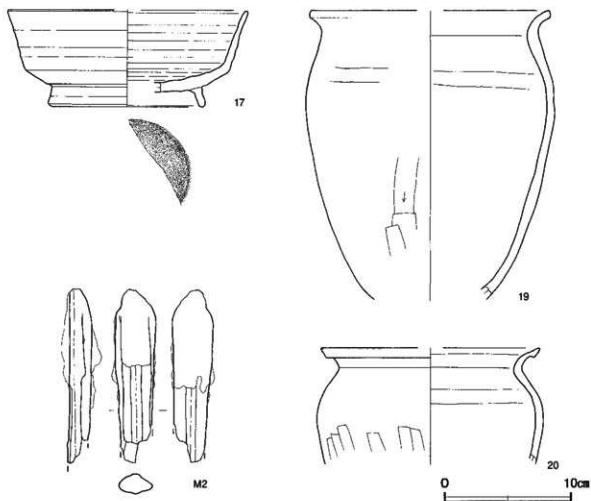
遺物出土状況 土器器片85点(坏3, 椀6, 甕類76), 須臾器片11点(坏5, 高台付坏1, 蓋2, 鉢3), 鉄製品1点(剣カ)が出土している。M2は南西コーナー部から、18は竈右袖前の床面からそれぞれ出土している。16は東コーナー部、17はカマド右袖前の覆土下層から出土している。19は北コーナー部の覆土中層

から、20は覆土中から出土している。また、混入した磁器片2点(碗)が出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉～後葉と考えられる。



第12図 第3号住居跡・出土遺物実測図



第13図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表 (第12・13図)

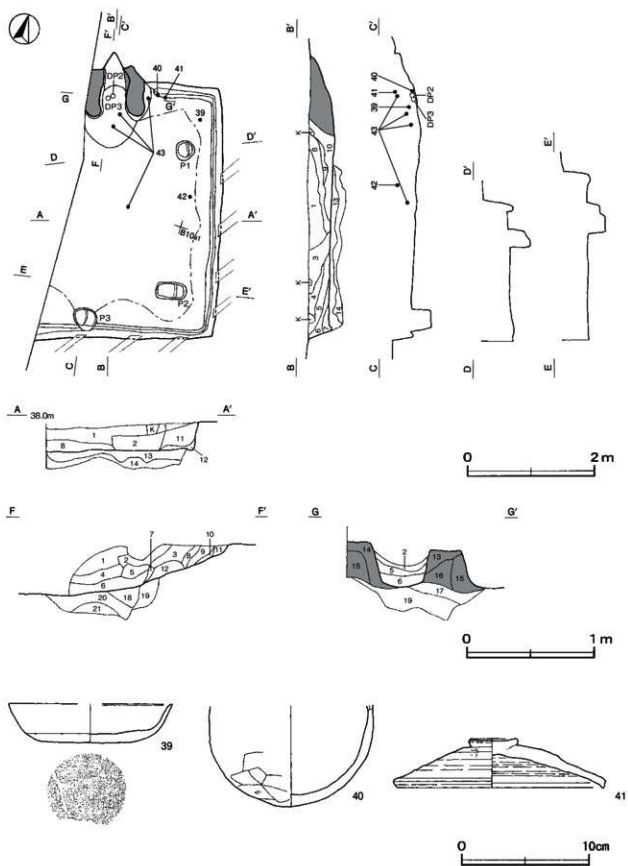
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	土師器	坏	[17.0]	(5.1)	-	長石・石英・雲母・黒色靛子・赤色靛子	橙	普通	内面ヘラミダギ残存 外面摩滅 内面黒色地埋	覆土下層	15%
17	須恵器	高台付坏	[18.9]	7.7	[12.4]	長石・石英・黒曜石・針長磁物	灰	良好	底部回転ヘラ割り後高台貼付け	覆土下層	35% PL.7
18	須恵器	蓋	17.4	4.2	-	長石・石英・黒曜石・針長磁物	黄灰	普通	天井部右回りの回転ヘラ割り後つまみ貼付け	床面	80% PL.9
19	土師器	甕	[18.8]	(23.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面ヘラ割り後ナデ	覆土中層	30% PL.8
20	土師器	甕	[17.2]	(9.2)	-	長石・石英・雲母・赤色靛子	にじい赤褐	普通	体部外面回転位のヘラナデ	覆土中	15% PL.8

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M.2	刺*	(13.8)	3.5	2.9	(96.3)	鉄	断面変形 錆有り 一部欠損	覆土下層	PL.10

第6号住居跡 (第14・15図)

位置 調査区北西部のA 9j0区、標高38mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外に延びているため、南北軸は4.08mで、東西軸は2.75mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は37~43cmで、ほぼ直立している。



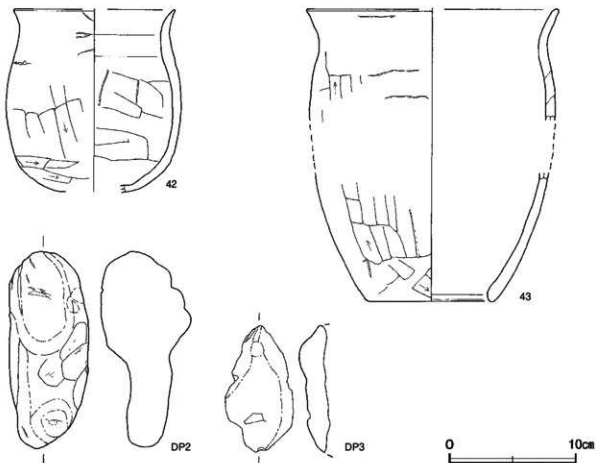
第14图 第6号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦な貼床で、壁際まで踏み固められている。全体を10～20cmの深さで掘り込み、ロームブロックを含む第13・14層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで152cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は、25cmほど床を掘りくぼめたところに粘土ブロックを含む第17～21層を埋土とし、その上に粘土ブロックを含む第15・16層を基部として、その上に粘土ブロックを含む第13・14層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

埋土層解説

- | | | | | | |
|----|--------|--------------------------------|----|--------|----------------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 炭化物少量 | 14 | 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量、粘土ブロック少量 |
| 2 | 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量 | 15 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 | 灰褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | 粘土粒子多量、炭化粒子中量 | 17 | 暗褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 5 | 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量 | 18 | 橙褐色 | 炭化粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 6 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 19 | にぶい褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 7 | にぶい褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック少量 | 20 | 黒褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック中量 |
| 8 | 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 21 | 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子中量 |
| 9 | 暗灰色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量 | | | |
| 10 | 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | | | |
| 11 | 褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量 | | | |
| 12 | 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量 | | | |
| 13 | 灰黄色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | | | |



第15図 第6号住居跡出土遺物実測図

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ32cm・28cmで、配置から支柱穴と考えられる。P 3は深さ30cmで南壁際の中央部と推定される箇所位置していることや、硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層に分層できる。レンズ状に堆積しているが、ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第13・14層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量	8 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物・焼土粒子・炭化粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	9 極暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
3 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量	10 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量、焼土粒子微量
4 黒 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐 色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
5 黒 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 黒 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6 黒 褐 色	ロームブロック少量	13 黒 褐 色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック微量
7 黒 褐 色	ロームブロック中量	14 に近い褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片92点(坏19, 碗1, 高坏1, 甕類69, 小形甕1, 甌1), 須恵器片4点(坏2, 蓋2), 土製品2点(支脚)が出土している。また混入した縄文土器片3点(深鉢)が出土している。40は竈東側の床面から、39は北東コーナー部の覆土下層から、41は竈東側、42は中央部東側の覆土上層からそれぞれ出土している。43は竈焚口部、竈右袖部、中央部の覆土上層から中層にかけて出土した破片による接点のない同一個体である。DP 2とDP 3は竈煙道部から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。

第6号住居跡出土遺物観察表(第14・15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
39	須恵器	坏	[130]	31	6.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	外・内面ナデ 底部ヘラ削り後ナデ	覆土下層	40% PL7
40	土師器	碗	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り後ナデ 内面鏡状研削 二次被熱痕	床面	70% PL7
41	須恵器	蓋	16.4	3.9	-	長石・石英・細礫	灰	良好	天舟部右回りの回転ヘラ削り後つまみ貼付け	覆土上層	55% PL9
42	土師器	小形甕	[126]	[14.5]	-	長石・石英・細礫	灰黄褐	良好	体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ 体部下縁縦位のヘラ削り 体部輪縁痕	覆土上層	30% PL9
43	土師器	甌	[198]	[23.2]	9.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り後ナデ 内面ナデ 体部輪縁痕	覆土上層～中層	30% PL8

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 2	支脚	15.7	6.4	7.2	244.5	雲母・砂粒	ヘラナデ 指頭痕	煙道部	PL10
DP 3	支脚	(10.0)	(5.4)	(2.5)	(45.7)	雲母・砂粒	ナデ 一部欠損	煙道部	

第9号住居跡(第16・17図)

位置 調査区中央部のB 9 9区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 北部を第13号土坑に、南部を第1号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.22m、短軸3.76mの長方形で、主軸方向はN-37°-Wである。壁高は10～15cmで、ほぼ直立している。

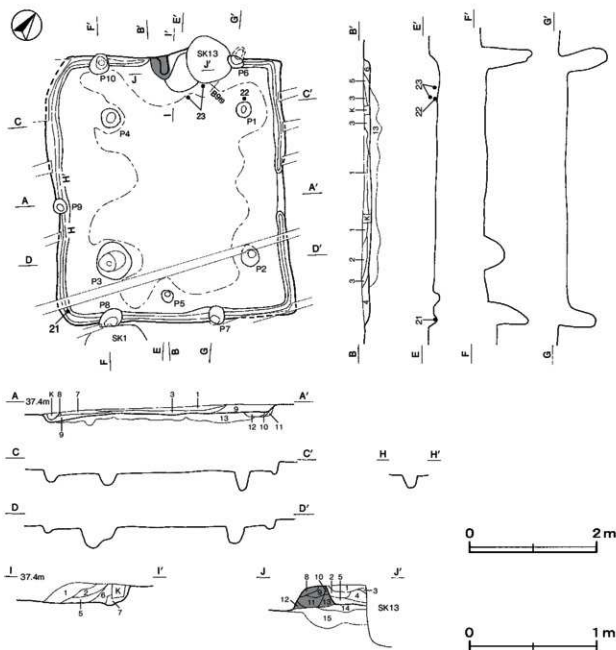
床 ほぼ平坦な貼床で、竈前から南部壁際にかけての中央部が踏み固められている。貼床は全体をほぼ平坦に掘り込み、ロームブロックを含む第10～13層を埋土して構築されている。壁下には、東壁下の中央部を除き壁溝が巡っている。

竈 北壁のほぼ中央部に付設されている。右袖部を第13号土坑に掘り込まれている。規模は焚口部から煙道

部まで70cmで、攪乱のため燃焼部幅は40cm程度しか確認できていない。左袖部はロームブロックを含む第14・15層を埋土とし、その上に白色粘土を含む第8～13層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面はわずかに赤変しているが硬化は弱い。煙道部は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1 褐灰色 白色粘土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 灰白色 白色粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黄灰色 白色粘土ブロック多量、焼土ブロック、炭化物微量 | 9 黒褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 3 褐灰色 白色粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 10 灰白色 白色粘土粒子多量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量 | 11 褐色 ロームブロック多量、白色粘土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 焼土ブロック・焼土粒子少量、白色粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 灰黄色 白色粘土粒子多量、ローム粒子・白色粘土粒子微量 |
| 6 褐灰色 ローム粒子・白色粘土粒子微量 | 13 濃い赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・白色粘土粒子微量 |
| 7 明黄褐色 黄褐色粘土粒子多量 | 14 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック微量 |
| | 15 明褐色 ロームブロック多量、鹿沼パミスブロック微量 |



第16図 第9号住居跡実測図

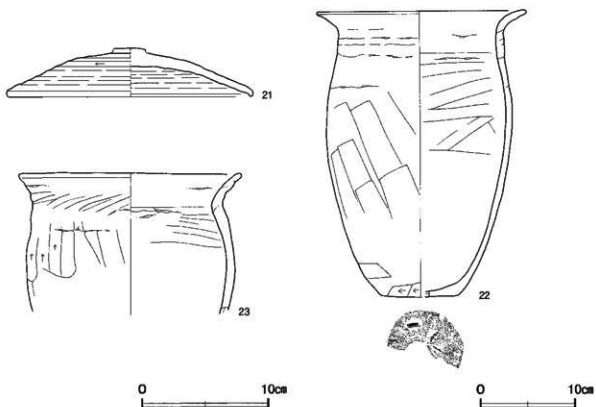
ピット 10か所。P 1～P 4は深さ15～35cmで、配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ10cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P10は確認面からの深さが20～80cmで、配置から壁柱穴と考えられる。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第10～13層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミ
ス粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミス粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・鹿沼バミス
粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 灰褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子・鹿沼バミス粒子
微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・
炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック、焼土
粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片30点(坏5、甕類25)、須恵器片6点(蓋1、甕類5)、土製品2点(管状土錘、羽口)、磁器片1点(碗)、鉄滓1点、粘土塊5点、礫7点が出土している。21は南コーナ一部壁溝から、22は北東コーナ一部床面からそれぞれ出土している。23は竈前の覆土中層から出土した破片が接合したものである。
所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第17図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表 (第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	須恵器	蓋	19.2	(3.9)	-	長石・石英・黒色粒子	浅黄	普通	天井部左回りの回転へり削り	壁溝	70% PL9
22	土師器	壺	21.4	30.0	8.1	長石・石英・黒粒	褐	普通	体部斜位のへり削り後ナデ 底部ヘラナデ 内面斜位のヘラナデ 体部輪轡痕	床面	70% PL8
23	土師器	壺	17.7	(11.3)	-	長石・石英・黄緑・針状鉱物	にぶい黄緑	良好	体部外面斜位の棒状圧痕 体部外面斜位のへり削り 内面ナデ 頸部・上縁部輪轡痕	覆土中層	30% PL8

第12号住居跡 (第18・19図)

位置 調査区中央部のC9c6区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.15m、短軸3.90mの方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は18~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が窪み固められている。貼床は中央部を深く掘り込み、第9~14層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。上部を幅の広いトレンチャーで攪乱されており遺存状態はよくないが、規模は焚口部から煙道部まで約79cmで、燃焼部幅は約62cmである。袖部は白色粘土を主体とする第8~15層を積み上げて構築されている。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

1	褐灰色	白色粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	9	黒褐色	炭化粒子中量、白色粘土粒子・ロームブロック少量
2	灰褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・白色粘土粒子微量	10	にぶい黄褐色	焼土ブロック・白色粘土粒子・炭化粒子少量
3	褐灰色	白色粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子微量	11	褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・白色粘土粒子微量
4	暗褐色	炭化物・ローム粒子・白色粘土粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子中量、鹿沼パミス粒子少量、白色粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量
5	暗褐色	焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量	13	褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・白色粘土粒子・鹿沼パミス粒子少量
6	暗褐色	白色粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	14	暗褐色	炭化物多量、白色粘土粒子・ロームブロック微量
7	黒褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	15	橙褐色	炭化物多量、白色粘土ブロック中量・鹿沼パミス粒子少量、ロームブロック微量
8	にぶい黄褐色	白色粘土粒子・炭化粒子少量			

ピット 9か所。P1~P4は深さ17~50cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ24cmで、南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6~P9は深さ10~18cmで性格は不明である。

覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第9~14層は貼床の構築土である。

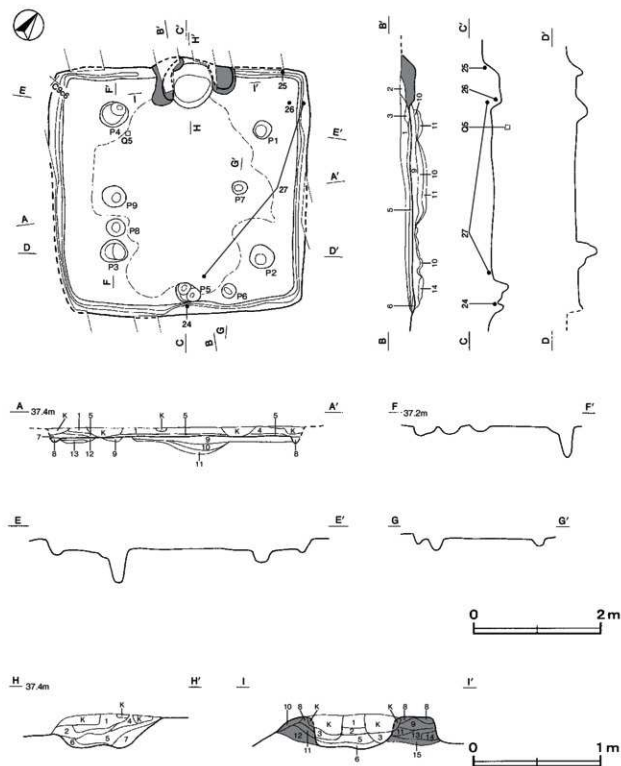
土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・鹿沼パミス粒子微量	9	明褐色	ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量、炭化粒子少量、炭化物微量
2	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	10	明褐色	ロームブロック・炭化物・鹿沼パミス粒子少量
3	褐灰色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	11	黄褐色	炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量
4	黒褐色	鹿沼パミスブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	12	明褐色	炭化粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13	明褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック微量	14	明褐色	鹿沼パミスブロック多量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
7	黒褐色	ロームブロック少量			
8	明褐色	鹿沼パミスブロック多量・ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量			

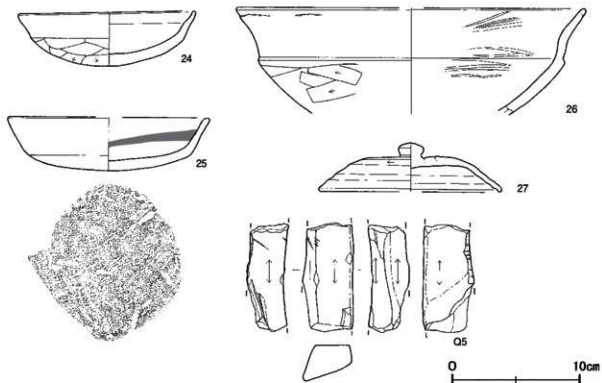
遺物出土状況 土師器片215点(坏17, 甕類198), 須恵器片33点(坏18, 蓋3, 鉢8, 小形壺1, 甕3), 石器3点(砥石)が出土している。また、混入した磁器片1点(碗)が出土している。甕類を中心とする土

師器片 215 点は、全面の覆土上層から下層にかけて出土している。24 は南部の壁溝から逆位で、25 は北コーナー部の壁溝から出土している。26、Q 5 は貼床の構築土から出土している。27 は南部の覆土下層と北東壁溝から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。



第 18 図 第 12 号住居跡実測図



第19図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表(第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
24	土師器	杯	13.9	4.4	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	内面ナデ 底部へう張り後ナデ	壁溝	90% PL7
25	土師器	杯	[15.8]	4.3	-	長石・石英・雲母・黒色粘土	にぶい	良好	内面ナデ 底部へう張り 内面保付着	壁溝	65% PL7
26	土師器	杯	[27.6]	(8.5)	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい	良好	体部へう張り 内面ナデ後横位のヘラミガキ 口縁部輪極痕		胎体構築土 5%
27	須恵器	蓋	[14.2]	3.4	-	長石・雲母・針状鉱物・黒色粘土	黄灰	良好	天舟部左回りの回転へう張り後つまみ胎付け	覆土下層	40% PL9
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q5	磁石	(8.6)	4.1	3.3	(118.7)	砂岩	底面4面	他は破断面	側面研ぎ痕		胎体構築土 PL10

表2 奈良時代竪穴住居跡一覧表

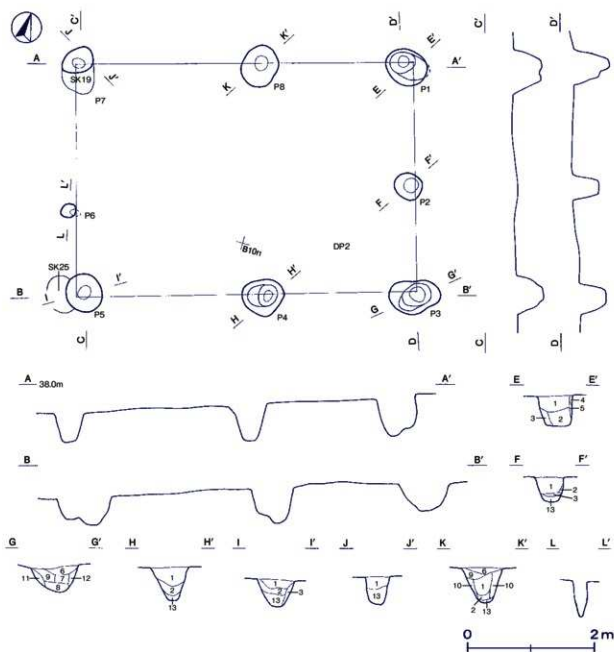
番号	位置	平面形	主軸方向	規模		床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)	
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)			土坑	土入口	ピット	貯蔵					竪穴
2	A105	方形	N-26°-W	3.90×3.69	40~60	平田	はけ 全周	4	1	-	1	-	自然	土師器、須恵器、土製品、鉄製品	8世紀後半	SI 1→本跡
3	A103	方形	N-18°-W	3.32×3.32	32~55	平田	はけ 全周	-	1	-	1	-	自然	土師器、須恵器、鉄製	8世紀中葉~後葉	本跡→PG1
6	A90	[長方形]	N-16°-W	4.08×(2.75)	37~43	平田	全周	2	1	-	1	-	人為	土師器、須恵器、土製品	8世紀前半	
9	B99	長方形	N-37°-W	4.22×3.76	10~15	平田	はけ 全周	4	1	5	1	-	人為	土師器、須恵器、土製品、磁器、鉄器	8世紀後半	本跡→SK1-13
12	C9e6	方形	N-45°-W	4.15×3.90	18~22	平田	全周	4	1	4	1	-	人為	土師器、須恵器、石器	8世紀中葉	

(2) 掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡(第20・21図)

位置 調査区中央部のB9e0区、標高38mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第19・25号土坑を掘り込んでいる。



第20図 第2号独立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-74°-Eの東西棟である。規模は桁行5.40m、梁行3.60mで、面積は19.44㎡である。柱間寸法は、桁行が西妻から3.00m(10尺)・2.40m(8尺)で梁行は、西妻が北平から2.40m(8尺)・1.20m(4尺)で、東妻が1.80m(6尺)である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径22~78cm、短径20~58cmである。深さは43~60cmである。

覆土 13層に分層できる。第1層は抜き取り後の覆土。第10層は埋土である。

土層解説

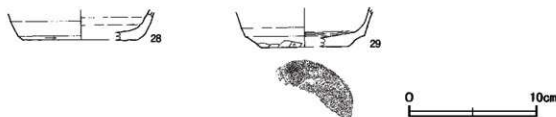
- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック微量 |

- 9 暗褐色 ロームブロック中量
10 黒褐色 ローム粒子微量
11 黒褐色 ロームブロック少量

- 12 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
13 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片20点(甕類),須恵器片6点(坏3,甕3)が出土している。28はP4の覆土中から、29はP1の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後半と推定される。



第21図 第2号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
28	須恵器	坏	-	(23)	19.0	長石	灰	普通	体部下端・底部右回りの回転ヘラ削り	P4覆土中	10%
29	須恵器	坏	-	(31)	16.8	長石・石英・組織・針状産物	灰	普通	底部ヘラ削り 底面ヘラナタ 二次底面	P1覆土中	15%

3 平安時代の遺構と遺物

今回の調査で確認した当時代の遺構は、竪穴住居跡6軒、竪穴遺構1基、粘土探掘坑2か所、土坑11基である。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡(第22・23図)

位置 調査区北部のA10j6区、標高39mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号住居跡を掘り込み、第1号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.31m、短軸2.26mの長方形で、主軸方向はN-6°-Eである。壁高は3~11cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際まで踏み固められている。壁溝は確認できなかった。

竈 北壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は70cmである。袖部は地山を6cmほど掘りくぼめたところに、ロームブロック混じりの第19層を埋土とし、その上に砂質粘土混じりの第16~18層を積み上げて構築されている。火床部は床面から6cmほど皿状に掘り込まれ、火床面は赤変硬化しており、内壁も赤変している。煙道部は壁外に72cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子微量
2 にいみ褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量
3 明赤褐色 炭化物・焼土粒子少量
4 褐色 粘土ブロック・砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
5 明赤褐色 焼土粒子多量、炭化物少量
6 にいみ褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量

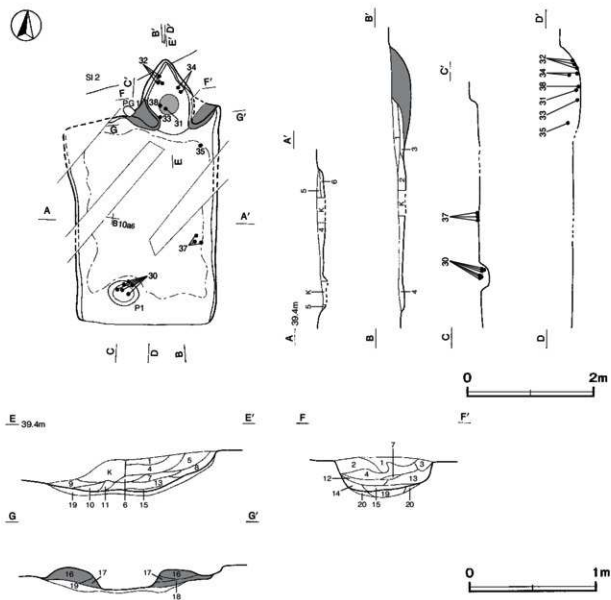
- | | | | | | |
|----|--------|-----------------------------|----|--------|-------------------------|
| 7 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 15 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量 |
| 8 | 赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 16 | 明褐色 | 砂質粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 9 | 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・焼土粒子微量 | 17 | 明褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 10 | 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 18 | にぶい橙色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 11 | 赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 19 | 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 12 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子少量 | 20 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 13 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | | | |
| 14 | 明赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | | | |

ピット 深さ15cmで、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋戻されている。

土層解説

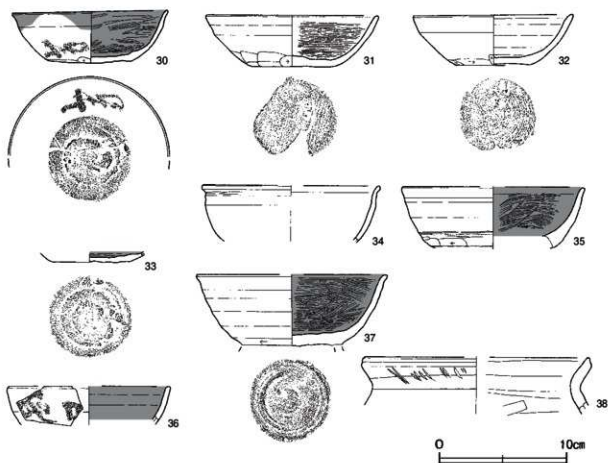
- | | | | | | |
|---|-----|------------------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 | 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 | 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |



第22図 第1号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片 139 点 (坏 43, 輪 1, 高台付坏 1, 甕類 94), 須恵器片 3 点 (坏), が出土している。また混入した縄文土器片 3 点 (深鉢) も出土している。31, 32, 33, 34, 38 は竈火床部の覆土下層から, 37 は中央部の床面から, 35 は北東部の覆土下層から, 36 は覆土中からそれぞれ出土している。30 は P1 の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第 23 図 第 1 号住居跡出土遺物実測図

第 1 号住居跡出土遺物観察表 (第 23 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
30	土師器	坏	12.3	4.3	6.6	長石・石英・細礫・針状炭物	にぶい黄褐色	普通	内面ヘラミガキ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ 外・内面黒色処理 外面体部下端に墨書「ナ」	P1 覆土中層	85% PL6
31	土師器	坏	13.6	4.1	6.5	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	内面ヘラミガキ 底部回転ヘラ削り後ナデ	火床部	70% PL7
32	土師器	坏	12.6	4.1	6.0	長石・苦母・細礫・黒色粒子	にぶい橙	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転系切り後ヘラナデ	火床部	50% PL7
33	土師器	坏	-	(0.9)	6.5	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面ロクロナデ内面ヘラミガキ 底部回転ヘラ切り 内面黒色処理	火床部	20%
34	土師器	坏	[13.9]	(4.5)	-	長石・石英・細礫・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面細礫	火床部	20%
36	土師器	坏	[12.8]	(3.1)	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外・内面ロクロナデ 内面黒色処理 体部外面に横線で「高月」の墨書	覆土中	5% PL6
35	土師器	輪	[14.2]	(4.9)	[10.0]	長石・石英・細礫・針状炭物	にぶい黄褐色	良好	内面ヘラミガキ 体部下端回転ヘラ削り後ナデ 内面黒色処理 縁直線	覆土下層	15%
37	土師器	高台付坏	[15.0]	(5.7)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面ロクロナデ 内面ヘラミガキ 底部左回りの回転ヘラ削り後高台貼付け 内面黒色処理	床面	50% PL7
38	土師器	甕	[17.8]	(4.5)	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面粗いヘラナデ 器部外面斜位の工具痕	火床部	10%

第5号住居跡(第24図)

位置 調査区南西部のC9b4区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南東部が削平されているため、北西・南東軸2.73m、北東・南西軸2.62mしか確認できなかった。形状は方形もしくは長方形で、主軸方向はN-33°-Eと推定される。壁高は5~8cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化面、壁溝は確認できない。

ピット 深さ10cmで、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

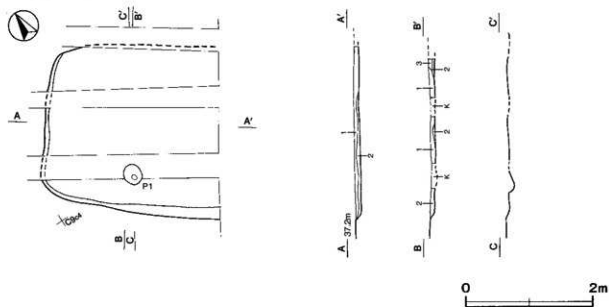
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
2 褐色 ローム粒子中量

3 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片14点(坏6、甕類8)が出土している。陶器片2点(碗)、磁器片1点(碗)も出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 出土土器が細片のため時期の確定は困難であるが、覆土中から出土している坏の様相から9世紀以降と推定される。



第24図 第5号住居跡実測図

第7号住居跡(第25図)

位置 調査区北部のB10a1区、標高38mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.60m、短軸3.25mの長方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は3cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、踏み固められていない。北東コーナー部の壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けているため遺存状態は悪く、規模は焚口部から煙道部まで約97cmで、燃焼部幅は約40cmしか確認できなかった。袖部は地山を掘り残して基部とし、その上にロームブロック混じりの第3層を積み上げて構築されている。左袖は攪乱を受け遺存しない。火床面の赤変は認められない。

竈土層解説

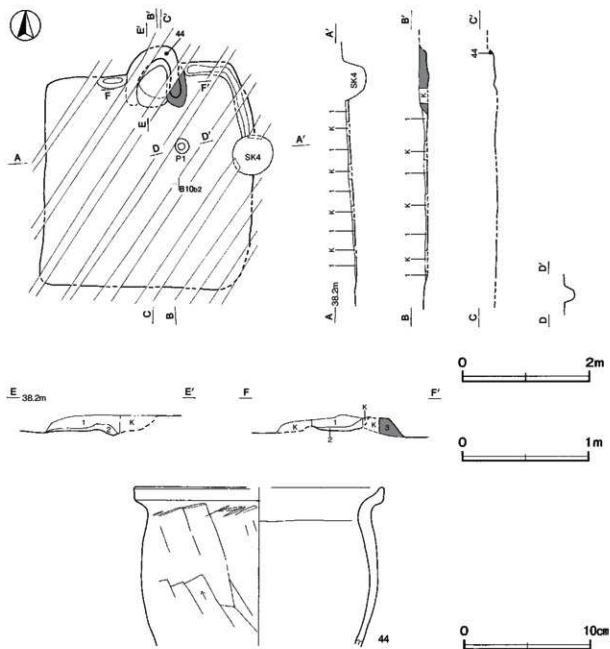
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

ピット 深さ18cmで性格は不明である。

覆土 単一層である。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミス粒子・七本桜パミス微量



第25図 第7号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片71点(坏32, 甕類39), 須恵器片5点(甕)が出土している。44は竈の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後半に比定できる。

第7号住居跡出土遺物観察表(第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴ほか	出土位置	備考
44	土師器	甕	[19.5]	(127)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	体部ヘラ削り残痕いへラナデ 内面ナデ 胴部 工具痕	竈覆土下層	15%

第8号住居跡(第26図)

位置 調査区北東部のB10d2区, 標高38mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 攪乱を受けているが, 規模は北東・南西軸3.85m, 北西・南東軸2.70mの長方形と推定でき, 長軸方向はN-31°-Eである。壁高は5~9cmで, 外傾して立ち上がっている。

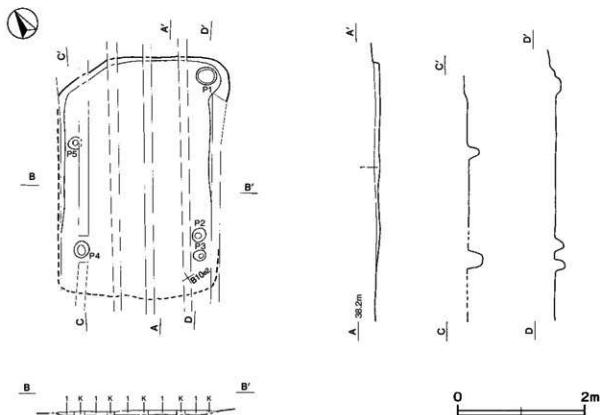
床 ほぼ平坦で, 硬化面は認められない。

覆土 単一層である。層厚が薄いため, 堆積状況は不明である。

土層解説

1 陶 色 ロームブロック少量, 泥沼パミス粒子・七本椀パミス微量

ピット 5か所。P1~P5は深さ10~34cmで, P4・P5は配置から主柱穴の可能性が考えられる。P1~P3は性格は不明である。



第26図 第8号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片 29 点 (坏 13, 甕類 16), 土製品 1 点 (紡錘車カ) が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 出土土器が細片のため時期の確定は困難であるが、覆土中から出土している坏の様相から 9 世紀以降と推定される。

第 10 号住居跡 (第 27 図)

位置 調査区中央部東側の B 9 9 区、標高 37 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 96 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺 4.03 m の方形で、主軸方向は N - 27° - W である。壁高は 8 ~ 20 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。北コーナー部を除いた壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで約 97 cm で、燃焼部幅は 47 cm しか確認できなかった。右袖部は粘土ブロックを含む 18 層の上に、粘土を主体とした第 15・16・17 層を積み上げて構築されている。左袖部は攪乱を受け遺存状態は良くないが、白色粘土を含む黒褐色土の第 14 層の上に、粘土を主体とした第 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変、硬化はともに認められない。煙道部は壁外に 29 cm 掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰 黄 色	白色粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック微量	10 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 にぶい橙 色	焼土ブロック・白色粘土ブロック・ローム粒子微量	11 灰 褐 色	焼土ブロック少量、ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子微量
3 暗 褐 色	焼土ブロック少量、ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化物微量	12 暗 褐 色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量、白色粘土ブロック微量
4 黒 褐 色	白色粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量	13 灰 黄 褐 色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
5 黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	14 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子少量、炭化物・白色粘土粒子微量
6 にぶい褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・白色粘土粒子微量	15 黄 褐 色	焼土粒子微量
7 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子微量	16 灰 褐 色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・白色粘土粒子微量
8 黒 褐 色	ロームブロック少量、白色粘土ブロック微量	17 暗 灰 黄 色	炭化物微量
9 黒 褐 色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	18 にぶい黄褐色	粘土ブロック・焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量

ピット 6 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 28 ~ 40 cm で、配置から主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 28 cm で、南壁際のほぼ中央に位置していることや、硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は位置から壁柱穴と考えられる。

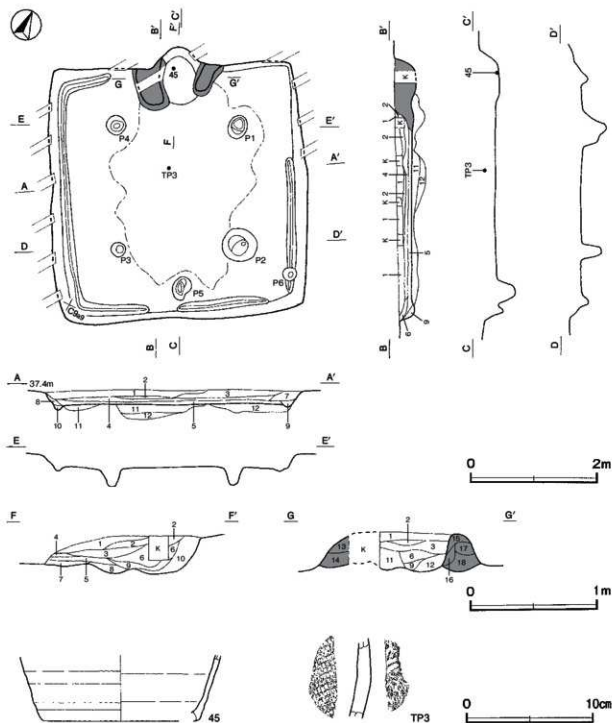
覆土 10 層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。第 11・12 層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量	7 黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・鹿沼バミスブロック微量
2 灰 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、砂質粘土粒子微量	8 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・鹿沼バミス粒子微量
3 黒 褐 色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量	9 黒 褐 色	ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量
4 黒 褐 色	ロームブロック少量、鹿沼バミス粒子微量	10 暗 褐 色	ロームブロック微量
5 黒 褐 色	ロームブロック・鹿沼バミス粒子微量	11 黒 褐 色	ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量
6 黒 褐 色	ロームブロック微量	12 褐 色	ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量

遺物出土状況 土師器片 130 点 (坏 13, 甕類 117), 須恵器片 14 点 (坏 7, 蓋 1, 甕類 6) が出土している。45 は竈煙道部から、TP 3 は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第27図 第10号住居跡・出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表(第27図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
45	須恵器	杯	-	(5.2)	(12.3)	長石・石英	灰	普通	体部下縁回転へラ削り	遺構遺物 層上下層	10%
TP3	須恵器	甕	長石・石英			灰			体部外面格子印き 内面同心円文の当て具痕	覆土上層	5%

第11号住居跡 (第28・29図)

位置 調査区中央部東寄りのC 9b8区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号堅穴遺構、第62号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東半部が調査区域外に延びており、北東部を第62号土坑と第1号堅穴遺構に掘り込まれているため、北東・南西軸2.86m、北西・南東軸2.48mしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形と推定され、主軸方向はN-35°-Wである。壁高は10~20cmで、外傾して立ち上がっている。

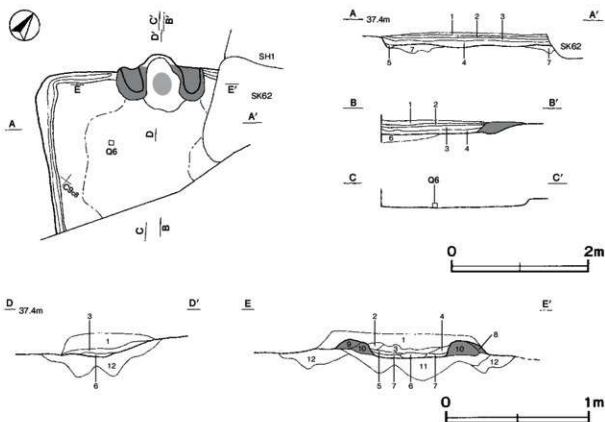
床 平坦な貼床で、竈前が踏み固められている。確認できる壁下には壕溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで89cmで、燃焼部幅は53cmである。袖部は火床部を18cmほど掘りくぼめたところに、ロームブロックを含む第11・12層を埋土とし、その上に粘土を主体とした第8~10層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

埋土層解説

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 灰褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 白色粘土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 3 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・粘土粒子微量 | 9 灰白色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・粘土粒子微量 | 10 褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 5 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子微量 | 11 黒色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック・焼土粒子微量 |
| 6 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 明褐色 ロームブロック中量 |

覆土 5層に分層できる。水平に堆積しており、各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第6・7層は貼床の構築土である。



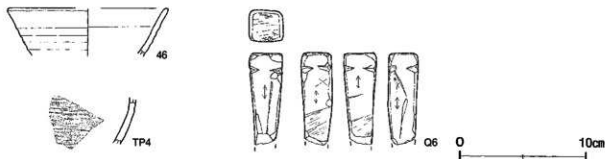
第28図 第11号住居跡実測図

土層解説

1	黒褐色	白色粘土ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量	4	黒色	ロームブロック・鹿沼バミス粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック・鹿沼バミスブロック微量	5	暗褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック少量、白色粘土ブロック・鹿沼バミスブロック微量	6	明赤褐色	鹿沼バミス粒子中量、炭化粒子微量
			7	黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・白色粘土ブロック・鹿沼バミスブロック少量

遺物出土状況 土師器片33点(坏4, 甕類29), 須恵器片3点(坏1, 甕2), 石器2点(砥石)が出土している。Q6は中央部北西寄りの床面から、46とTP4は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第29図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表(第29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
46	須恵器	坏	[126]	(3.8)	-	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	外・内面ロクロナデ	覆土中	5%
番号	種別	器種	胎土		色調	手法の特徴ほか		出土位置	備考		
TP4	須恵器	甕	長石・石英		相灰	体部横位の平行押し		覆土中	PL9		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q6	砥石	(73)	2.5	2.5	(63.3)	凝灰岩	紙面5面 掘り縁用削み 研磨痕 下半部欠損		床面	PL10	

表3 平安時代堅穴住居一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				土質	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)	面積(m ²)				柱穴	土入口	ピロ	竈				
1	A106	長方形	N-6°-E	3.31	2.26	3~11	平坦	-	-	1	1	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	重複関係(古→新)
5	C964	[長方形]	N-33°-E	(2.73)	(2.62)	5~8	平坦	-	-	1	-	-	人為	土師器	9世紀21段	SK2→本跡→PG1
7	B1061	方形	N-2°-E	3.60	3.25	3	平坦	一部	-	1	1	-	不明	土師器, 須恵器	9世紀後葉	本跡→SK4
8	B1042	[長方形]	N-31°-W	[3.85]	[2.70]	5~9	平坦	-	3	-	2	-	不明	土師器, 土製品	9世紀21段	
10	B999	方形	N-27°-W	4.04	4.03	8~20	平坦	ほぼ全周	4	1	1	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀後葉	SK06→本跡
11	C968	[方形] [長方形]	(N-33°-W)	(2.86)	(2.48)	10~20	平坦	全周	-	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	9世紀中葉	本跡→SH1, SK02

(2) 堅穴遺構

第1号堅穴遺構(第30図)

位置 調査区中央部南寄りのC9a8区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第11号住居跡を掘り込み、第62号土坑・第3号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区外に延びているため、東西軸は4.95mで、南北軸は4.10mしか確認できなかった。平面形は長方形と推定される。深さは10cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化した床は認められなかった。

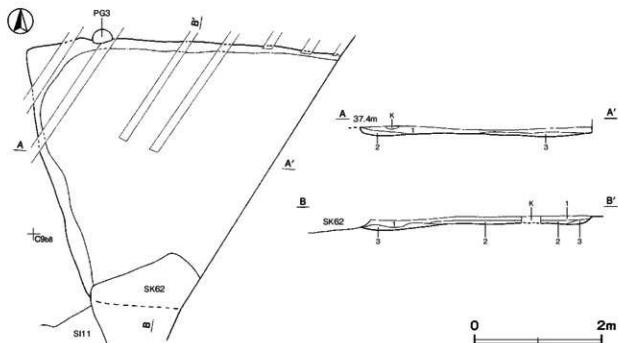
覆土 3層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭沼バミスブロック少量 | 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭沼バミス粒子微量 |
| 3 明褐色 ロームブロック中量、炭沼バミスブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片56点(坏7, 碗1, 甕類48), 須恵器片4点(坏1, 甕類3)が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、内面に黒色処理を施した土師器坏が出土していることから、9世紀以降と考えられる。確認できた範囲では、竈や炉がなく、床が踏み固められた形跡も薄いことから、住居以外の施設と考えられる。



第30図 第1号堅穴遺構実測図

(3) 粘土採掘坑

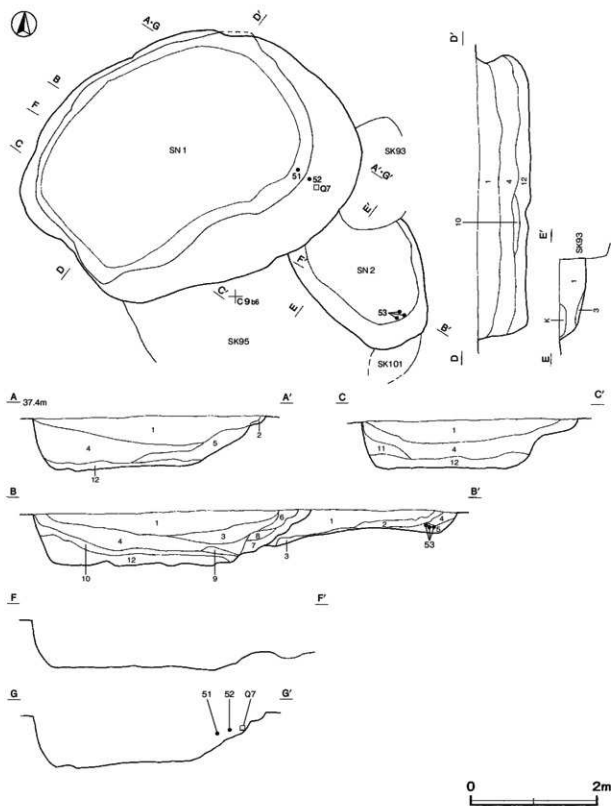
第1号粘土採掘坑 (第31・32図)

位置 調査区中央部南寄りのC9a5区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号粘土採掘坑、第93・95号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径4.82m、短径4.02mの楕円形で、長径方向はN-57°-Eである。深さは80cm程度で、粘土採掘のための窪みが各所に認められるが、底面はほぼ平坦である。北壁は内傾して立ち上がり、北西壁から南西壁にかけては外傾して立ち上がっている。北東壁から南東壁にかけては緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 12層に分層できる。各層にロームブロックが含まれているが、周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。



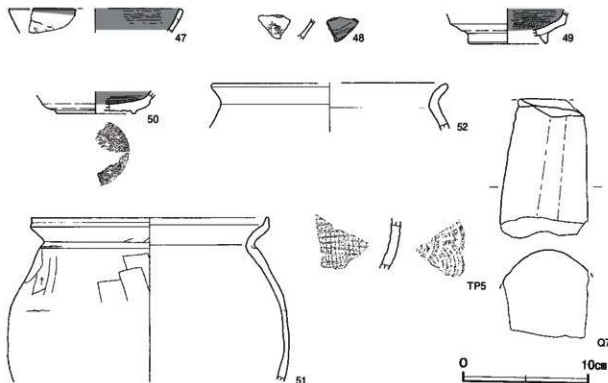
第31図 第1・2号粘土採掘坑実測図

土層解説

1 黒 褐色	粘土ブロック・鹿沼パミス粒子少量、ロームブロック・炭化物微量	7 暗 褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・鹿沼パミスブロック少量
2 黒 褐色	鹿沼パミスブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量	8 浅 黄 色	粘土ブロック中量、ローム粒子微量
3 黒 褐色	ロームブロック・粘土ブロック・鹿沼パミスブロック・炭化物微量	9 浅 黄 色	粘土ブロック多量
4 黒 褐色	ロームブロック・粘土ブロック・鹿沼パミスブロック少量	10 黒 褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子・鹿沼パミス粒子微量
5 黒 褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量	11 黒 褐色	ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量、粘土粒子微量
6 黒 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量	12 黒 褐色	ロームブロック・粘土ブロック・鹿沼パミスブロック少量

遺物出土状況 土師器片 337点（坏55、高台付坏2、皿1、蓋4、甕頸275）、須恵器片 50点（坏31、壺2、甕17）、石製品1（支脚）、鉄製品2点（釘）が、全面の覆土中層～下層にかけて出土している。また、混入した縄文土器片10点（鉢）が出土している。51・52、Q7は東壁際の覆土中層から、47～50、TP5は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第32図 第1号粘土採掘坑出土遺物実測図

第1号粘土採掘坑出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
47	土師器	坏	[138]	(19)	-	長石・石英・雲母	灰青褐色	普通	体部外面磨き「割説不明」内面黒色処理	覆土中	5% PL6
48	土師器	坏	-	(16)	-	石英	にぶい黄褐色	普通	体部外面磨き「高ガ」内面ヘラミガキ 内面黒色処理	覆土中	5% PL6
49	土師器	高台付坏	-	(27)	[6.1]	長石・石英・雲母	にぶい暗褐色	普通	内面ヘラミガキ 内面黒色処理	覆土中	10%
50	土師器	高台付坏	-	(18)	[6.2]	長石・石英・雲母	にぶい暗褐色	普通	内面ヘラミガキ 内面黒色処理	覆土中	10%
51	土師器	甕	190	(132)	-	長石・石英・雲母・彩色粒子・赤色粒子	にぶい暗褐色	普通	胴部斜位のヘラ磨り工具痕 胴部輪積痕 体部外面縦位のヘラ磨り痕	覆土中層	25% PL8
52	土師器	甕	[186]	(38)	-	長石・石英・雲母	にぶい暗褐色	普通	内・外面ナデ	覆土中層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	須恵器	甕	長石・石英	褐色	体部外面格子叩き 内面同心円文の当て具痕	覆土中	PL9

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q7	支脚	(11.1)	(7.0)	(7.0)	(843)	泥質凝灰岩	二面に被熱痕	覆土中層	PL10

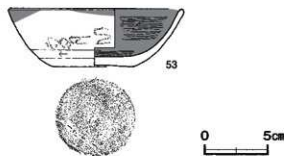
第2号粘土探掘坑 (第31・32図)

位置 調査区中央部南寄りのC9a6区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第95・101号土坑を掘り込み、第1号粘土探掘坑・第93号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第1号粘土探掘坑と第93号土坑に掘り込まれているため、北西・南東径は2.34mで、南西・北東径は1.88mしか確認できなかった。長径方向がN-29°-Wの楕円形と推定される。深さは30～55cmで、粘土探掘のための掘り込みが各所に認められ、底面は第1号粘土探掘坑方向に緩やかに傾斜している。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。



第33図 第2号粘土探掘坑出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片23点(坏1, 甕22)、須恵器片5点(坏3, 甕2)が出土している。53は南部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。

第2号粘土探掘坑出土遺物観察表 (第33図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
53	土師器	坏	13.5	4.6	6.2	長石・石英・赤色 磁子	明黄褐色	普通	内面ヘタミガキ 底部左回りの回転ヘタ張り 内面黒色処理 体部外面に垂書(高月庵*)	覆土下層	80% PL6

表4 平安時代粘土探掘坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
SN1	C9a5	N-57°-E	楕円形	4.82×4.02	76-85	平照	外傾・緩斜	人為	土師器、須恵器、鉄製品、土製 品	SK93・95 SN2→本跡
SN2	C9a6	N-29°-W	[楕円形]	(2.31)×1.88	30-55	平照	外傾	人為	土師器、須恵器	SK95・101→本跡→SK93, SN1

(4) 土坑

第1号土坑 (第34図)

位置 調査区中央部のB9g9区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第9号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 1.65 m、短軸 1.06 m の長方形で、長軸方向は N - 49° - W である。深さは 37cm で、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

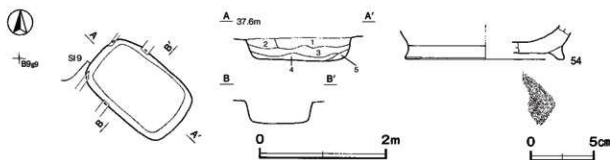
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 12 点（坏 6、甕類 6）、須恵器片 1 点（短頭壺）が出土している。54 は覆土中から出土している。また、陶器片（壺）も出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀代と考えられる。



第 34 図 第 1 号土坑・出土遺物実測図

第 1 号土坑出土遺物観察表（第 34 図）

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
54	須恵器	短頭壺	-	(27)	[12.4]	長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転へうすり様高台船付け	覆土中	5%

第 3 号土坑（第 35 図）

位置 調査区中央部の B 9 団区、標高 37 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 0.30 m の円形である。深さは 28cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

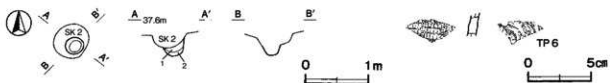
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含むことから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-------|------------------|-------|-------------------|

遺物出土状況 土師器片 1 点（甕類）、須恵器片 1 点（甕類）が出土している。TP 6 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀代と考えられる。



第 35 図 第 3 号土坑・出土遺物実測図

第3号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 6	須恵器	甕類	長石・細糠	灰	体部外面格子印き 内面同心円式の当て具痕	覆土中	

第5号土坑 (第36図)

位置 調査区北部のA10j5区、標高39mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.66m、短径0.55mの楕円形で、長径方向はN-76°-Eである。深さは45cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

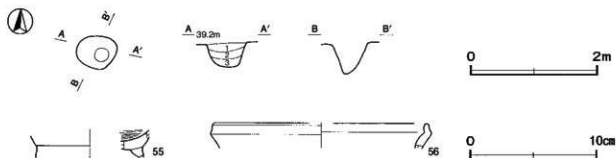
覆土 3層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 3 黒褐色 色 焼土ブロック・ローム粒子微量
 2 黒褐色 色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片13点(坏4、高台付坏1、甕類8)、須恵器片1点(甕)が出土している。55・56は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と推定される。



第36図 第5号土坑・出土遺物実測図

第5号土坑出土遺物観察表 (第36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
55	土師器	高台付坏	-	(23)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラミガキ 高台貼付け	覆土中	5%
56	土師器	甕	[170]	(20)	-	長石・雲母	に濃い赤褐色	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土中	5%

第6号土坑 (第37図)

位置 調査区北部のB10a5区、標高39mほどの平坦な台地上に位置している。

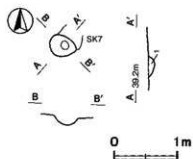
重複関係 第7号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.43m、短径0.28mの楕円形で、長径方向はN-78°-Wである。深さは11cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 色 ローム粒子・焼土粒子微量



第37図 第6号土坑実測図

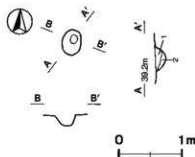
遺物出土状況 土師器片5点(坏1, 甕類4)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、内面に黒色処理が施された土師器坏が出土していることから、9世紀以降と考えられる。

第9号土坑 (第38図)

位置 調査区北部のA105区、標高39mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.41m、短径0.32mの楕円形で、長径方向はN-18°-Eである。深さは16cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。



第38図 第9号土坑実測図

覆土 2層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片3点(坏2, 甕類1)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、内面に黒色処理が施された土師器坏が出土していることから、9世紀以降と考えられる。

第10号土坑 (第39図)

位置 調査区北部のA104区、標高39mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.52m、短径0.44mの不整楕円形で、長径方向はN-51°-Eである。深さは70cmで、底面の北東部はピット状に掘り込まれている。壁は東部は外傾し、西部は内傾して立ち上がっている。

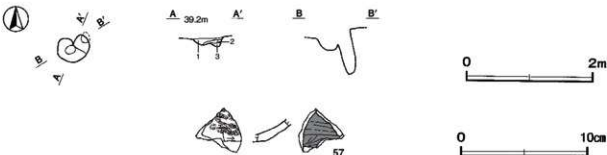
覆土 3層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片4点(坏3, 甕類1)が出土している。57は覆土中から出土している。

所見 時期は、内面に黒色処理が施された土師器坏が出土していることから、9世紀以降と考えられる。



第39図 第10号土坑・出土遺物実測図

第10号土坑出土遺物観察表 (第39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
57	土師器	坏	-	(18)	-	長石・石英	にぶい橙	良好	内面ヘラミガキ 底部埋没のヘラ刮り 内面黒色処理 底部外面に筆書(内容不明)	覆土中	5% PL6

第16号土坑 (第40図)

位置 調査区中央部の北側のB 9c9区、標高38mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.50m、短径0.46mの円形である。深さは29cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

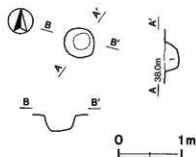
覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片2点(坏、甕類)が覆土中から出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、内面に黒色処理が施された土師器坏が出土していることから、9世紀以降と考えられる。



第40図 第16号土坑実測図

第54号土坑 (第41図)

位置 調査区中央部のB 9j7区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北西部は攪乱を受けているため長軸1.43m、短軸0.78mしか確認できなかった。長方形と推定され、長軸方向はN-35°-Eである。深さは10cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

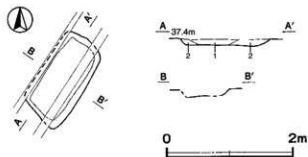
覆土 2層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼パミスブロック・ローム粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点(坏)が出土しているが、遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、内面に黒色処理が施された土師器坏が出土していることから、9世紀以降と考えられる。



第41図 第54号土坑実測図

第74号土坑 (第42図)

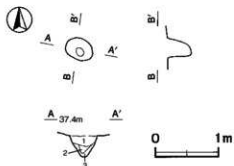
位置 調査区南部のC 9b7区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.44m、短径0.33mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。深さは32cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっており、南部はほぼ直立している。

覆土 3層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量
3 暗褐色 鹿沼パミスブロック少量、ロームブロック・粘土ブロック微量



第42図 第74号土坑実測図

遺物出土状況 土師器片4点(坏1, 甕頸3)が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、内面に黒色処理が施された土師器坏が出土していることから、9世紀以降と考えられる。

第95号土坑 (第43・44図)

位置 調査区中央部南寄りのC9b6区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

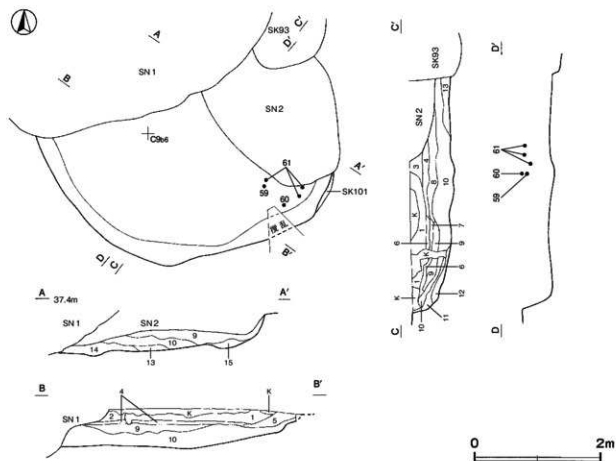
重複関係 第101号土坑を掘り込み、第1・2号粘土採掘坑と第93号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第1・2号粘土採掘坑に掘り込まれているため、北東・南西径は330m、北西・南東径は255mしか確認できなかった。楕円形と推定される。深さは67cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 15層に分層できる。各層にロームブロックが含まれているが、周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

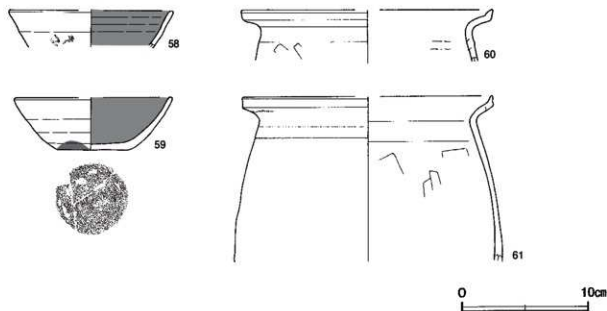
- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・鹿沼パミスブロック・炭化物微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 10 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・鹿沼パミスブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量 | 11 暗褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 4 浅黄色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック微量 |
| 6 灰褐色 | 炭化物少量、粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック・鹿沼パミス粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・鹿沼パミスブロック少量 | | |



第43図 第95号土坑実測図

遺物出土状況 土師器片 75 点 (坏 19, 甕類 56), 須恵器片 6 点 (坏 5, 甕類 1) が出土している。また, 混入して陶器片 1 点 (碗) が出土している。59・60 は覆土上層から, 58 は覆土中からそれぞれ出土している。61 は覆土上層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 44 図 第 95 号土坑出土遺物実測図

第 95 号土坑出土遺物観察表 (第 44 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
58	土師器	坏	[112.8]	(3.0)	-	長石・石英・雲母	に高い黄褐色	普通	内・外面ロウナデ 内面黒色処理 体部外面磨位の黒書「(假説本)」	覆土中	5% PL6
59	土師器	坏	[12.4]	4.2	5.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ 内面黒色処理	覆土上層	50% PL7
60	土師器	甕	[19.9]	(4.2)	-	長石・石英・細砂・赤色粒子・黒色粒子・針状結晶物	に高い橙	普通	体部磨位のヘラ削り後ナデ 内面輪積痕	覆土上層	5%
61	土師器	甕	[19.8]	(13.1)	-	長石・石英・細砂	橙	普通	内面磨位のヘラナデ 口縁部外面輪積痕 外面磨	覆土上層	10%

第 100 号土坑 (第 45 図)

位置 調査区中央部南寄りの C 9a6 区, 標高 37 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複 第 93・99 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部を第 93 号土坑, 南部を第 99 号土坑に掘り込まれているため, 長径 2.78 m, 短径 1.57 m しか確認できなかった。長径方向が N - 48° - W の楕円形と推定される。深さは 10cm で, 底面は平坦である。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

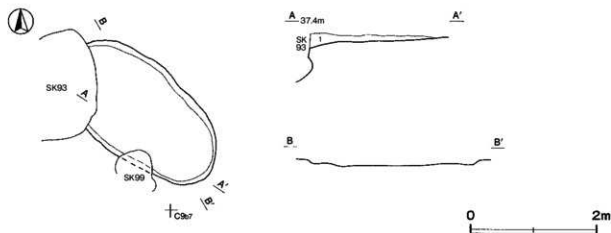
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・鹿沼バミズブ
ロック微量

遺物出土状況 土師器片 8 点 (坏 2, 甕類 6) が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は, 内面に黒色処理が施された土師器坏が出土していることから, 9 世紀以降と考えられる。



第45図 第100号土坑実測図

表5 平安時代の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	B9a9	N-49°-W	長方形	1.65 × 1.06	37	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器	SI 9 → 本跡
3	B9b9	-	円形	0.30 × 0.30	28	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SK 2 → 本跡
5	A105	N-76°-E	楕円形	0.66 × 0.55	45	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	
6	B10a5	N-78°-W	楕円形	0.43 × 0.28	11	皿状	緩斜	自然	土師器	SK 7 → 本跡
9	A105	N-18°-E	楕円形	0.41 × 0.32	16	皿状	緩斜	自然	土師器	
10	A104	N-51°-E	楕円形	0.52 × 0.44	70	皿状	外傾・内傾	自然	土師器	
16	B9c9	-	円形	0.50 × 0.46	29	平坦	外傾	人為	土師器	
54	B97	N-35°-E	[長方形]	1.43 × [0.78]	10	平坦	外傾	自然	土師器	
74	C967	N-58°-W	楕円形	0.44 × 0.33	32	皿状	外傾・直立	自然	土師器	
95	C9a6	-	[楕円形]	(2.55) × (3.30)	67	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SK101 → 本跡 → SN1・2, SK93
100	C9a6	N-48°-W	[楕円形]	(2.78) × 1.57	10	平坦	緩斜	人為	土師器	本跡 → SK93・99

4 その他の遺構と遺物

遺構に伴う出土遺物がないことから、時期を決定できない掘立柱建物跡1棟、溝跡1条、井戸跡2基、土坑106基、ピット群3か所が存在する。以下、これらのうち特徴的な遺構については文章で記述し、それ以外の遺構については実測図と一覧表を掲載する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第46図)

位置 調査区北部のB10a3区、標高38mほどの平坦な台地上に位置している。

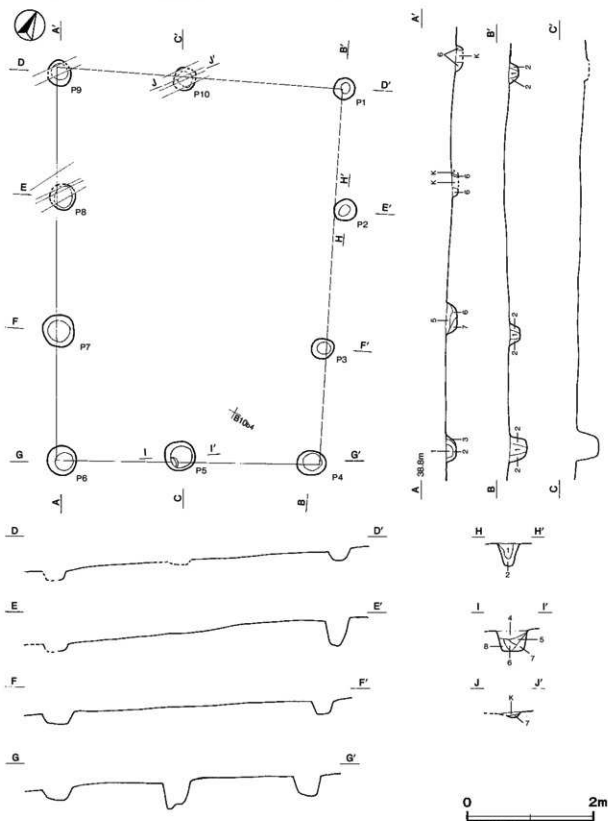
規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-25°-Wの南北棟である。規模は桁行6.30m(21尺)、梁行は、北妻が4.50m(15尺)で、南妻が4.20m(14尺)で、面積は27.405㎡である。柱間寸法は、桁行が2.1m(7尺)で、梁行は、北妻が西平から2.10m(7尺)、2.40m(8尺)で、南平は2.10m(7尺)である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形で、長径30～52cm、短径29～50cmである。深さは10～45cmである。

覆土 8層に分層できる。第1層は抜き取り後の覆土、第2層は掘方への埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量 |



第46図 第1号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 混入した土師器片 13 点（坏 1・甕類 11, 手捏 1）が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、判定できる出土遺物がないため不明である。

(2) 井戸跡

第 1 号井戸跡 (第 47 図)

位置 調査区中央部の B 9 8 区, 標高 37 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 確認面は、長径 2.45m, 短径 2.00m の楕円形である。確認面から 1.3m まで漏斗状に掘り込み、下部は径 0.92m の円筒状に掘り下げている。2.07m まで掘り下げた時点で壁面の崩落が想定されたため、下部の調査を断念した。

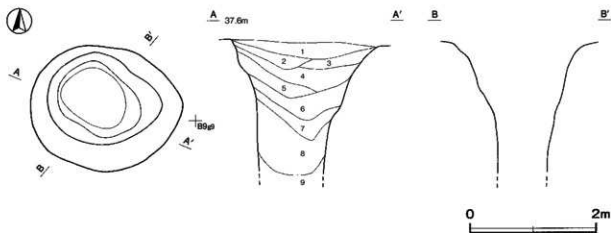
覆土 9 層に分層できる。ロームブロックや白色粘土ブロックを含んだ不自然な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

1 灰 褐色	細礫多量, 粘土ブロック中量, ローム粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量
2 にふい潰れ色	白色粘土ブロック多量, ローム粒子微量	7 褐色	ローム粒子多量
3 黒 褐色	白色粘土ブロック少量, ローム粒子微量	8 黒 褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック微量
4 にふい潰れ色	白色粘土ブロック中量, ローム粒子微量	9 黒 褐色	不明
5 にふい潰れ色	白色粘土ブロック多量, ロームブロック少量		

遺物出土状況 混入した土師器片 4 点（甕類）が覆土中から出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、覆土が埋め戻されており、出土遺物が混入であることから不明である。



第 47 図 第 1 号井戸跡実測図

第 2 号井戸跡 (第 48 図)

位置 調査区中央部東寄りの B 9 6 区, 標高 37 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 直径 1.10m ほどの円形で、円筒状に掘り込まれている。1.91m まで掘り下げた時点で、壁面の崩落が想定されたので、下部の調査を断念した。

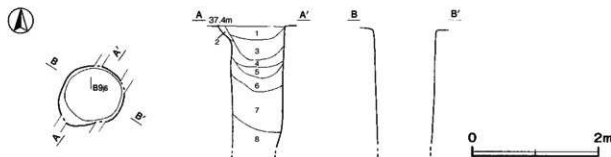
覆土 8 層に分層できる。細礫やロームブロック、粘土ブロックが含まれる不自然な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック多量 | 6 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 3 黒色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | 細礫中量、ロームブロック少量 |
| 4 黒色 | 細礫多量、ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 混入した土師器片16点(坏7, 甕類8, 瓶1), 陶器片1点(甕), 灰軸陶器片1点(椀), 石器1点(台形石器)が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、覆土が埋め戻されており, 出土遺物が混入であることから不明である。



第48図 第2号井戸跡実測図

表6 時期不明の井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	B98	N-90°	楕円形	2.45×2.00	(207)	扁平状 円筒状	不明	人為	土師器	
2	B96	-	円形	1.08×1.00	(191)	円筒状	不明	人為	土師器, 陶器, 石器	

(3) 溝跡

第2号溝跡 (第49図)

位置 調査区北部のA10h1～A10i1区, 標高39mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第68・71号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北端部を第68号土坑, 南端部を第71号土坑に掘り込まれているため, 長さは5.22mしか確認できなかった。A10h1区から南西方向(N-51°-E)に直線的に延び, A90j区で湾曲して南東方向(N-45°-W)にA10j2区までほぼ直線的に延びている。上幅0.26～0.55m, 下幅0.11～0.25m, 深さ16～25cmである。断面形はU字状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子・砂粒子少量, ローム粒子微量 | 2 褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 砂粒子微量 |
|-------|---------------------|------|------------------------|

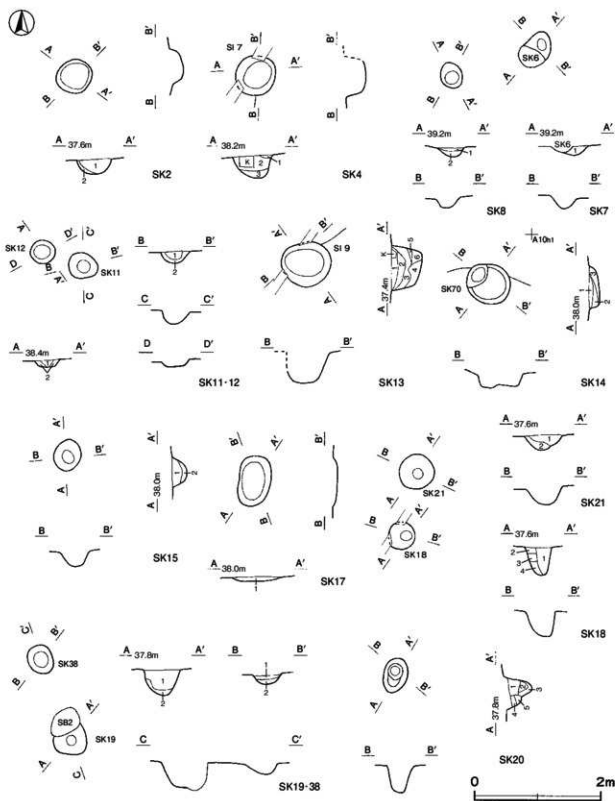
所見 時期は, 判定できる出土遺物がないため不明である。



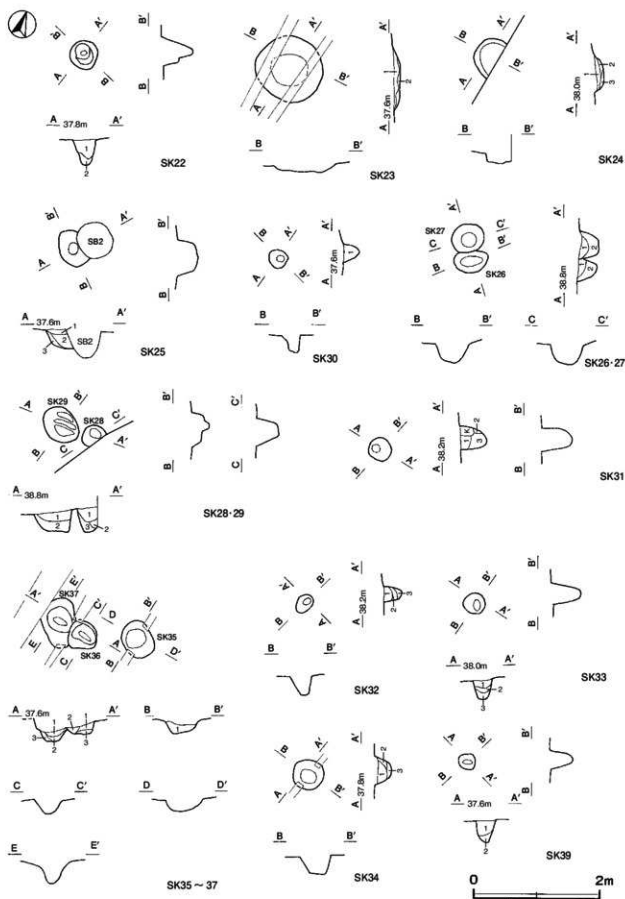
第49図 第2号溝跡実測図

(4) 土坑

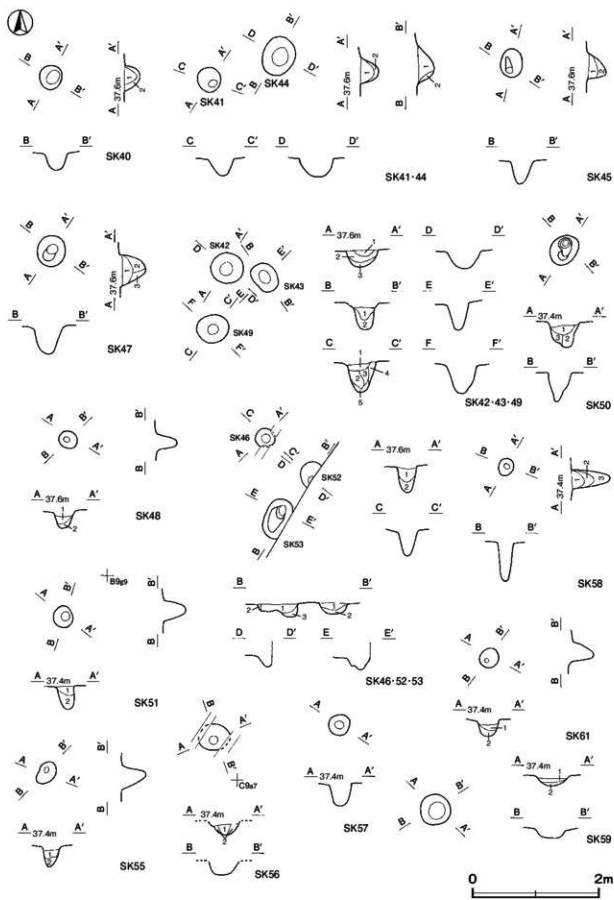
今回の調査で、時期不明の土坑 106 基を確認した。ここでは、それらの遺構の実測図と土層解説、一覧表を掲載する。



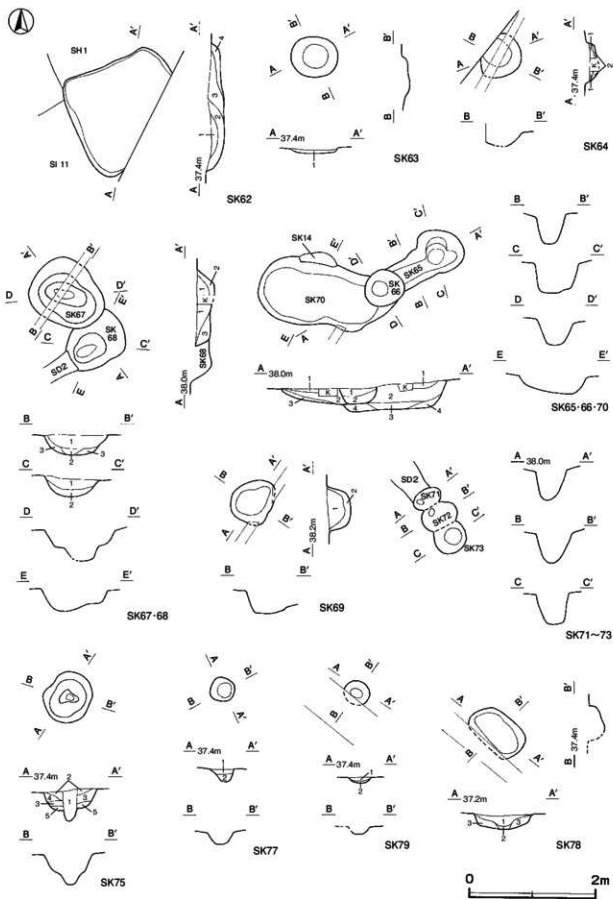
第 50 図 時期不明の土坑実測図 (1)



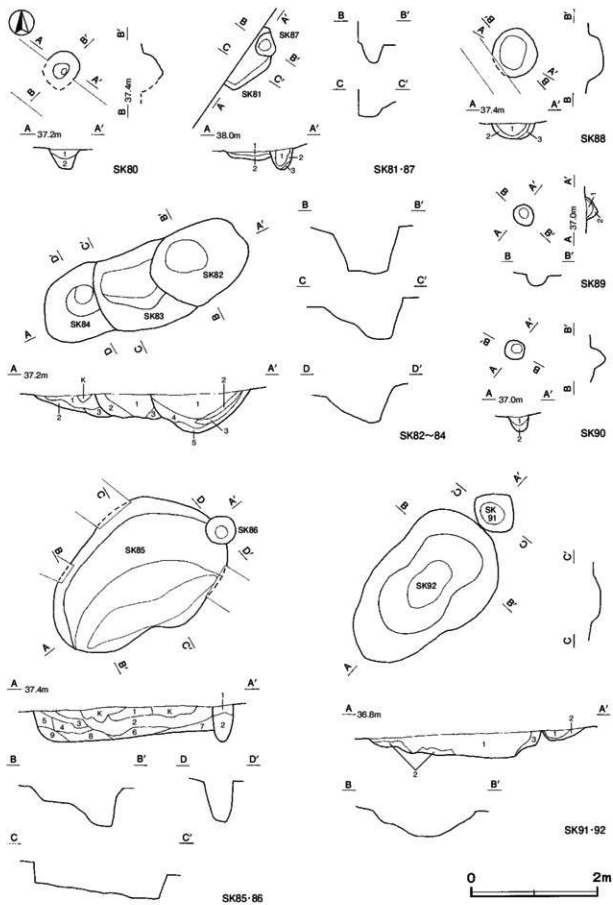
第51図 時期不明の土坑実測図(2)



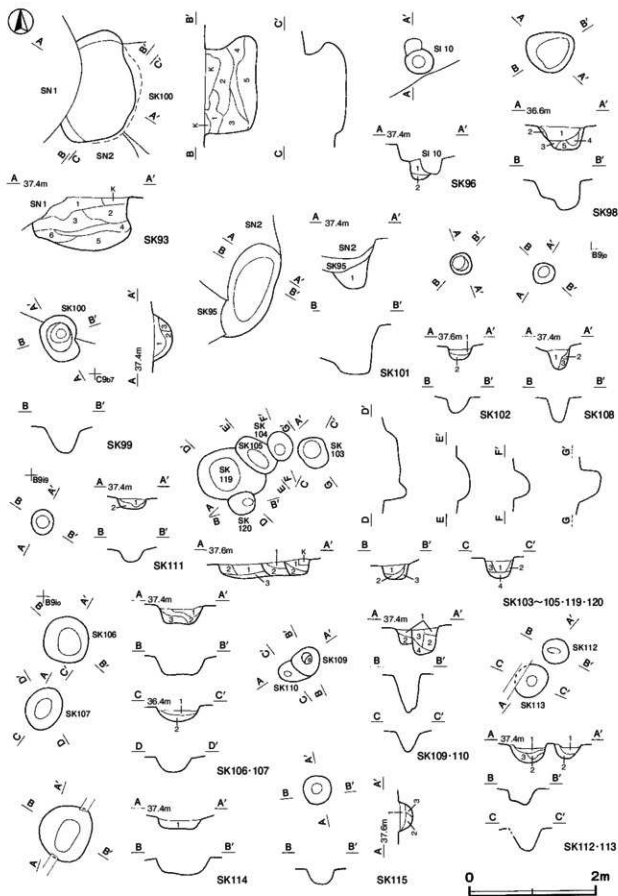
第 52 図 時期不明の土坑実測図 (3)



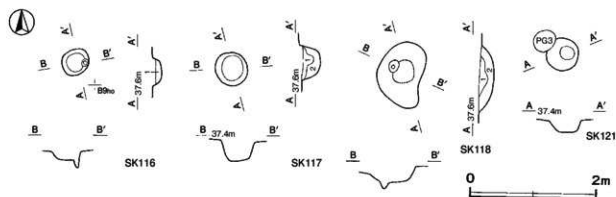
第 53 図 時期不明の土坑実測図 (4)



第54図 時期不明の土坑実測図(5)



第55図 時期不明の土坑実測図(6)



第56図 時期不明の土坑実測図(7)

第2号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第4号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・七本桜粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 七本桜粒子微量

第7号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第11号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミス粒子・七本桜粒子微量

第12号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 七本桜粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 鹿沼バミス粒子・七本桜粒子微量

第13号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 砂質粘土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 白色粘土ブロック少量, ローム粒子・七本桜粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック・七本桜粒子微量
- 6 黒褐色 白色粘土ブロック・ローム粒子・七本桜粒子微量

第14号土坑土層解説

- 1 黒褐色 白色粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・七本桜粒子微量

第15号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・白色粘土粒子・七本桜粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・七本桜粒子少量, 白色粘土粒子微量

17号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化材少量

第18号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第19号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

第20号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第21号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・七本桜粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・七本桜粒子微量

第22号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・炭化材微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第23号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック中量

第24号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 2 褐色 炭化物少量
- 3 明褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子微量

第26号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 明褐色 炭化物中量

第27号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 明褐色 炭化物中量

第28号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第29号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第30号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第31号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 明褐色 炭化粒子中量

第32号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 明褐色 炭化粒子中量

第33号土坑土層解説

- 1 黒褐色 砂粒中量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・砂粒少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第34号土坑土層解説

- 1 褐色 砂粒中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 砂粒中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量

第35号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子微量

第36号土坑土層解説

- 1 明褐色 炭化粒子少量
- 2 褐色 炭化粒子少量
- 3 明褐色 炭化粒子微量

第37号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量
- 2 明褐色 炭化物少量
- 3 明褐色 炭化粒子微量

第38号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量

第39号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第40号土坑土層解説

- 1 明褐色 炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
- 2 明褐色 炭化粒子微量

第41号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第42号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、鹿沼バミス粒子微量

第43号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第44号土坑土層解説

- 1 褐色 砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第45号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・焼土粒子微量

第46号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・七本桜粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、七本桜粒子微量

第47号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ローム粒子中量

第48号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス粒子・七本桜粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第49号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・七本桜粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・七本桜粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・七本桜粒子微量
- 4 黒褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・七本桜粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、七本桜粒子微量

第50号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・七本桜粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、七本桜粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・七本桜粒子少量

第51号土坑土層解説

- 1 褐灰色 焼土ブロック中量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量

第52号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス粒子・七本桜粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

第53号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、鹿沼バミス粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック・七本桜粒子微量

第55号土坑土層解説

- 1 褐灰色 ローム粒子・砂質粘土粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第56号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐灰色 ローム粒子・炭化粒子少量

第58号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、白色粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第59号土坑土層解説

- 1 褐灰色 砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子微量

第61号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子少量

第62号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・鹿沼バミス粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第63号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子・焼土粒子微量

第64号土坑土層解説

- 1 灰褐色 焼土粒子少量、ロームブロック微量
- 2 明褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

第65号土坑土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミス粒子少量、ローム粒子・七本桜粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量、七本桜粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・鹿沼バミス粒子・七本桜粒子微量
- 4 灰褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・鹿沼バミス粒子・七本桜粒子微量

第66号土壌層解説

- 1 黒 褐色 炭沼バミズ粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・七本桜粒子微量
- 2 黒 褐色 炭沼バミズ粒子少量、ローム粒子・七本桜粒子微量

第67号土壌層解説

- 1 黒 褐色 炭沼バミズ粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・七本桜粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭沼バミズ粒子・七本桜粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭沼バミズ粒子・七本桜粒子微量

第68号土壌層解説

- 1 黒 褐色 炭沼バミズ粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・七本桜粒子微量
- 2 灰 褐色 ロームブロック・炭沼バミズ粒子少量、七本桜粒子微量

第69号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第70号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭沼バミズ粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭沼バミズ粒子・七本桜粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭沼バミズ粒子・七本桜粒子微量

第75号土壌層解説

- 1 黒 褐色 炭沼バミズブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭沼バミズブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭沼バミズブロック微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・炭沼バミズブロック微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量、炭沼バミズブロック微量

第77号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量

第78号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第79号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第80号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

第81号土壌層解説

- 1 黒 褐色 炭化物微量
- 2 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量

第82号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック微量
- 5 黒 褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック微量

第83号土壌層解説

- 1 暗 褐色 砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子微量

第84号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

第85号土壌層解説

- 1 灰 黄色 粘土粒子多量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 3 黒 褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量

- 4 黒 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

- 5 明 褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 7 明 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量
- 8 に近い褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック微量
- 9 灰 白色 粘土ブロック多量

第86号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量

第87号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 橙 色 炭化粒子少量

第88号土壌層解説

- 1 黒 色 炭沼バミズブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック少量、炭沼バミズブロック微量
- 3 黒 褐色 粘土ブロック中量

第89号土壌層解説

- 1 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量

第90号土壌層解説

- 1 黒 褐色 粘土ブロック少量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量

第91号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

第92号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子中量
- 3 黒 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第93号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・炭沼バミズブロック少量、炭化物微量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭沼バミズブロック・焼土粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭沼バミズ粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 6 黒 褐色 ローム粒子少量、炭沼バミズブロック微量

第96号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 褐 灰色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量

第98号土壌層解説

- 1 黒 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒 褐色 炭化粒子少量
- 4 灰 黄褐色 粘土ブロック・炭化物少量
- 5 黄 褐色 粘土粒子・細礫中量、炭化粒子少量

第99号土壌層解説

- 1 黒 色 炭化粒子少量、ロームブロック・炭沼バミズブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭沼バミズブロック微量
- 3 明 褐色 炭化物微量

第101号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、炭沼バミズブロック少量

第102号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、七本桜粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・七本桜粒子微量

第103号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・七本松粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 灰褐色 七本松粒子少量、ローム粒子微量
- 4 灰褐色 ローム粒子少量、七本松粒子微量

第104号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・七本松粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・七本松粒子微量

第105号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・七本松粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、七本松粒子微量

第106号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・腹溜パミス粒子・七本松粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・腹溜パミスブロック・七本松粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、腹溜パミス粒子・七本松粒子少量

第107号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、腹溜パミス粒子・七本松粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、腹溜パミス粒子・七本松粒子微量

第108号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・七本松粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、七本松粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、七本松粒子少量

第109号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、七本松粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・七本松粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、七本松粒子微量

第110号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・七本松粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、七本松粒子微量

第111号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・腹溜パミスブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、七本松粒子微量

第112号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・七本松粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、七本松粒子微量

第113号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、七本松粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、七本松粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、七本松粒子微量

第114号土坑土層解説

- 1 暗褐色 七本松粒子少量、ロームブロック微量

第115号土坑土層解説

- 1 暗褐色 七本松粒子少量、ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、七本松粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、七本松粒子少量

第116号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、七本松粒子少量

第117号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・七本松粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック・七本松粒子中量

第118号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、七本松粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・七本松粒子少量、腹溜パミス粒子微量

第119号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、七本松粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、七本松粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、七本松粒子微量

第120号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・七本松粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・七本松粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、七本松粒子微量

表7 土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
2	B 9 9	-	円形	0.55 × 0.53	21	皿状	外傾	人為		SK3 → 本跡
4	B10a1	-	円形	0.53 × 0.52	33	平坦	外傾	自然	土層器	SI7 → 本跡
7	B10a5	N-46°-E	[楕円形]	(0.53) × 0.40	18	皿状	縦斜	自然		本跡 → SK6
8	B10a5	N-21°-W	楕円形	0.43 × 0.35	17	皿状	縦斜	自然		
11	B10b3	N-76°-E	楕円形	0.45 × 0.40	19	平坦	外傾	自然		
12	B10b2	-	円形	0.39 × 0.37	11	平坦	外傾	自然		
13	B 9 e8	-	円形	0.75 × 0.70	45	平坦	外傾	自然	土層器	SI9 → 本跡
14	A 9 b0	-	円形	0.65 × 0.62	24	平坦	外傾	自然		SK70 → 本跡
15	A 9 b0	N-4°-E	楕円形	0.49 × 0.42	24	皿状	外傾	自然		
17	B 1 e1	N-10°-E	楕円形	0.80 × 0.52	7	平坦	縦斜	自然		
18	B 9 e9	-	円形	0.45 × 0.42	42	平坦	外傾	人為	須臾器	
19	B 9 e0	N-5°-W	[楕円形]	0.50 × (0.38)	42	皿状	外傾	人為		本跡 → SI2
20	B 9 e0	N-16°-E	楕円形	0.55 × 0.38	44	皿状	外傾	人為		
21	B 9 e9	-	円形	0.58 × 0.56	29	皿状	縦斜	自然		
22	B 10f1	-	円形	0.45 × 0.45	49	平坦	直立	自然	土層器	
23	B 10g1	-	円形	1.10 × 1.03	11	平坦	縦斜	自然		
24	B 10f1	-	[円形]	0.63 × (0.38)	19	平坦	直立	自然		
25	B 10f0	N-33°-W	[楕円形]	0.62 × (0.32)	36	皿状	外傾	自然		本跡 → SI2

番号	位置	長様方向	平面形	型		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
26	B10b4	N-83°-E	楕円形	0.54×0.33b	30	平坦	外傾	自然		本跡→SK27
27	B10b4	N-75°-E	楕円形	0.42×0.47	31	平坦	外傾	自然		SK26→本跡
28	B10c4	-	[円形]	0.40×0.30b	35	平坦	外傾	自然		
29	B10c4	N-64°-W	楕円形	0.64×0.51	30	平坦	外傾	自然		
30	B 9d0	-	円形	0.17×0.17	30	皿状	外傾	人為	須恵器	
31	B10c1	-	円形	0.37×0.37	46	平坦	外傾	人為		
32	B10c1	N-44°-E	楕円形	0.33×0.25	29	平坦	外傾	人為		
33	B10c1	-	円形	0.34×0.33	41	平坦	外傾	人為		
34	B 9d0	-	円形	0.51×0.50	27	平坦	外傾	自然		
35	B 9d9	N-27°-W	楕円形	0.59×0.48	16	平坦	縦斜	人為		
36	B 9d9	-	[円形]	0.47×0.45b	21	平坦	外傾	自然		SK37→本跡
37	B 9d9	N-5°-W	[楕円形]	0.78b×0.55b	35	皿状	外傾	自然		本跡→SK36
38	B 9e0	N-29°-W	楕円形	0.45×0.38	17	平坦	外傾	自然	土師器	
39	B 9d9	-	円形	0.30×0.29	35	平坦	外傾	自然		
40	B 9g0	-	円形	0.37×0.35	28	平坦	外傾	人為		
41	B 9g0	N-6°-E	楕円形	0.41×0.36	31	平坦	直立	人為	土師器	
42	B 9h0	-	円形	0.54×0.50	24	皿状	外傾	自然		
43	B 9h0	N-34°-W	楕円形	0.48×0.35	40	平坦	外傾	自然	土師器	
44	B 9g0	N-3°-W	楕円形	0.63×0.53	30	皿状	外傾	自然		
45	B 9g0	N-0°	楕円形	0.45×0.36	36	V字状	外傾	自然		
46	B 9h0	-	円形	0.32×0.30	42	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器	
47	B 9h0	-	円形	0.49×0.48	43	皿状	外傾	自然		
48	B 9h0	N-50°-W	楕円形	0.30×0.26	31	平坦	直立	人為		
49	B 9h0	N-63°-E	楕円形	0.48×0.43	46	皿状	外傾	人為	土師器	
50	B 9b9	N-37°-W	楕円形	0.50×0.39	45	V字状	外傾	人為	土師器	
51	B 9g8	N-24°-W	楕円形	0.35×0.30	35	皿状	外傾	自然		
52	B 9h0	-	[円形]	0.45×0.22b	19	皿状	外傾	自然		
53	B 9h0	N-3°-E	[楕円形]	0.67×0.41b	20	階段状	外傾	自然		
55	B 9f6	N-34°-E	楕円形	0.29×0.28	38	平坦	外傾	自然	土師器	
56	B 9f6	N-77°-E	楕円形	0.50×0.41	23	平坦	外傾	人為	土師器、陶器	
57	C 9a7	-	楕円形	0.35×0.30	33	平坦	外傾	-		
58	B 9f8	-	円形	0.27×0.26	63	平坦	直立	自然		
59	C 9a6	-	円形	0.51×0.48	14	平坦	外傾	自然		
61	C 9a8	N-70°-W	楕円形	0.32×0.28	35	平坦	直立	人為		
62	C 9b8	N-62°-E	[方形]	1.72×1.70	43	凸凹状	直立	人為	土師器	
63	B 9g7	N-73°-E	楕円形	0.77×0.69	9	平坦	縦斜	自然		
64	B 9g7	N-32°-E	[楕円形]	0.75×0.55b	20	平坦	外傾	人為		
65	A10h1	N-60°-E	不定形	1.26b×0.74	46	平坦	直立	-		本跡→SK06・70
66	A10h1	-	円形	0.60×0.57	40	皿状	外傾	自然		SK05・70→本跡
67	A10h1	N-52°-W	[楕円形]	1.14b×1.00	47	平坦	外傾	人為		SK08→本跡
68	A10h1	N-62°-E	[楕円形]	1.00b×0.63b	35	皿状	外傾	自然		本跡→SK07、SK2
69	A10h1	N-40°-E	楕円形	0.73×0.62	37	平坦	外傾	自然		
70	A 9h0	N-93°-E	[不整楕円形]	2.29b×1.03	30	平坦	外傾	-		SK05→SK→SK14・6c、70
71	A10l	N-52°-E	[楕円形]	0.46×0.27b	47	皿状	外傾	-		SK2→本跡
72	A10l	N-57°-E	[楕円形]	0.58×0.37b	62	皿状	外傾	-		
73	A10l	-	[円形]	0.54×0.51b	49	平坦	外傾	-		
75	C 9b7	N-25°-E	楕円形	0.85×0.72	51	皿状	外傾	人為	土師器	
77	C 9c5	N-31°-W	楕円形	0.42×0.38	21	皿状	外傾	自然		
78	C 9b5	N-55°-W	[楕円形]	0.90×0.56b	25	皿状	外傾	自然		
79	C 9c5	-	[円形]	0.40×0.37b	12	平坦	外傾	自然		
80	C 9c5	N-34°-E	[楕円形]	0.61b×0.50	31	皿状	外傾	自然	土師器	
81	A 9h0	N-34°-E	[不整楕円形]	0.90×0.42b	13	平坦	外傾	自然		本跡→SK07
82	C 9c4	N-63°-E	楕円形	1.61×1.20	73	平坦	外傾	人為		SK04・83→本跡
83	C 9c3	N-63°-E	[楕円形]	1.30×0.92b	60	皿状	外傾・縦斜	人為		SK04→本跡→SK02
84	C 9c3	N-63°-E	[楕円形]	1.12×0.69b	53	皿状	外傾・縦斜	人為		本跡→SK02・83
85	C 9c3	N-50°-E	不整楕円形	3.02×1.72	56	皿状	外傾	人為		本跡→SK06
86	C 9c3	-	円形	0.50×0.48	24	平坦	直立	自然		SK05→本跡
87	A 9h0	N-7°-E	不整楕円形	0.29×0.32	30	皿状	外傾	自然		SK01→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	高さ (cm)					
88	C 9f5	-	円形	0.77 × 0.73	24	平置	外傾	自然	土師器	
89	C 9f4	N-40°-W	楕円形	0.35 × 0.31	16	皿状	外傾	自然		
90	C 9c3	-	円形	0.31 × 0.31	21	皿状	外傾	自然		
91	C 9c3	N-44°-E	楕円形	0.73 × 0.66	15	平置	傾斜	自然		
92	C 9c3	N-44°-E	不整楕円形	2.75 × 1.79	42	皿状	外傾	人為		
93	C 9a6	N-15°-W	楕円長方形	1.60 × 1.20	80	平置	外傾・内傾	人為	縄文土器、土師器	S32、S33b、130→ 438→S31
96	B 9f9	N-66°-W	楕円形	0.45 × 0.39	35	皿状	外傾	-	土師器、須恵器	SD10
98	C 9f3	N-63°-E	不整楕円形	0.75 × 0.67	49	平置	外傾	人為	石製品	
99	C 9a6	-	円形	0.74 × 0.75	36	皿状	外傾	自然		SK100→本跡
101	C 9f6	N-65°-E	[楕円形]	(1.58) × (0.70)	40	平置	外傾	人為		438→SK36、S32
102	B 9f0	-	円形	0.35 × 0.35	24	皿状	外傾	自然		
103	B 9f0	N-37°-W	楕円形	0.52 × 0.43	34	平置	直立	自然		
104	B 9f0	N-15°-W	楕円形	0.47 × 0.39	28	皿状	外傾	自然		SK105→本跡
105	B 9f0	N-51°-W	[楕円形]	(0.71 × 0.41)	23	平置	外傾	自然		SK119→本跡 →SK104
106	B 9f0	-	円形	0.75 × 0.75	30	平置	外傾	自然		
107	B 9f0	N-29°-E	楕円形	0.70 × 0.56	23	平置	外傾	自然		
108	B 9f9	-	円形	0.35 × 0.34	39	皿状	外傾	人為		
109	B 9f9	-	円形	0.48 × 0.45	54(59)	凸凹	直立	人為	土師器	SK110→本跡
110	B 9f9	[N-78°-W]	[楕円形]	(0.51 × 0.32)	30	皿状	外傾	自然		本跡→SK109
111	B 9f9	-	楕円形	0.40 × 0.35	16	平置	外傾	人為		
112	B 9f9	-	円形	0.43 × 0.43	25	皿状	外傾	自然		
113	B 9f8	N-38°-E	[楕円形]	(0.57 × 0.48)	34	平置	外傾	自然		
114	B 9f8	N-33°-E	楕円形	0.92 × 0.80	25	平置	外傾	自然		
115	B 9f9	-	円形	0.47 × 0.47	23	平置	外傾	人為		
116	B 9f9	-	円形	0.47 × 0.44	15	平置	外傾	自然		
117	B 9f0	-	円形	0.55 × 0.50	32	平置	外傾	人為		
118	B 9f0	N-4°-W	楕円形	1.05 × 0.76	21(34)	平置	外傾	自然		
119	B 9f0	N-90°-W	楕円形	1.10 × 0.82	25	平置	外傾	自然		本跡→SK105・120
120	B 9f0	N-69°-W	楕円形	0.46 × 0.35	36	皿状	直立	自然		SK119→本跡
121	C 9a8	N-30°-W	[楕円形]	(0.52 × 0.45)	16	平置	外傾	自然		本跡→PG 3

(5) ビット群

今回の調査で、ビット群が3か所確認できた。いずれのビット群も明確に建物跡を想定できず、また伴出する出土遺物がないことから、時期を決定することもできない。ここではビット一覧表と平面図をそれぞれ記載する。

第1号ビット群計測表

ビット番号	位置	形状	規		ビット番号	位置	形状	規		ビット番号	位置	形状	規	
			長径 × 短径	深さ				長径 × 短径	深さ				長径 × 短径	深さ
1	A10h1	円形	15 × 15	17	14	A10h1	楕円形	18 × 15	16	27	B10a2	円形	14 × 13	11
2	A10h1	楕円形	13 × 8	23	15	A 9f0	楕円形	24 × 7	19	28	B10a2	楕円形	19 × 15	20
3	A10h1	円形	19 × 19	29	16	A 9f0	楕円形	18 × 7	13	29	B10c4	円形	30 × 30	30
4	A10f1	円形	14 × 14	17	17	A 9f0	楕円形	21 × 13	15	30	B10a0	楕円形	22 × 19	9
5	A10f1	楕円形	28 × 22	20	18	A 9f0	楕円形	21 × 16	22	31	B10a3	円形	18 × 17	20
6	A10f1	楕円形	30 × 26	12	19	B10a5	楕円形	22 × 20	11	32	B10a3	楕円形	22 × 20	17
7	A 9f0	楕円形	20 × 15	36	20	B10a5	楕円形	23 × 19	18	33	A 9f0	楕円形	28 × 25	28
8	A 9f0	楕円形	21 × 18	19	21	A10f5	楕円形	19 × 15	40	34	A 9f0	円形	24 × 22	22
9	A 9f0	円形	15 × 14	15	22	A10f2	楕円形	23 × 20	17	35	B10a4	円形	24 × 24	10
10	A10f5	円形	26 × 25	18	23	A10f2	円形	15 × 14	13	36	A 9f0	楕円形	15 × 12	18
11	A10f4	円形	29 × 27	58	24	A10f2	円形	19 × 18	18	37	A 9f0	円形	28 × 28	-
12	B10a4	楕円形	29 × 24	15	25	A10f2	円形	16 × 15	17	38	A 9f0	楕円形	34 × 27	-
13	A 9f0	楕円形	25 × 15	16	26	B10a1	円形	14 × 13	8	39	B10a2	楕円形	30 × 21	34

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
40	B10c2	円形	27 × 26	38
41	B10c2	円形	25 × 25	15
42	B10c2	楕円形	26 × 18	15
43	B10c2	楕円形	29 × 25	17
44	B10c2	楕円形	34 × 28	16

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
45	B10c2	楕円形	23 × (15)	9
46	B10c2	楕円形	27 × 18	14
47	B10c2	円形	25 × 25	12
48	B10c2	楕円形	25 × 21	27

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
49	B10d2	円形	27 × 27	30
50	B10c1	円形	36 × 35	17
51	B10c1	円形	32 × 31	31
52	B10c1	円形	20 × 20	12

第2号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規 模	
			長径 × 短径	深さ (cm)
1	B 9 c0	楕円形	29 × 25	16
2	B 9 c0	楕円形	17 × 13	28
3	B 9 c0	円形	21 × 21	32
4	B10c1	楕円形	27 × 23	52
5	B10c1	楕円形	17 × 15	11
6	B10c1	円形	20 × 18	23
7	B10c2	円形	26 × 25	16
8	B10c2	楕円形	21 × 17	33
9	B10c1	楕円形	25 × 19	32
10	B10c1	円形	25 × 24	30

ピット番号	位置	形状	規 模	
			長径 × 短径	深さ (cm)
11	B10c1	円形	20 × 20	18
12	B10c1	円形	18 × 17	13
13	B10c1	楕円形	30 × 23	13
14	B10c1	円形	18 × 18	10
15	B 9 d0	円形	21 × 20	26
16	B 9 d0	円形	21 × 21	15
17	B 9 d0	楕円形	29 × 23	34
18	B 9 d0	円形	18 × 17	8
19	B 9 d9	楕円形	30 × 25	17
20	B 9 d9	楕円形	24 × 21	22

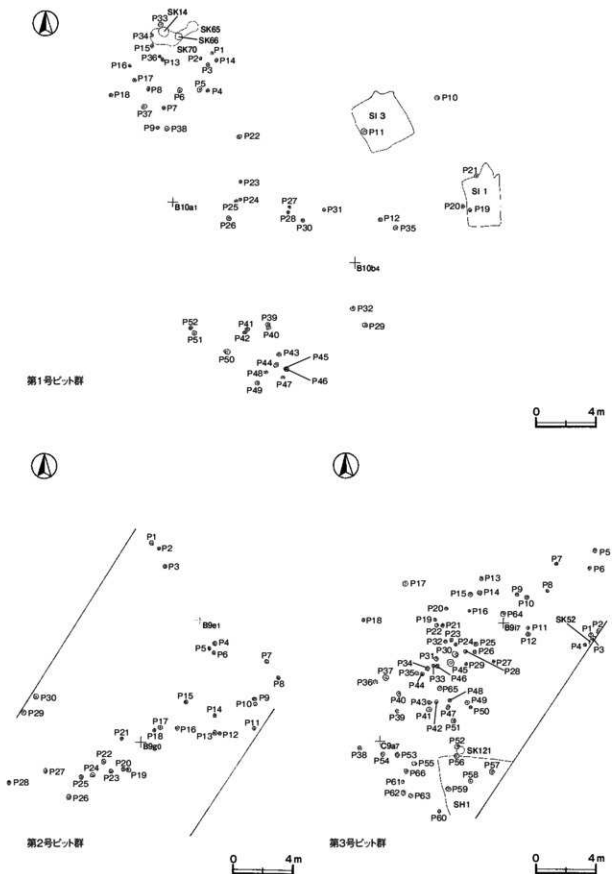
ピット番号	位置	形状	規 模	
			長径 × 短径	深さ (cm)
21	B 9 d9	円形	19 × 17	21
22	B 9 d9	円形	30 × 28	25
23	B 9 d9	円形	24 × 24	30
24	B 9 d9	円形	28 × 26	40
25	B 9 d9	円形	25 × 25	31
26	B 9 d8	楕円形	30 × 21	26
27	B 9 d8	円形	22 × 21	25
28	B 9 d7	円形	23 × 21	38
29	B 9 d8	円形	31 × 30	44
30	B 9 d8	円形	32 × 31	27

第3号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規 模	
			長径 × 短径	深さ (cm)
1	B 9 d0	楕円形	31 × 27	-
2	B 9 d0	楕円形	22 × (17)	18
3	B 9 d0	楕円形	34 × 25	-
4	B 9 d0	円形	23 × 22	-
5	B 9 d0	円形	21 × 21	22
6	B 9 d0	円形	15 × 15	27
7	B 9 d9	楕円形	21 × 18	13
8	B 9 d9	円形	16 × 15	16
9	B 9 d8	楕円形	24 × 21	38
10	B 9 d9	楕円形	24 × 19	-
11	B 9 d9	円形	20 × 20	-
12	B 9 d9	楕円形	33 × 24	-
13	B 9 d8	円形	26 × 24	21
14	B 9 d8	円形	28 × 27	-
15	B 9 d8	円形	28 × 27	-
16	B 9 d8	円形	14 × 13	21
17	B 9 d7	円形	38 × 38	-
18	B 9 d6	楕円形	19 × 16	11
19	B 9 d7	円形	16 × 16	20
20	B 9 d8	円形	22 × 22	24
21	B 9 d7	円形	16 × 15	29
22	B 9 d7	楕円形	24 × 21	22

ピット番号	位置	形状	規 模	
			長径 × 短径	深さ (cm)
23	B 9 d8	楕円形	19 × 17	-
24	B 9 d8	楕円形	20 × 17	-
25	B 9 d8	楕円形	25 × 16	20
26	B 9 d8	楕円形	23 × 20	-
27	B 9 d8	円形	15 × 15	21
28	B 9 d8	円形	20 × 20	-
29	B 9 d8	円形	17 × 16	-
30	B 9 d8	円形	42 × 42	-
31	B 9 d7	円形	24 × 22	-
32	B 9 d8	円形	16 × 15	18
33	B 9 d7	楕円形	19 × 15	-
34	B 9 d7	楕円形	25 × 18	-
35	B 9 d7	円形	21 × 20	30
36	B 9 d6	円形	26 × 25	34
37	B 9 d7	楕円形	22 × 26	-
38	C 9 a6	楕円形	28 × 29	15
39	B 9 d7	楕円形	24 × 21	-
40	B 9 d7	楕円形	30 × 25	24
41	B 9 d7	楕円形	32 × 29	-
42	B 9 d8	楕円形	22 × 20	-
43	B 9 d7	楕円形	26 × 23	-
44	C 9 a8	円形	31 × 30	-

ピット番号	位置	形状	規 模	
			長径 × 短径	深さ (cm)
45	B 9 d8	楕円形	50 × 44	-
46	B 9 d7	楕円形	27 × 23	-
47	B 9 d8	楕円形	29 × 20	-
48	B 9 d8	楕円形	19 × 15	20
49	B 9 d8	楕円形	31 × 22	-
50	B 9 d8	楕円形	18 × 15	-
51	B 9 d8	楕円形	27 × 23	-
52	C 9 a8	楕円形	35 × 30	-
53	C 9 a7	円形	27 × 26	16
54	C 9 a7	楕円形	26 × 23	27
55	C 9 a7	楕円形	28 × 21	22
56	C 9 a8	円形	31 × 30	-
57	C 9 a8	楕円形	31 × 27	-
58	C 9 a8	楕円形	27 × 24	-
59	C 9 a8	楕円形	28 × 24	-
60	C 9 a8	円形	22 × 22	13
61	C 9 a7	楕円形	20 × 15	37
62	C 9 a7	円形	26 × 26	32
63	C 9 a7	楕円形	24 × 21	34
64	B 9 d8	円形	31 × 29	31
65	B 9 d7	楕円形	24 × 28	-
66	C 9 a7	楕円形	24 × 21	-



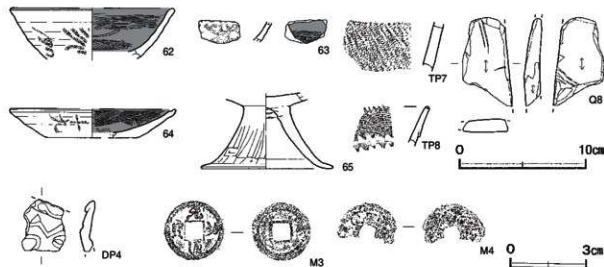
第57図 第1・2・3号ピット群実測図

表8 ビット群一覧表

番号	位置	柱 穴 (cm)					主な出土遺物	備 考 重層関係 (古→新)
		柱穴	平面形	長径	短径	深さ		
1	A 919 ~ B10c5	52	円形・楕円形	13 ~ 36	7 ~ 35	9 ~ 58		SI 3 → 本跡 → SK70 SI 1
2	B 9c0 ~ B10f1	30	円形・楕円形	17 ~ 32	13 ~ 31	8 ~ 52		
3	B 9f6 ~ C 9b8	66	円形・楕円形	14 ~ 42	13 ~ 42	11 ~ 38		SK52・121, SH1

(6) 遺構外出土遺物 (第 58 図)

遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを実測図と遺物観察表で記述する。



第 58 図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第 61 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
62	土師器	坏	[129]	(40)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面ロクロナデ、内面ヘラミガキ、内面黒色処理、外面体部に黒書(判読不明)	SI2 覆土中	10% PL6
63	土師器	坏	-	(17)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	内面ヘラミガキ、内面黒色処理、外面に黒書(判読不明)	SI2 覆土中	5% PL6
64	土師器	皿	[129]	23	[7.3]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラミガキ、内面黒色処理、体部外面に黒字で黒書「十九」	北部伴土中	15% PL6
65	土師器	高坏	-	(60)	[105]	長石・石英・細砂	にぶい橙	普通	内面ヘラミガキ、細部黒位のヘラミガキ、細部黒位のヘラミガキ、表面残存	SE2 覆土中	25%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 7	縄文土師	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	単筋丸、地文、輪様痕	SI 2 側方	PL9
TP 8	弥生土師	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	3本轡歯直爪、輪様痕	SI 2 側方	PL9

番号	器種	長さ	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 4	泥面子	(21)	0.6	(1.3)	長石・石英・雲母	皿上部*	SI10 覆土中	PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	砥石	(71)	(40)	1.2	(397)	砂岩	紙面3面、他は被断面	表土	PL10

番号	銭種	径	孔距	厚さ	重量	材質	初铸年	特徴	出土位置	備考
M 3	元祐通寶	24	0.7	0.1	2.20	銅	1086	北宋銭、無背銭	表土	PL10
M 4	不明	25	0.6	0.1	(1.56)	銅	-	西面劣化、判読不明	SI7 覆土中	PL10

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査で、竪穴住居跡12軒（古墳時代1、奈良時代5、平安時代6）、掘立柱建物跡2棟（奈良時代、時期不明）、竪穴遺構1基（平安時代）、粘土採掘坑2か所（平安時代）、土坑117基（平安時代11、時期不明106）、井戸跡2基（時期不明）、溝跡2条（古墳時代、時期不明）、ピット群3か所（時期不明）を確認した。遺物は、各遺構に伴う土師器や須恵器とともに、墨書土器、金属製品も出土している。ここでは、遺跡の中心となる奈良時代から平安時代までの集落跡の様相について述べるとともに、「高月郷」と墨書された土師器の坏から、当遺跡の所在した古代の倭文郷と高月郷の交流について考察を試みる。

2 各時代の集落様相

当遺跡は、久慈川と春日川に挟まれた標高36～39mのほぼ平坦な台地上に位置している。遺跡の規模は、東西1500m、南北400mの範囲で、当調査区は遺跡の北西部、東西40m、南北100mの範囲である。ここでは、確認できた竪穴住居跡（古墳1、奈良5、平安6）と出土遺物から時期区分を行い、集落の様相について考察する。

(1) 古墳時代

当該期の住居跡は、第4号住居跡1軒のみである。長軸5.96m、短軸5.56mの方形で、炉と貯蔵穴を各2か所所有している。住居の規模は中形で、久慈川の対岸に位置する森戸遺跡の第IV期（和泉2期）の中型住居の範疇に対応する。しかし、出土した土器からは、森戸第V期（鬼高1期）に対応すると判断できる。鬼高式期以降は、住居内に竈が付設されるのが一般的であるが、今回確認された第4号住居跡では、竈を持たず炉を2か所所有しており、当地域での住居への竈導入は、他地域よりも遅かったと推察される。

また、本跡は2つの貯蔵穴を持ち、貯蔵穴1では台形石器3点が壁に貼り付けられた状態で出土している。台形石器は、平らな打撃面と握り部があり、平坦部で堅果類などを叩き潰す石器と考えられている¹⁾。これらの石器3点では、貯蔵穴壁面の補強とは考えられず他の意図を持って貼り付けられていると思われるが、詳細は不明である。

当該期の住居跡は1軒のみであるため、この住居のみが特殊であるのか、中形住居以下でも貯蔵穴を2か所持つものが普遍的であるのかは、この集落本体の調査を待たなければならない。

(2) 奈良・平安時代

第1期

本期には、第6号住居跡が該当する。主な出土遺物は、土師器（坏、高坏、甕、甗）、須恵器（坏、甗）、土製品（文脚）である。当住居跡から出土した須恵器の甗は、返りが退化し、扁平なつまみを持っていることから8世紀前葉に比定できる。

第2期

本期には、第3・12号住居跡が該当する。主な出土遺物は、土師器（坏、椀、甕類）、須恵器（坏、高台付坏、甗、鉢、小形甕、甗）、石器（砥石）、鉄製品（剣カ）である。その土器様相から、時期は8世紀中葉と考えられる。

第3期

本期には、第2・9住居跡が該当する。主な出土遺物は、土師器（坏、高坏、碗、鉢、甕類、甗）、須恵器（坏、高台付坏、蓋、鉢、甕類）、土製品（管状土鍾、羽口）、鉄製品（釘、鉄滓）である。出土土器の様相から8世紀後葉と考えられる。

第4期

本期は9世紀前葉に当たるが、明確に該当する遺構は確認できなかった。

第5期

本期には、第11号住居跡が該当する。主な出土遺物は、土師器（坏、甕類）、須恵器（坏、甕）、石器（砥石）である。出土土器の土器様相から、9世紀中葉に対応するものと考えられる。

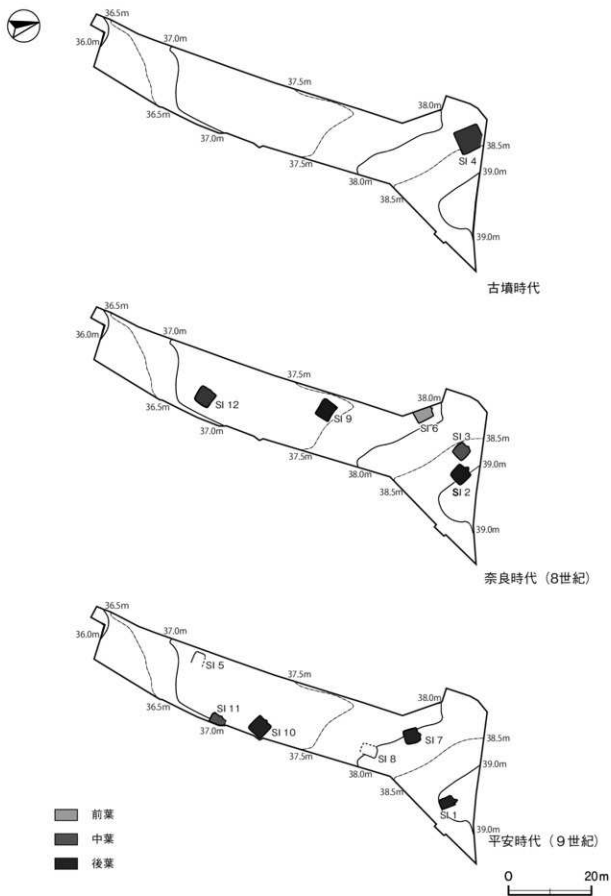
第6期

本期には、第1・7・10号住居跡が該当する。主な出土遺物は土師器（坏、碗、高台付坏、甕類）、須恵器（坏、蓋、甕類）である。第1号住居跡からは墨書土器が2点出土している。30の坏は、体部に横位で「寺」と墨書されている。36の坏は、体部に横位で「高月郷カ」と墨書されている。出土土器の様相から、9世紀後葉と考えられる

なお、第5・8号住居跡は、遺物が細片のため時期を明確に特定できないが、出土土器の様相から9世紀以降のものと考えている。古墳時代と同様に、集落の本体は調査区北側の台地上に広がっていたものと考えられるが、奈良・平安時代へ経過するにつれて、春日川へと下る台地縁辺部まで集落が拡大していった様子が確認できる（第57図）。

鹿島台遺跡竪穴住居跡時期変遷表

時代区分	世紀	鹿島台遺跡	森戸遺跡
古墳時代前期	3世紀後葉		森戸Ⅰ期
	4世紀前葉		
	中葉 後葉		
古墳時代中期	5世紀前葉		森戸Ⅲ期
	中葉 後葉	(第4号住居跡)	森戸Ⅳ期 森戸Ⅴ期
古墳時代後期	6世紀前葉		森戸Ⅵ期
	中葉 後葉		森戸Ⅶ期 森戸Ⅷ期
	7世紀前葉		
奈良時代	8世紀前葉	1期 (第6号住居跡)	森戸Ⅸ期
	中葉	2期 (第3・12号住居跡)	
	後葉	3期 (第2・9号住居跡)	森戸Ⅹ期
平安時代	4期		
	中葉	5期 (第11号住居跡)	森戸Ⅺ期
	後葉	6期 (第1・7・10号住居跡)	



第 59 図 時代別竪穴住居跡変遷図

3 出土墨書土器について

今回の調査で、墨書土器9点が出土した。そのうち判読できた墨書は、「寺」、「高月郷」各1点、「高」2点である。第1号住居跡から出土した30の坏には、「寺」と墨書されている。また、第2号粘土採掘坑から、「高月郷」と横位で墨書された土師器の53の坏が出土している。加えて、第1号住居跡からは「高」と記された36の坏、第1号粘土採掘坑からも「高」と墨書された48の坏の細片が出土している。細片のため「高」部分しか確認できないが、これら2点も「高月」と墨書されていた可能性がある。

荒木志伸氏は、「墨書土器にみえる諸痕跡について」の中で、墨書土器に記される文字を、「人に伝達する意図」、「神に伝達する意図」、「第三者への伝達を意図しないもの」に分類している。「人に伝達する意図」には、所管名、人名、内容物、方位・方向、地名、「神に伝達する意図」には、人名（祭祀主体者等）、内容物（供物）、方位（祭祀的な方位）があり、「第三者への伝達を意図しないもの」には、習書や絵画を分類している²¹。

「寺」と墨書されている坏の所有者は寺に関わる人物と考えられ、荒木氏の分類に従えば、「人に伝達する意図」の所管名に分類される。平川南氏は「墨書土器の研究」の中で、「寺」について、村落内の寺の存在に加えて、村落間において私度僧のような人物が信仰活動やその信仰に付随する形で文字を広く伝播させる役割を果たしたと指摘している²²。「寺」と記された墨書土器から、寺を中心とした、祭祀や儀礼的な行為を行っていた私度僧がいたことを示唆するものであり、今回の調査で寺院跡と考えられる遺構は確認できなかったが、当遺跡内に村落内寺院が存在していた可能性がある。また、第1号住居跡からは「高月」と墨書された可能性のある坏も出土している。

「高月郷」の墨書は、筆致を見ると漢字を知らない者が模倣して記したような稚拙な文字ではなく、教養ある識字層によるものと考えられる。割れた状態で出土しているが、土器を観察したところ供膳具としての使用感が認められることから、祭祀用に作られた坏に墨書されたものとは考えられない。破損状況からも祭祀行為と認められる痕跡は確認できない。供膳具としての坏に、持ち主の所属を記したものと思われる。荒木氏の分類に従えば、「人に伝達する意思」の所管名に分類される墨書土器といえる。所属を記した坏を所持した者の出自は、高月郷であると考えられる。

『和名類聚抄』には、岡田、八部、倭文、高月（タカツキ箕月）、助川、美和、・・・高市、・・・などの二十郷があり、その中で、高市、箕月、助川が久慈郡に入る。箕月を『和名類聚抄』は「高月」としている。『大日本地名辞書』は「高と相混し易きは箕なり」として「箕月」とみている。『常陸国風土記』には「タカツキ董箕」と記されている。『新編常陸国誌』は「タカツキ董月」の誤写とし、「タカツキ密月ヲ以テ名トスルモノハ、即水城ノ意」としている⁴¹。水城とは現在の日立市水木である。日立市水木は、当遺跡から北東約18kmに位置している。当遺跡のある地域は「タカツキ倭文郷」に比定されており、他地域との交流があったことをうかがわせるものである。

高月郷の出身者が墨書し土器を持ち、倭文郷に移動した。移動した人物は文字を知っていたと考えられるため、役人もしくは土地の有力者であったと考えられる。役人であれば、着任や赴任等の執務にあたり、墨書された土器を携えて倭文郷を訪れたのかもしれない。もしくは、当時の婚姻形態は男が、妻方の住居に移るものであったことから、倭文郷に迎えられた高月郷の男性が所有する坏であった可能性も考えられる。いずれにせよ「高月郷」と記された坏を所持した者は、自らの出自を倭文郷において示す必要性があったと考えられる。

4 おわりに

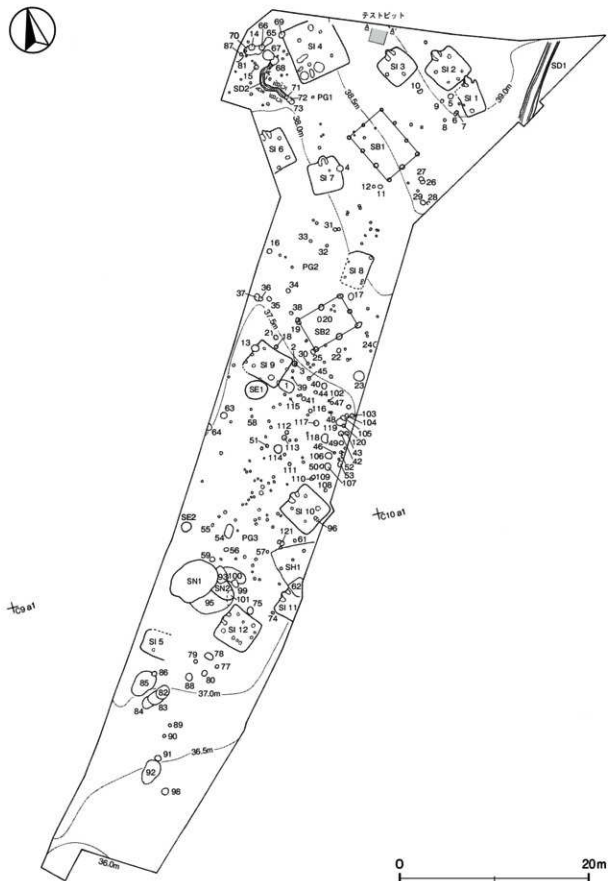
今回の調査は鹿島台遺跡北西部のみの調査であるが、古墳時代から平安時代に下るに従って、春日川に下る台地縁辺部まで集落が広がっていたことが確認できた。また、「寺」と記された墨書土器から、未調査部に村落内寺院が存在する可能性があること、古代の倭文郡に含まれる鹿島台遺跡から「高月郷」と記された墨書土器が出土したことから、律令期には郷を跨いだ交流があったことなどを確認することができた。

註

- 1) 大宮町歴史民俗資料館『大宮の考古遺物』1995年10月
- 2) 荒木志伸「墨書土器にみえる諸痕跡について」『お茶の水史学』43号 談史会 1999年9月
- 3) 平川南『墨書土器の研究』吉川弘文館 2000年10月
- 4) 日立市史編さん委員会『新修日立市史』上巻 1994年9月

参考文献

- ・茨城地方史研究会『茨城の歴史 県北編』茨城新聞社 2002年5月
- ・茨城県教育庁文化課『茨城県道跡地図 地図編』茨城県教育委員会 2001年3月
- ・茨城文化団体連合、茨城県教育委員会『茨城の芸能史』1977年10月
- ・瓜連町史編さん委員会『瓜連町史』1985年7月
- ・加藤雅美・西野剛史・浅井哲也「一般国道349号線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 北郷C遺跡 森戸遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第55集 1990年3月
- ・小松崎和治・栗田功「久保山遺跡 主要地方道那珂河内那珂河原道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第274集 2007年3月
- ・那珂河内史編さん委員会『那珂河内の考古学』那珂河内 1990年1月
- ・中山信名著・栗田寛補訂『新編常陸国誌』宮崎報恩会 1969年
- ・那珂河内史編さん委員会『那珂河内史 自然環境・原始古代編』1988年3月



第60図 鹿島台遺跡遺構全体図

第4章 保土通遺跡

第1節 調査の概要

当遺跡は、那珂市の北部に位置し、春日川右岸で南北をその支流に挟まれ、標高約38mほどの那珂台地上に立地している。調査面積は5,607㎡で、調査前の現況は畑地である。

調査の結果、竪穴住居跡1軒（古墳時代）、掘立柱建物跡5棟（近世2・時期不明3）、欄跡2列（近世）、竪穴遺構1基（近世）、窯跡1基（近世）、道路跡2条（近世）、井戸跡1基（時期不明）、粘土採掘場2か所（近世）、土坑146基（近世1・時期不明145）、溝跡16条（近世1・時期不明15）、ピット群6か所（時期不明）などを確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に6箱出土している。主な遺物は、土師器（坏・甕・甔・手捏土器）、須恵器（甕・甃）、土製品（土玉・紡錘車）、窯道具（トチン・初団子・輪ドチ・棒状粘土紐・留具・杭・サヤ鉢）、石器（鎌・砥石）、金属製品（釘・銭貨）などである。

第2節 基本層序

調査区西部の平坦面（G18区）にテストピットを設定し、地表面から2.3mまで掘り下げて基本層序の確認を行った（第61図）。土層は11層に分層でき、観察結果は以下のとおりである。

第1層は、黒褐色のソフトローム層である。白色粘土粒子を中量含み、層厚は3～10cmで粘性・締まりは普通である。

第2層は、黒褐色のソフトローム層である。粘性・締まりは普通で、層厚は4～16cmである。

第3層は、褐色のソフトローム層である。粘性・締まりは普通で、層厚は3～15cmである。

第4層は、明褐色のハードローム層である。層厚は5～18cmで、粘性は普通で締まりは強い。

第5層は、橙色の粘土層への漸移層である。粘性は強く締まりは普通で、層厚は2～20cmである。

第6層は、橙色の粘土層である。粘性は強く締まりは普通で、層厚は4～8cmである。

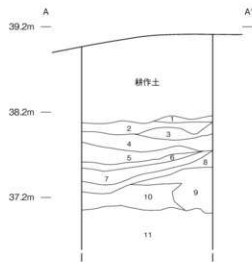
第7層は、灰白色の粘土層である。粘性・締まりともに強く、層厚は7～18cmである。

第8層は、にぶい橙色の粘土層である。粘性・締まりともに強く、層厚は5～15cmである。

第9層は、明褐色の粘土層である。粘性・締まりともに強く、層厚は5～52cmである。

第10層は、褐色の粘土層である。粘性・締まりともに強く、層厚は15～30cmである。

第11層は、灰褐色の粘土層である。粘性・締まりともに強く、層厚は50cmまで確認したが、下層は未掘のため不明である。なお、遺構は第1・2層の上面で確認できた。



第61図 基本土層序

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で確認した当該時代の遺構は、竪穴住居跡1軒である。以下、遺構と出土遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡（第62～65図）

位置 調査区北部のF3g6区、標高38mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部が攪乱を受けているため、北西・南東軸は5.15mで、北東・南西軸は4.76mしか確認できなかった。平面形は方形と推定され、主軸方向はN-78°-Wである。壁高は14～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、中央部を土坑状に30cmほど掘り込んで（P6）第16・17層を埋土し、第14・15層を貼床の構築土としている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95cmで、燃焼部幅は43cmである。袖部は地山を皿状に掘りくぼめたところに第12～19層を埋土し、その上に白色粘土を主体とした第8～11層を積み重ねて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

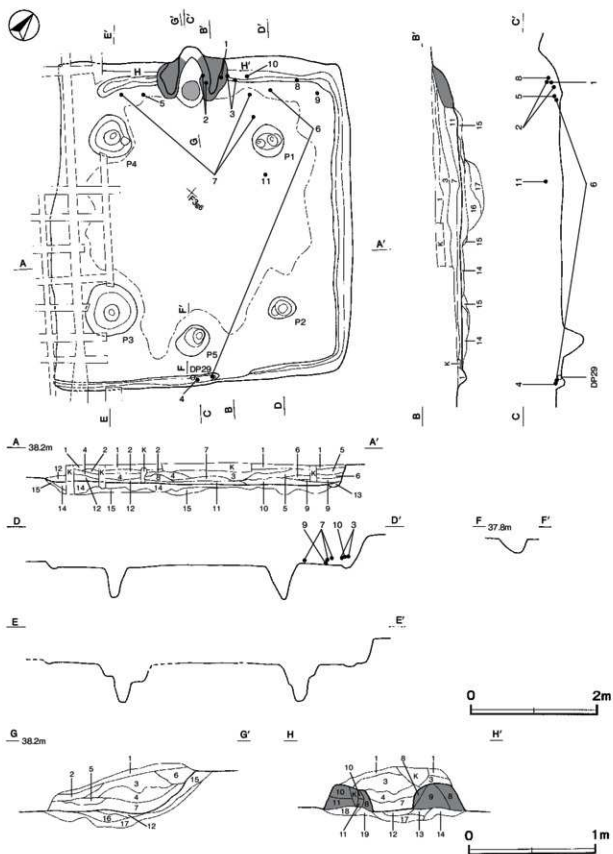
1 黒暗褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12 赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	白色粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量	13 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
3 黒褐色	白色粘土ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量
4 にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量	15 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
5 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化材微量	16 極暗赤褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
6 黒褐色	炭化粒子中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量	17 黒色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	18 極赤褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
8 暗褐色	炭化物中量、焼土ブロック少量	19 褐色	白色粘土ブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
9 オリーブ褐色	白色粘土ブロック多量、焼土ブロック少量		
10 にぶい黄褐色	白色粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量		
11 黒暗褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック中量、炭化粒子微量		

ピット 5か所。P1～P4は深さ51～59cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ34cmで、南東壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

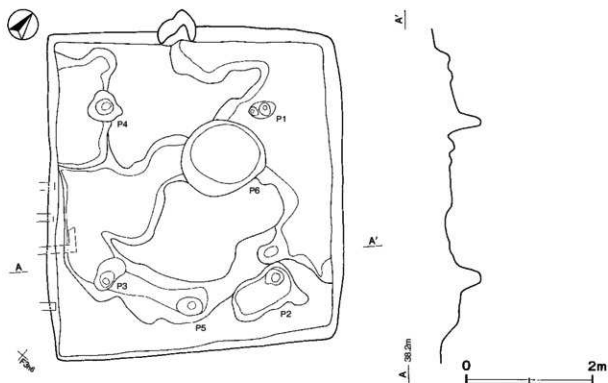
覆土 13層に分層できる。各層にブロックが含まれていることから埋め戻されている。第14・15層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	8 黒色	ローム粒子・焼土粒子・白色粘土粒子微量
2 黒色	焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子・白色粘土粒子微量	9 黒色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒色	焼土粒子・白色粘土粒子少量
4 黒色	粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11 黒色	焼土粒子・白色粘土粒子微量
5 黒色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	12 黒色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
6 黒褐色	白色粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13 黒色	粘土ブロック少量
7 黒色	焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	14 黒色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量、炭化粒子微量
		15 暗褐色	ロームブロック多量、白色粘土ブロック少量、炭化粒子微量
		16 黒褐色	白色粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
		17 黒褐色	粘土ブロック中量、炭化粒子微量



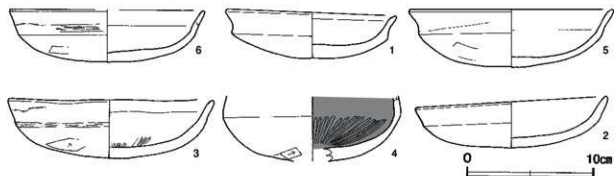
第62图 第1号住居跡実測图(1)



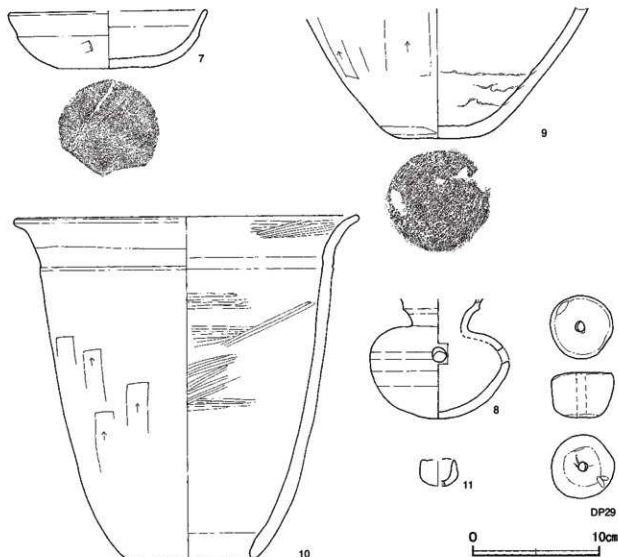
第63図 第1号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片299点(坏177, 甕類120, 瓶1, 手捏1), 須恵器1点(甕), 土製品1点(紡錘車), 石器2点(磨石), が全面の覆土中層から下層にかけて出土している。2は竈の右袖部の構築土から出土した破片が接合したものである。1は竈の右袖部構築土から出土している。5は竈西側の覆土下層から出土している。3は竈東側の覆土中層から出土した破片が接合したものである。10は竈東側の覆土中層から, 8は北東コーナー部の覆土中層から, 9は覆土下層から出土している。7は北部と北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。6は北部と南東部の壁際中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。DP29は, 南部中央壁際の床面から, 4は覆土下層から出土している。また混入した縄文土器片3点(深鉢), 石器1点(尖頭器)と, 流れ込んだ陶器片5点(碗)が出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀末から7世紀初頭と考えられる。中央部の床下土坑は, 貼床の構築過程で地鎮に関連する祭祀が行われた可能性も考えられるが, 遺物は出土していない。



第64図 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第65図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)

第1号住居跡出土遺物観察表(第64・65図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.7	3.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい・黄緑	普通	外・内面ナデ 底部ヘラ割り後ナデ	甕右袖部	90% PL17
2	土師器	坏	15.0	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面ヘラ割り後ナデ 内面ナデ	甕右袖部	80% PL17
3	土師器	坏	16.0	4.9	-	長石・石英・雲母	にぶい・黄緑	普通	口縁部から底部外面種状工具による横ナデ 体部から底部外面ヘラ割り後ナデ 内面ヘラミガキ 編織痕	甕土中層	70% PL17
4	土師器	坏	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面ヘラ割り後ナデ 内面放射状のヘラミガキ 内面黒色塗	甕土下層	60% PL17
5	土師器	坏	15.9	4.5	-	長石・石英・針状鉱物	にぶい・黄緑	良好	外面種状ナデ 体部から底部外面ヘラ割り後ナデ 内面ナデ	甕土下層	55% PL17
6	土師器	坏	[15.4]	4.2	-	長石・石英・針状鉱物	にぶい・黄緑	良好	口縁部から体部外面種ナデ 底部ヘラ割り後ナデ 編織痕	甕土下層	50% PL17
7	土師器	坏	[15.5]	4.5	7.6	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面体部ヘラ割り後ナデ 内面ナデ 体部外面上位穿孔	甕土下層	40% PL17
8	須恵器	甕	-	(9.5)	-	長石	黄灰	良好	外面外面上位穿孔	甕 溝	90% PL16
9	土師器	甕	-	(10.3)	8.0	長石・石英・雲母・細礫・赤色粒子	にぶい・黄緑	普通	外面編織の痕いへら割り後ナデ 底部外面ヘラ割り 内面黒いへらナデ 編織痕	甕土下層	30% PL16
10	土師器	甕	27.1	27.2	[10.3]	長石・石英・細礫・黒色粒子	にぶい・黄緑	良好	外面種状ナデ 体部外面編織のヘラ割り後ナデ 口縁部及び内面上位ヘラミガキ後ナデ	甕土中層	50% PL17
11	土師器	手柄	[2.5]	2.1	[1.1]	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	外・内面ナデ	甕土中層	40% PL17

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP29	紡錘車	31~50	3.6	0.8	101.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	全面ナデ 一方からの穿孔	甕溝	PL20

2 近世の遺構と遺物

今回の調査で確認した当時代の遺構は、窯跡1基、掘立柱建物跡2棟、欄跡2列、竪穴遺構1基、粘土採掘坑2か所、土坑1基、道路跡2条、溝跡1条を確認した。出土遺物や規模、主軸方向から第1号窯跡に関連すると考えられる一連の遺構については、窯関連遺構として記述する。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

(1) 窯関連遺構

ア 窯跡

第1号窯跡 (第66～70図)

位置 調査区東部のE 5g0区、標高36mほどの平坦な台地上に位置している。

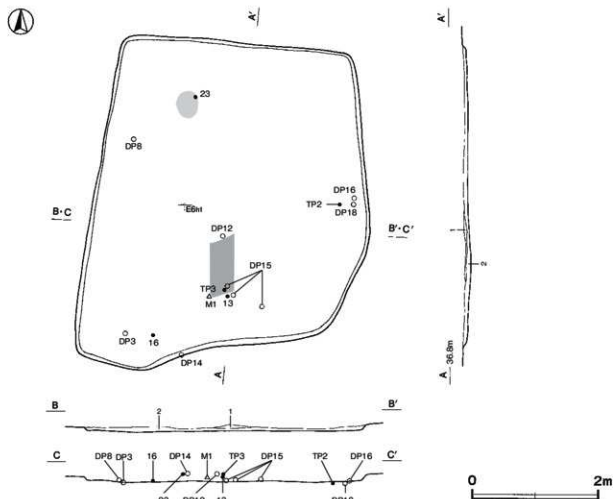
確認状況 窯体は削平を受けており、その設置面と考えられるわずかな掘り込みと、窯内部の構造の痕跡を示す焼土範囲4か所が確認できた。焼土の周囲からは窯壁片と窯道具片が出土している。南部中央からはほぼ真北に延びる幅40cm、長さ85cmの長方形をした火道の底面が確認できた。火床面は赤変硬化している。

規模と形状 長軸5.30m、短軸4.43mの不整長方形で、長軸方向は $N-10^{\circ}-E$ である。

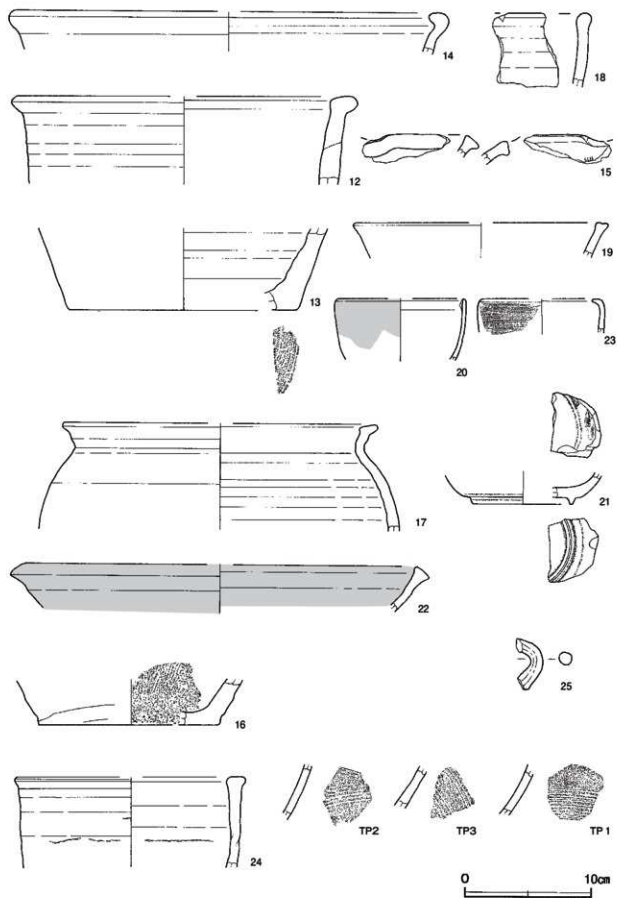
覆土 2層に分層できる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

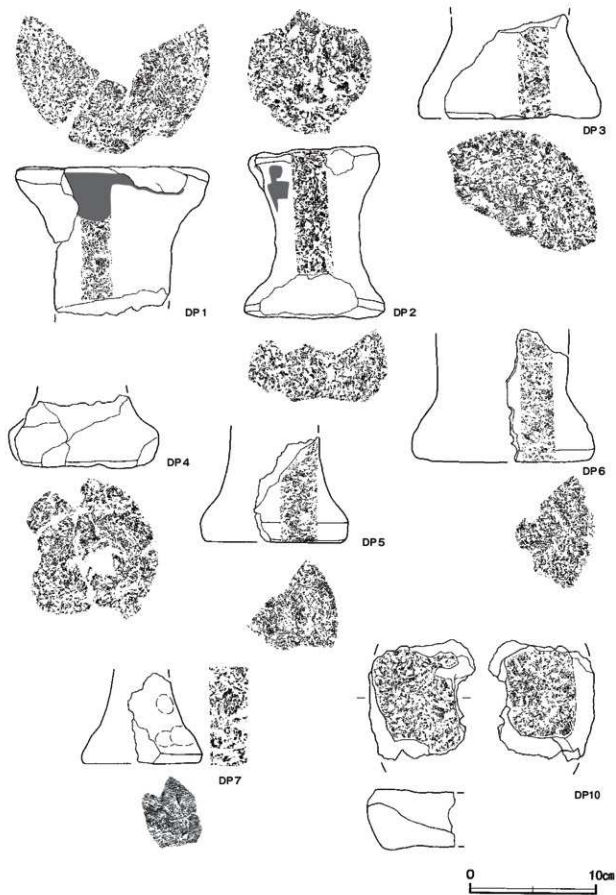
- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化物少量 2 灰褐色 粘土ブロック多量、炭化物少量、焼土ブロック微量



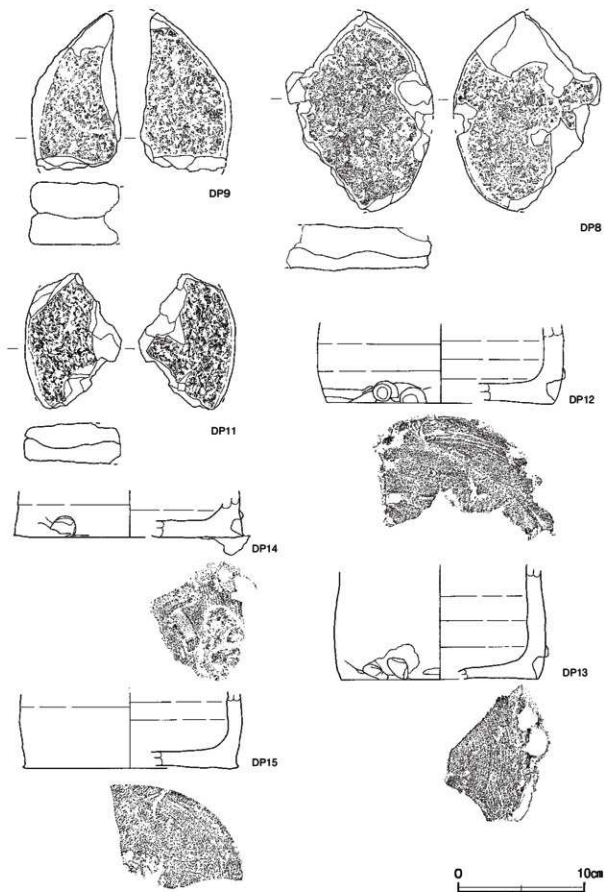
第66図 第1号窯跡実測図



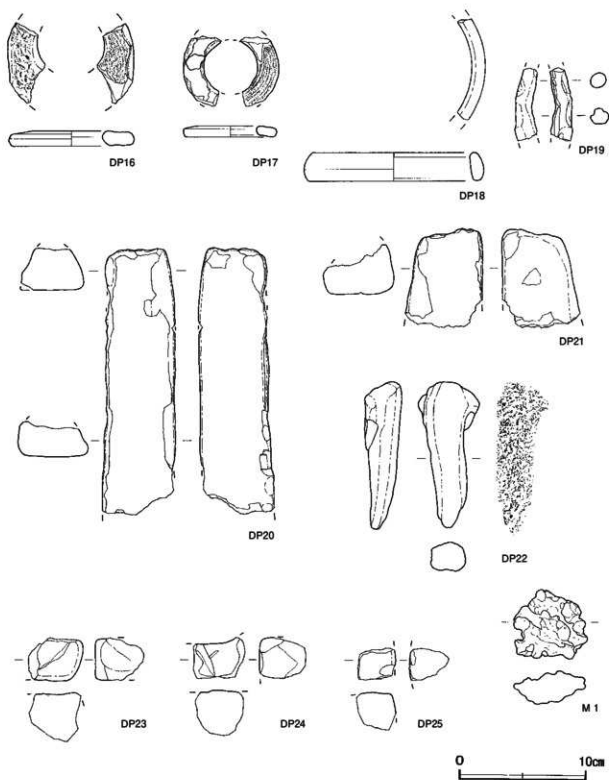
第67図 第1号窯跡出土遺物実測図(1)



第 68 图 第 1 号窯跡出土遺物実測図 (2)



第69圖 第1号窯跡出土遺物実測図(3)



第70図 第1号窯跡出土遺物実測図(4)

遺物出土状況 土師質土器片 156 点（壺類 143、瓶類 2、内耳鍋 4、播鉢 5、鉢 2）、窯道具片 67 点（トチン 17、初団子 7、輪ドチ 3、棒状粘土紐 1、留具 33、杭 1、サヤ鉢 5）、陶器片 5 点（灰吹 1、播鉢 3、碗 1）、磁器片 2 点（碗）、桶状滓 1 点（1026 g）、窯壁 3 点が出土している。DP15 は火道とその南側覆土下層から出土した破片が接合している。13 は火道の南側の覆土中層から、TP 3 は火道の上面から、DP12 は火道の北側の確認面から出土している。23 は北部西寄りの焼土上面から、DP 8 は北部西寄りの覆土下層から、16 と DP 3 は南部西寄りの床面から、DP14 は南部壁際の覆土上層から、TP 2・DP16・DP18 は東部中央の床面から出土している。また、混入した縄文土器片 29 点（深鉢、土師器片 28 点（坏 2、甕類 26））が出土している。

所見 火道と見られる焼土範囲の周辺から、窯壁と窯道具が出土していることから窯跡と考えられる。窯壁や窯道具の焼け具合から判断すると、窯自体は短期の操業で廃棄されたと考えられる。時期は、窯構造の痕跡とみられる火道の長軸方向が、第 2・3 掘立柱建物跡とはほぼ同じであることから同時期であり、21 が出土していることから 18 世紀後葉以降と考えられる。

第 1 号窯跡出土遺物観察表（第 67～70 図）

番号	種別	器種	口径(長さ)	器高(幅)	底径(厚さ)	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	土師質土器	鉢	[28.5]	(7.0)	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外・内面口ロナデ 輪轆痕	覆土中	10%
13	土師質土器	鉢	-	(6.5)	[18.0]	長石・石英・雲母・黒色粒子	黒	普通	底部回転糸切り	覆土中層	5%
14	土師質土器	鉢	[33.9]	(3.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面口ロナデ	覆土中	5%
15	土師質土器	播鉢	-	(2.4)	-	長石・石英・黒色粒子	浅黄褐色	不良	体部外・内面横ナデ	覆土中	5%
16	土師質土器	播鉢	-	(3.6)	[14.4]	長石・石英	黒褐色	普通	内面掻目摩滅 底部下層板ハナ割り	床面	10%
17	土師質土器	甕	[24.6]	(8.5)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面口ロナデ	覆土中	15%
18	土師質土器	甕	-	(5.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面口ロナデ 内面摩滅	覆土中	5%
19	土師質土器	内耳鍋	[19.8]	(2.8)	-	赤色粒子	浅黄褐色	不良	体部外・内面横ナデ	覆土中	5%
20	陶器	碗	[10.0]	(5.0)	-	緻密	緑灰	良好	外面踏輪	覆土中	5%
21	磁器	碗	-	(2.6)	[7.8]	緻密	灰白	普通	染付 外面貫入	覆土中	10% 成色見
22	陶器	鉢	[31.2]	(3.7)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤褐色	普通	外・内面踏輪 貫入	覆土中	5%
23	陶器	火入	[9.4]	(2.6)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄褐色	良好	外面横位の棒目掻き	焼土上面	5%
24	陶器	灰吹	[18.0]	(7.2)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	良好	外・内面口ロナデ 輪轆痕 自然輪	覆土中	10% PL16
25	陶器	蒸れ把手	(4.1)	(2.1)	1.2	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	断面円形	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP1	土師質土器	播鉢	長石・石英	黒	外・内面ナデ	覆土中	PL16
TP2	土師質土器	播鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	8条1単位の窪り目 外面摩滅	床面	PL16
TP3	土師質土器	播鉢	石英・黒色粒子・赤色粒子	明黄褐色	外面ナデ	火道上面	PL16

番号	器種	高さ	幅	厚さ	径(皿径)	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP1	トチン	(11.9)	-	-	15.3	-	(1108.3)	長石・糊濁	手捏成型 棒轆痕 傑付着	覆土中	PL18
DP2	トチン	13.7	-	-	11.2	-	(1027.9)	長石・黒色粒子	手捏成型 棒轆痕 瓦部砂床の砂付着 傑付着	覆土中	PL18
DP3	トチン	(8.2)	-	-	[14.4]	-	(515.6)	長石	手捏成型 棒轆痕	床面	PL18
DP4	トチン	(5.7)	-	-	12.0	-	(463.2)	長石	手捏成型 棒轆痕	覆土中	PL18
DP5	トチン	(8.5)	-	-	[11.1]	-	(374.8)	長石	手捏成型 棒轆痕	覆土中	PL18
DP6	トチン	(10.6)	-	-	[14.4]	-	(318.2)	長石・石英・赤色粒子	手捏成型 棒轆痕	覆土中	PL18
DP7	トチン	(7.2)	-	-	(9.6)	-	(158.1)	長石・石英	底部砂床砂付着 指頭痕	覆土中	PL18

番号	器種	長さ・高さ	幅	厚さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 8	栴檀子	(159)	(117)	3.7	-	-	(5139)	長石・石英・赤色粒子	全面粒散痕 側面に栴檀子重ね痕	覆土下層	PL19
DP 9	栴檀子	(124)	(69)	5.0	-	-	(4100)	長石	全面粒散痕 側面に栴檀子重ね痕	覆土中	PL18
DP10	栴檀子	(96)	(85)	4.8	-	-	(344.3)	長石	全面粒散痕 側面に栴檀子重ね痕	覆土中	PL18
DP11	栴檀子	(107)	(77)	(34)	-	-	(245.3)	長石・石英	全面粒散痕 側面に栴檀子重ね痕	覆土中	PL18
DP16	輪下子	-	(29)	1.2	[100]	[55]	(200)	黒色粒子	上面に焼成時の高台痕	床面	PL19
DP17	輪下子	-	(31)	0.9	[75]	[43]	(130)	黒色粒子	上面に焼成時の高台痕 ピン刺痕	覆土中	PL19
DP18	輪下子	23	-	1.1	[137]	-	(150)	長石・石英	全面ナデ	床面	PL19
DP19	輪状粘土餅	(58)	1.8	1.3	-	-	(135)	黒色粒子	断面円形・不定形 指痕	覆土中	PL19
DP20	留具	(211)	5.6	(32)	-	-	(356.2)	細粒・黒色粒子	全面ナデ 指痕	覆土中	PL19
DP21	留具	(78)	6.2	(40)	-	-	(120.7)	長石・黒色粒子	全面ナデ	覆土中	
DP22	杖	11.7	4.8	2.9	-	-	105.0	長石・石英・赤色粒子	断面不定形 手捏成型 粒散痕	覆土中	PL19
DP23	窯壁	(34)	(43)	(39)	-	-	(46.3)	白色粒子・黒色粒子	焼熱による弱い赤変有	覆土中	PL19
DP24	窯壁	(33)	(41)	(36)	-	-	(41.2)	白色粒子・黒色粒子	焼熱による弱い赤変有	覆土中	PL19
DP25	窯壁	(26)	(29)	(32)	-	-	(22.1)	長石・石英・赤色粒子	焼熱による弱い赤変有	覆土中	

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
DP12	サヤ鉢	-	(6.3)	[181]	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐	普通	ロクロ成型後取上げ指痕(2カ所) 底部回転糸切り 不純物取り出し指痕	覆土上層	35% PL19
DP13	サヤ鉢	-	(9.1)	[156]	長石・黒色粒子	暗灰黄	良好	底部回転糸切り 取上げ指痕	覆土中	20% PL19
DP14	サヤ鉢	-	(3.6)	[182]	長石・石英	に高い赤褐	普通	底部回転糸切り 取上げ指痕 底部移家の移付痕	覆土上層	20%
DP15	サヤ鉢	-	(6.1)	[170]	長石・石英・雲母・黒色粒子	に高い赤褐	普通	内面ナデ 底部回転糸切り	覆土下層	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	輪状漆	5.5	5.8	2.5	102.6	鉄	褐色は黒褐色 表面は顆粒状突起及び気孔が点在し凹凸がある 底面は輪状で凹凸少ない	覆土中	PL20

イ 掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡 (第71図)

位置 調査区東部の E 5 e0 区、標高 37 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 96 号土坑に掘り込まれている。また、第 2 号橋跡、第 89 号土坑、第 6 号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 四面に堀を伴う桁行 3 間、梁行 1 間の掘立柱建物跡で、桁行方向が N - 11° - W の南北棟である。規模は桁行 3.90m、梁行 2.10m で、面積は 8.19m² である。柱間寸法は、桁行が北妻から 1.20m (4 尺)・1.50m (5 尺)・1.20m (4 尺) で、梁行は 2.10m (7 尺) に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

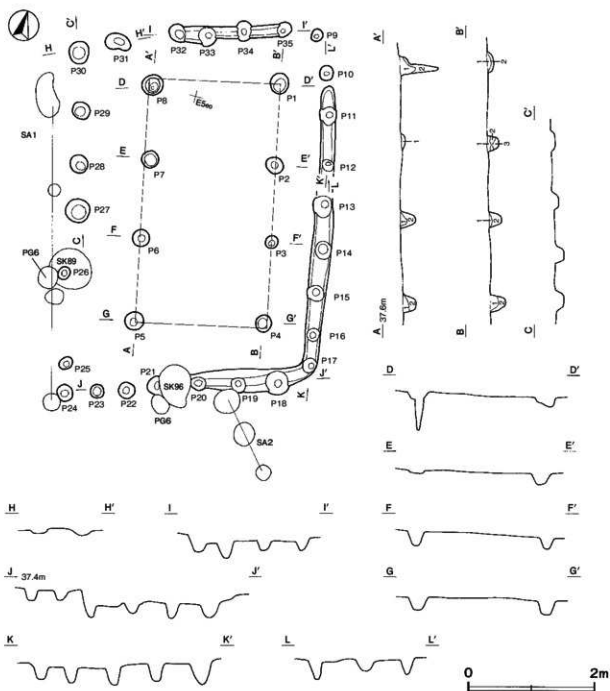
柱穴 主柱穴 8 か所、堀柱穴 27 か所の 35 か所。P 1 ~ P 8 は主柱穴である。平面形は円形または楕円形で、長径 20 ~ 32cm、短径 18 ~ 30cm、深さは 4 ~ 61cm である。P 9 ~ P 35 は堀柱穴で、P11 ~ P20、P32 ~ P35 は溝を伴っている。平面形は円形または楕円形で、長径 20 ~ 40cm、短径 18 ~ 35cm、深さは 6 ~ 40cm である。堀柱穴の柱間寸法は、0.6 m (2 尺) ~ 0.9 m (3 尺) で柱筋はほぼ揃っている。

覆土 粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

柱土層屑 (各柱穴共通)

- 1 堀 褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 堀 色 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

所見 桁行方向が第 1 号窯跡の火道の長軸方向とほぼ同じであることから、第 1 号窯跡に関連する施設と考えられる。時期は近世と考えられる。



第71図 第2号掘立柱建物跡実測図

第3号掘立柱建物跡 (第72図)

位置 調査区東部のE 5e7区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造 四面に塀を伴う桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-10°-Wの南北棟である。規模は桁行3.60m、梁行2.10mで、面積は7.56m²である。柱間寸法は桁行が1.20m(4尺)、梁行が2.10m(7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 主柱穴8か所、側柱穴19か所の27か所。P1~P8は主柱穴である。平面形は円形または楕円形で、長径18~32cm、短径15~30cmで、深さは10~40cmである。P9~P27は側柱穴である。平面形は円

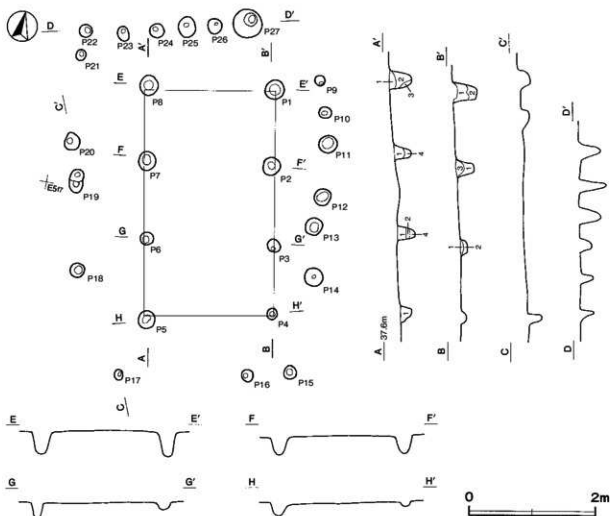
形または楕円形で、長さ17～45cm、短径12～43cm、深さは12～42cmである。堀の柱間寸法は0.3m（1尺）～2.1m（7尺）で柱筋はほぼ揃っている。

覆土 ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 4 黒色 ロームブロック微量 |

所見 第2号掘立柱建物跡と同様に堀柱穴を持ち、同規模で桁行方向もほぼ一致することから、第2号掘立柱建物跡と同時期とみられる。また第2号掘立柱建物跡と共に、第1号竈跡に関連する施設と考えられる。時期は、近世と考えられる。



第72図 第3号掘立柱建物跡実測図

表9 近世の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		面積 (㎡)	柱間寸法		構造	柱穴数	柱穴		出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
			桁×梁(間)	桁×梁(m)		桁間(m)	梁間(m)			平面形	深さ(cm)			
2	E 5e0	N-11°-W	3×1	3.90×2.10	8.19	1.2-1.5	2.1	欄柱	7:8 層:27	円形・楕円形	上:4-6cm 層:6-8cm	-	近世	本跡→SK89・96, SA2, P36
3	E 5e7	N-10°-W	3×1	3.60×2.10	7.56	1.2	2.1	欄柱	上:8 層:19	円形・楕円形	上:10-15cm 層:12-15	-	近世	SK167

ウ 欄跡

第1号欄跡 (第73図)

位置 調査区東部のE 5e9区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南北方向に柱穴4か所が並び、方向はN-19°-Wである。柱間寸法は北から1.2m(4尺)、1.8cm(6尺)、1.8m(6尺)で、柱筋はほぼ整っている。

柱穴 平面形は円形または楕円形で、長径20~72cm、短径20~39cmである。

所見 第2号掘立柱建物跡に近接し、主軸方向がほぼ同じであることから、これと関連する欄跡と考えられる。時期は、近世と考えられる。



第73図 第1号欄跡実測図

第2号欄跡 (第74図)

位置 調査区東部のE 5f0区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

重複 第2号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南北方向に柱穴3か所が並び、方向はN-40°-Wである。柱間寸法は0.6m(2尺)で、柱筋はほぼ整っている。

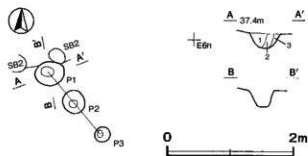
柱穴 平面形は円形または楕円形で、長径23~48cm、短径23~38cm、P1の深さは24cmである。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・白色スコリア粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

所見 第2号掘立柱建物跡に関連する欄跡と考えられる。時期は、近世と考えられる。



第74図 第2号欄跡実測図

表10 近世の欄跡一覧表

番号	位置	主軸方向	長さ(m)	柱間(m)	柱 穴				備 考 (重複関係)
					柱穴数	平面形	長径(cm)	短径(cm)	
1	E 5e9	N-19°-W	4.8	1.2-1.8	4	円形・楕円形	20-72	20-39	-
2	E 5f0	N-40°-W	1.2	0.6	3	円形・楕円形	23-48	23-38	24

エ 竪穴遺構

第1号竪穴遺構 (第75図)

位置 調査区東部のE 5e8区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.75m、短軸2.60mの方形で、長軸方向はN-80°-Eである。壁高は55~62cmで、外傾して立ち上がっている。

ピット 2か所。P1は深さ8cm、P2は深さ22cmである。配置から柱穴と考えられる。

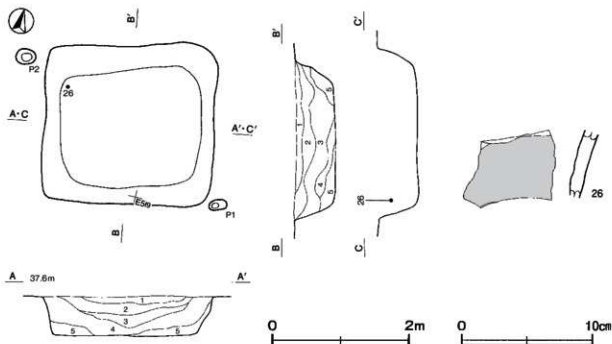
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|----------------|
| 1 灰 褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化物微量 | 5 暗 褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 陶器片2点(甕)が出土している。26は覆土中層から出土している。また、混入して土師器片5点(甕類)も出土している。

所見 時期は、出土土器から近世と考えられ、第2・3号掘立柱建物跡と長軸方向が一致することから関連遺構と考えられる。性格は不明である。



第75図 第1号竪穴遺構・出土遺物実測図

第1号竪穴遺構出土遺物観察表(第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
26	陶器	甕	-	(51)	-	辰石・石灰	に濃い赤褐色	良好	内面縦いナデ 外面鉄輪	覆土中層	5% 香滑 図16

オ 粘土採掘坑

第1号粘土採掘坑(第76図)

位置 調査区東部のE5g4区、標高37mのほぼ平坦な台地上に位置している。

確認状況 第13・14・15号溝を調査中に確認できた。

重複関係 第13・14・15号溝に掘り込まれている。

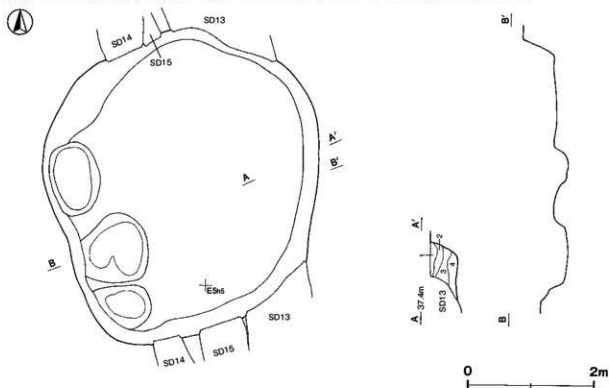
規模と形状 長径4.70m、短径4.37mの不整形円で、長径方向はN-6'-Wである。深さは20~50cmで、粘土採掘のための掘り込みが各所に認められ、底面には凹凸がある。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。各層にローム、粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|--------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化物微量 | 3 黒 褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |

所見 第2号粘土採掘坑と近接し、規模・形状が似ていることから、時期は近世と考えられる。



第76図 第1号粘土採掘坑実測図

第2号粘土採掘坑（第77図）

位置 調査区東部のE5g3区、標高37mのほぼ平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号道路跡を掘り込み、第115・122・123・136号土坑に掘り込まれている。第115号土坑は本跡の底面まで達していない。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため、南西・北東軸は3.40mで、北西・南東軸は4.37mしか確認できなかった。不整形円形と推定され、長径方向はN-30°-Wである。深さは39～71cmで、粘土採掘のための掘り込みが各所に認められ、底面には凹凸がある。壁は外傾して立ち上がっている。

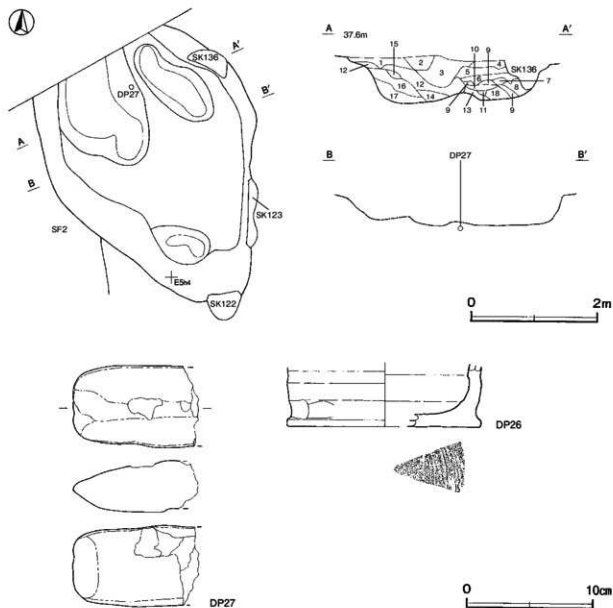
覆土 18層に分層できる。各層にロームブロックが含まれているが、周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、白色粘土粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	炭化物・ローム粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック微量	12 黒褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック少量、白色粘土ブロック微量	13 灰白色	白色粘土ブロック多量、ローム粒子微量
5 灰褐色	ロームブロック・白色粘土粒子微量	14 黒褐色	白色粘土ブロック中量、ローム粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック微量	15 黒褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック微量
7 褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック微量	16 黄褐色	ロームブロック多量、白色粘土ブロック微量
8 明黄褐色	ロームブロック多量	17 黒色	白色粘土ブロック・ローム粒子微量
9 明黄褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量	18 黄褐色	ロームブロック多量、白色粘土ブロック少量

遺物出土状況 陶器片1点（鉢）、竈道具片2点（サヤ鉢、留具）が出土している。DP27は北部の底面から、DP26は覆土中から出土している。

所見 竈道具が出土していることから第1号窯跡に関連した遺構と考えられる。時期は出土遺物から近世と考えられる。



第 77 図 第 2 号粘土採掘坑・出土遺物実測図

第 2 号粘土採掘坑出土遺物観察表 (第 77 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
DP26	サヤ鉢	-	(5.0)	[15.3]	長石・黒色粒子	に濃い 橙	良好	外面下部ヘラナデ 内面ナデ 底部斜転糸切り	覆土中	10% PL19

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP27	器具	(10.0)	6.5	4.2	(3027)	黒色粒子・長石・石英	底端部ヘラ削り	底面	PL19

表 11 近世の粘土採掘坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (cm)	深さ (cm)					
1	E 5g4	N - 6° - E	不整形円形	4.70 × 4.37	20 - 50	凹凸	外傾	人為	-	本跡→SD13・14・15
2	E 5g3	N - 30° - W	不整形円形	(4.37) × (3.40)	39 - 71	凹凸	外傾	自然	サヤ鉢, 器具	SF2→本跡→SK115・122・123・136

カ 土坑

第90号土坑 (第78図)

位置 調査区東部のE5d0区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

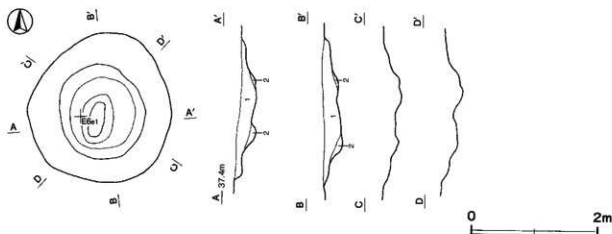
規模と形状 長径2.40m、短径2.20mの円形で、深さは28cmである。底面には凹凸があり、壁は傾斜して立ち上がっている。底面の中心部を除いて、壁面に粘土ブロックを含む第2層が貼り付けられている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック少量 2 褐色 黄色粘土ブロック中量

所見 西側に第2号掘立柱建物跡が近接していることから、これに併設された遺構と考えられる。時期は、同時期の近世と考えられる。



第78図 第90号土坑実測図

(2) 道路跡

第1号道路跡 (第79図)

位置 調査区東部のE5f2区～F5a1区にかけて、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号道路跡、第11号溝跡と第74号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北端部が調査区域外へ延び、南端部は削平されているため長さ21.4mしか確認できなかった。硬化面の幅は、確認できた範囲で2.30～3.05mである。F5a1区から緩やかに湾曲して北東方向(N-37°-E)に延びた後、北方向(N-9°-E)にほぼ直線的に延びている。掘方は溝状で上幅2.42～3.08m、下幅1.80～2.80m、深さは45cmで断面は不定形である。

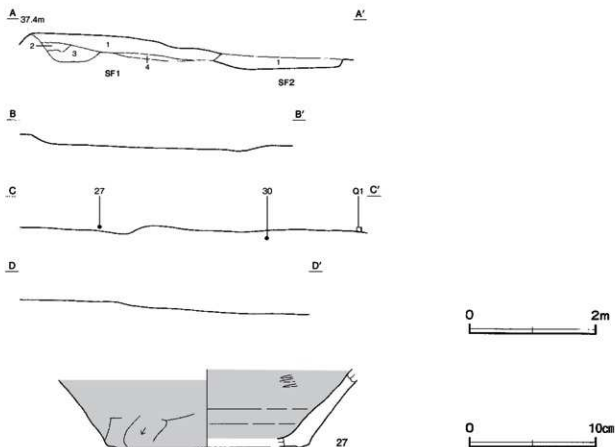
構築土 4層に分層できる。第1～4層はロームブロックを含む道路の構築土で、路面は第1層の上面で硬化面は1面である。

土層解説

- 1 にいり黄褐色 ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量 3 褐色 灰色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量
2 褐色 灰色 ロームブロック中量、白色粘土粒子少量 4 褐色 灰色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋)、陶器片5点(播鉢1・甕4)、竈道具片20点(トチン)が出土している。27は南部の路面から出土している。縄文土器片1点(深鉢)、土師器片3点(甕)も出土している。

所見 時期は、出土土器から近世と考えられる。



第79図 第1・2号道路跡、第1号道路跡出土遺物実測図

第1号道路跡出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
27	陶器	深鉢	-	(6.2)	[16.0]	長石・石英	にぶい赤褐	良好	3条1単位の羅目 底部下端へラ開り後斜位のヘラナデ 外・内面鉄線	路面	10% 常滑

第2号道路跡(第79・80図)

位置 調査区北部のE 5j3区～E 5j4区にかけて、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号道路跡と第2号粘土探掘坑に掘り込まれている。

規模と形状 北端部が調査区域外へ延び、南端部は削平されているため、長さ16.2mしか確認できなかった。硬化面の幅は、確認できた範囲で0.65m～2.35mである。F 5a3区から北方向(N-9°-E)に直線的に延びている。

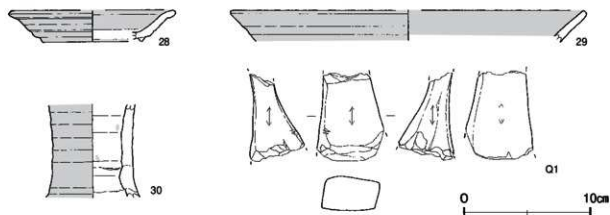
覆土 単一層である。堆積状況は不明である。第1層下の地山上面が路面で、硬化面は1面である。

土層解説

1 黒褐色 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋)、陶器片13点(碗3、大皿1、小皿1、仏花瓶1、甕7)、石器1点(砥石)、礫1点が出土している。30、Q1は南部の路面から、28・29は覆土中から出土している。また、混入と考えられる縄文土器片1点(深鉢)、土師器片7点(甕)、鉄滓1点(12.0g)も出土している。

所見 時期は、出土土器から近世と考えられる。



第80図 第2号道路跡出土遺物実測図

第2号道路跡出土遺物観察表 (第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
28	陶器	小瓶	[126]	2.5	[79]		黒色粒子	オリブ黄	良好	外・内面緑釉 口縁部青緑	路面	15%
29	陶器	大瓶	[28.0]	(2.4)	-	長石・石英	灰オリブ	普通	外・内面緑釉	口縁部外面釉剥離	覆土中	5%
30	陶器	仏花瓶	-	(7.4)	-	-		オリブ黄	良好	外面施釉 貫入 内面ナデ 内面釉付着	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	紙石	(7.0)	5.3	4.3	(17.0)	砂岩	紙面4面 他は破断面	路面	PL20

表12 近世の道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模			断面	裡面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
1	E 5 02 ~ F 5 a1	N-37°-E N-9°-E	J字状	(21.4)	2.30 ~ 3.05	1.75 ~ 2.78	8 ~ 13	不定形	紙斜	-	土師質土器, 陶器, 漆器 SF2, S D 11, SK74 → 本跡 本跡 → SF1, SN2
2	E 5 03 ~ E 5 j4	N-9°-E	直線状	(16.2)	(0.65) ~ (2.25)	(0.65) ~ (1.10)	5 ~ 10	-	紙斜	大畷	土師質土器, 陶器, 紙石

(3) 溝跡

第12号溝跡 (第81図)

位置 調査区中央部の F 4 c9 ~ F 5 a3 区, 標高 37 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西端部が調査区域外へ延び, 東端部は削平されているため, 長さ 1457 m しか確認できなかった。F4c9 区から東方向に (N - 57° - E) に直線的に延びている。上幅 0.22 ~ 0.69m, 下幅 0.10 ~ 0.44m, 深さ 8 ~ 15cm である。底面は浅い U 字状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

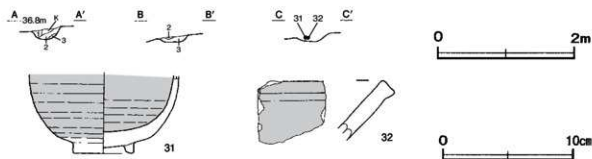
覆土 3層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 3 暗褐色 色 ロームブロック中量, 炭化材微量
2 黒色 色 白色スコリア少量, ロームブロック・炭化材微量

遺物出土状況 陶器片 2 点 (鉢, 尾呂茶碗) が出土している。32 は中央部の底面から, 31 は中央部西寄りの底面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 17 世紀後葉以降と考えられる。



第81図 第12号溝跡・出土遺物実測図

第12号溝跡出土遺物観察表(第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
31	陶器	尾呂茶碗	-	(6.1)	[4.8]	長石・石英	陶	普通	高台部除き外・内面鉄釉	底面	30% PL16 層P1
32	陶器	鉢	-	(4.7)	-	長石	暗赤陶	良好	鉄釉 内面輪刷	底面	10% 常滑

3 その他の遺構と遺物

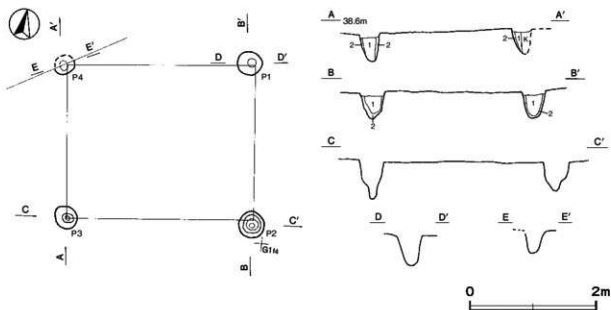
出土遺物がないことから、時期を決定できない掘立柱建物跡3棟、井戸跡1基、土坑14基、溝跡15条、ピット群6か所が確認できた。また、遺構に伴わない遺物が出土している。以下、特色ある遺構について記述し、それ以外は実測図と一覧表を掲載する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡(第82図)

位置 調査区西部のG1e3区、標高38mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 桁行、梁行とともに1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-84°-Eの東西棟である。規模は桁行3.00m、梁行2.40mで、面積は7.20㎡である。柱間寸法は桁行が3.00m(10尺)、梁行が2.40m(8尺)で、柱筋はほぼ揃っている。



第82図 第1号掘立柱建物跡実測図

柱穴 4か所。平面形は円形で、径30～42cmである。深さは34～60cmである。

覆土 2層に分層できる。第1層は抜き取り後の覆土、第2層は埋土である。

土層解説

1 黒色 ローム粒子・七本板粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック少量、七本板パミス微量

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明である。

第4号掘立柱建物跡 (第83図)

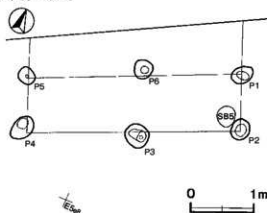
位置 調査区東部のE5d8区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第5号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 北部が調査区域外に延びているため、桁行は2間で桁行は1間しか確認できなかった。桁行方向がN-22°-Wの南北棟である。規模は桁行が1.90m以上、梁行が3.30mである。柱間寸法は、梁行が西平から1.80m(6尺)、1.50m(5尺)、桁行が0.90m(3尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。平面形は、径23～43cmの円形または楕円形で、深さは10～36cmである。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明である。



第83図 第4号掘立柱建物跡実測図

第5号掘立柱建物跡 (第84図)

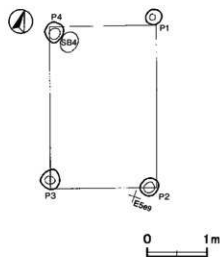
位置 調査区東部のE5d8区、標高37mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行、梁行ともに1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-20°-Wの南北棟である。規模は桁行2.70m(9尺)、梁行1.80m(6尺)で、面積は4.86㎡である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 4か所。平面形は、径25～35cmの円形または楕円形で、深さは12～29cmである。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明である。



第84図 第5号掘立柱建物跡実測図

表13 時期不明の掘立柱建物跡一覧

番号	位置	桁行方向	柱間数		規模	面積	柱間寸法		柱穴			主要出土遺物	備考 重複関係(古→新)
			桁×梁(間)	桁×梁(m)			桁間(m)	梁間(m)	構造	柱数	平面形		
1	G 1e3	N-84°-W	1×1	3.00×2.40	7.2	3.00	2.40	側柱	4	円形	34～60	-	-
4	E 5d8	N-22°-W	(1)×2	(1.90)×3.30	(5.94)	1.50～1.80	0.90	総柱	6	円形・楕円形	10～36	-	SBS
5	E 5d8	N-20°-W	1×1	2.70×1.80	4.86	2.70	1.80	側柱	4	円形・楕円形	12～29	-	SB4

(2) 井戸跡

第1号井戸跡(第85図)

位置 調査区西部のF2j6区、標高38mほどのほぼ平坦な台地上に位置している。

重複関係 第8号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

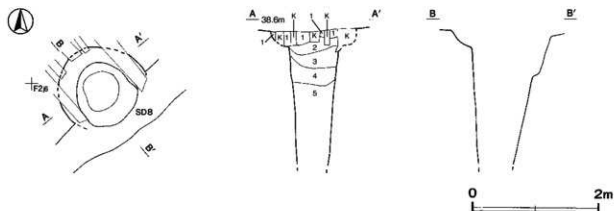
規模と形状 南東部が第8号溝跡と重複しているため、確認面の北東・南西径は1.42mで、北西・南東径は1.28mしか確認できなかった。円形と推定される。確認面から0.27mまで漏斗状に、以下は径0.78mほどの円筒状に掘り込まれ、下部に向かい徐々に狭まっている。2.07mほど掘り下げた時点で壁の崩落が想定できたので、下部の調査を断念した。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや鹿沼バミスブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量 | 5 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量 | | |

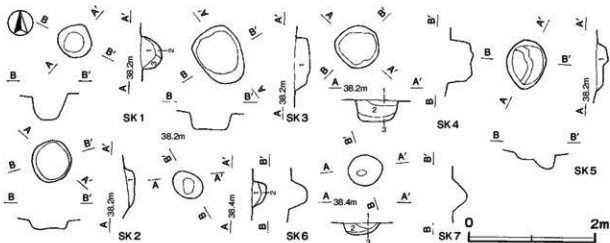
所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明である。



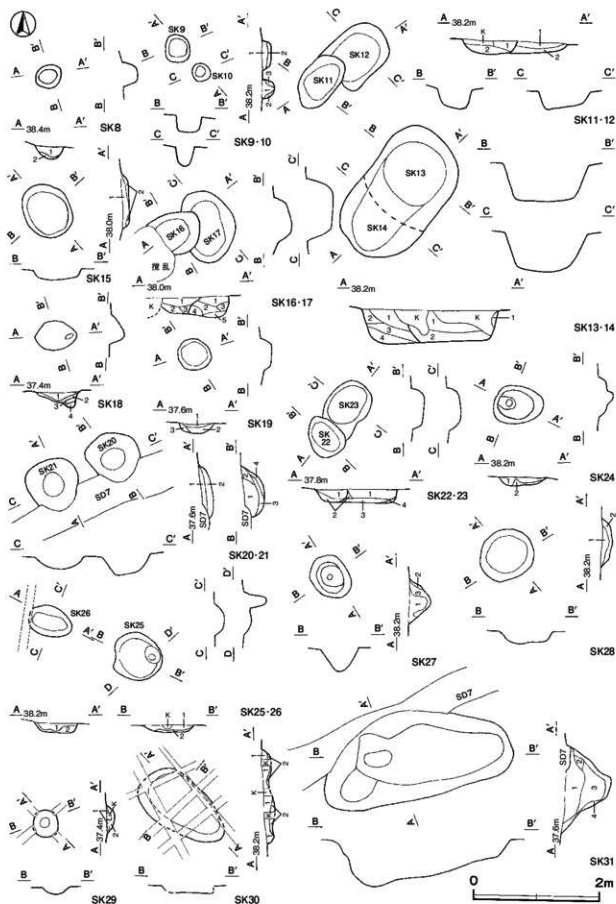
第85図 第1号井戸跡実測図

(3) 土坑

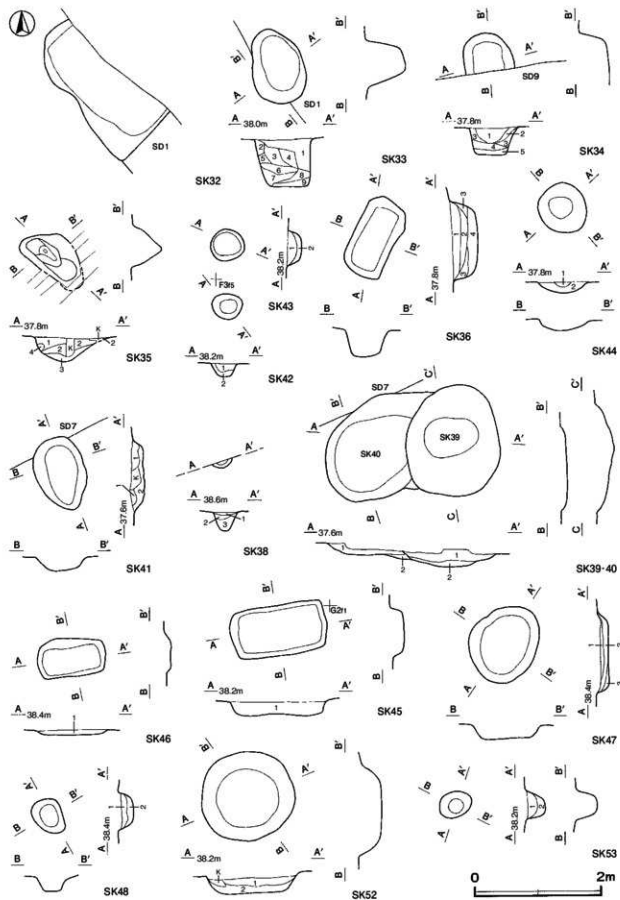
今回の調査で、性格・時期ともに不明な土坑145基を確認した。これらの土坑については、規模・形状等について実測図と土層解説、一覧表を掲載するにとどめる。



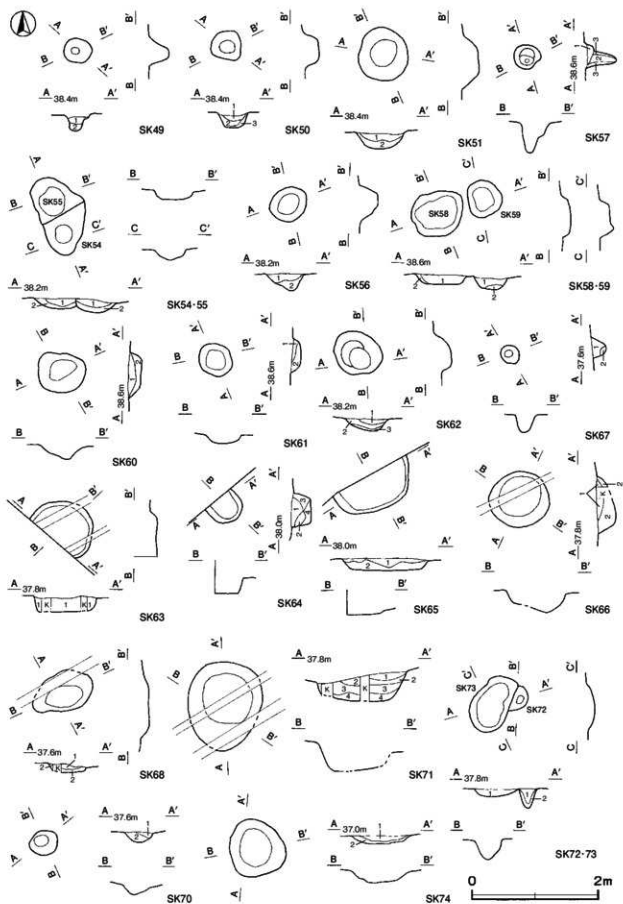
第86図 時期不明の土坑実測図(1)



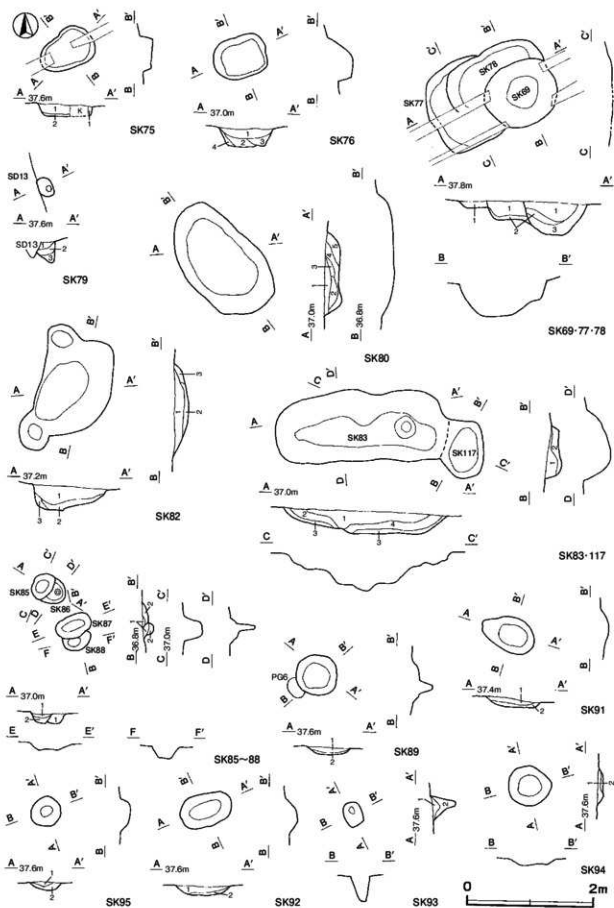
第 87 図 時期不明の土坑実測図 (2)



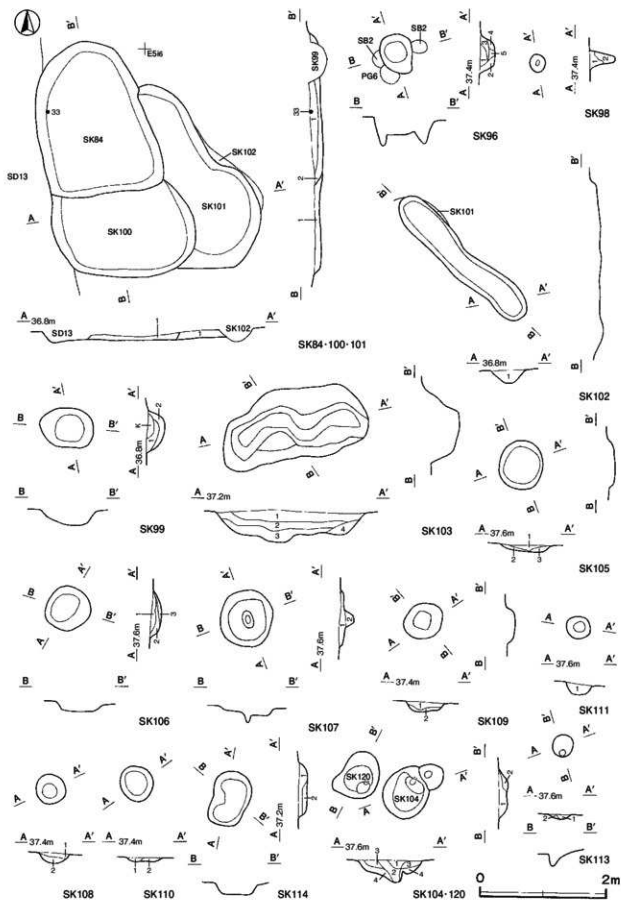
第88図 時期不明の土坑実測図(3)



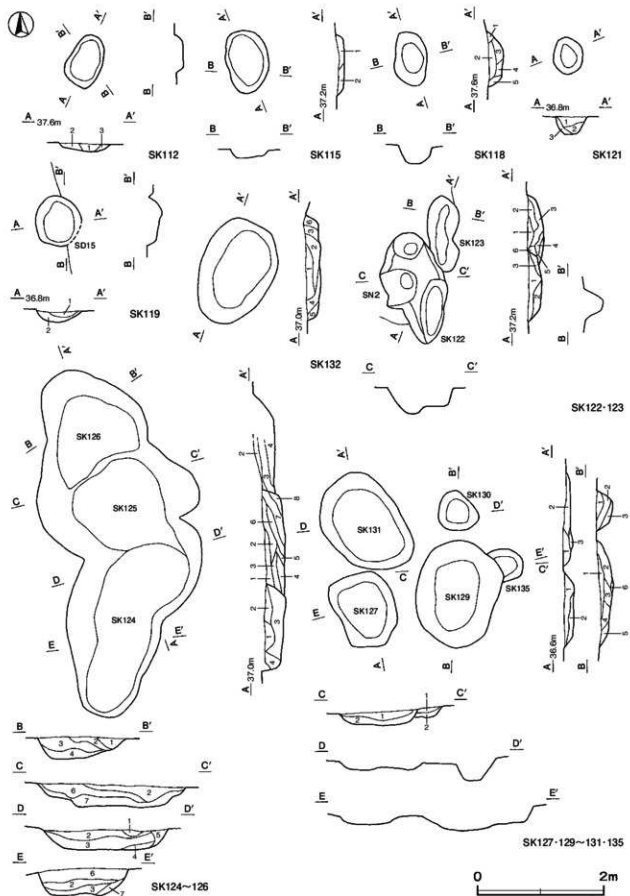
第89図 時期不明の土坑実測図(4)



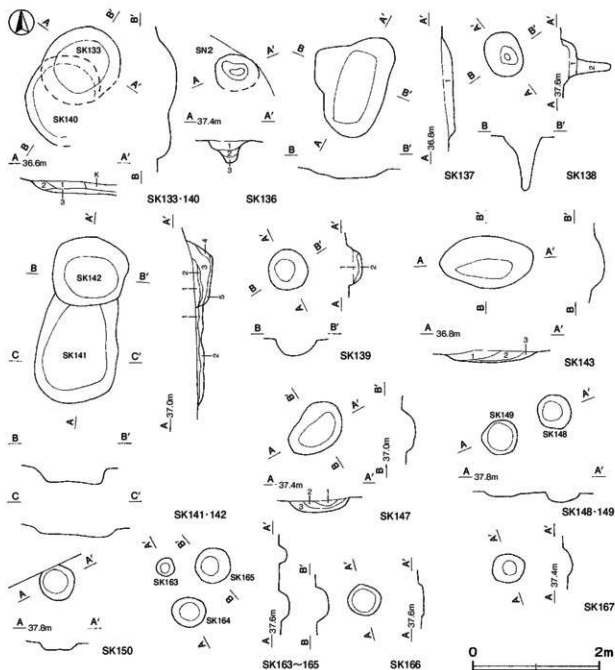
第90図 時期不明の土坑実測図(5)



第91図 時期不明の土坑実測図(6)



第92図 時期不明の土坑実測図(7)



第93図 時期不明の土坑実測図(8)

第1号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
- 2 黒灰色 ローム粒子少量、焼土粒子・白色粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・白色粒子微量

第2号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック少量

第3号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第4号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒色 ロームブロック・焼土粒子少量

第5号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物微量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、白色粒子・七本板パミス微量

- 2 褐色 ローム粒子多量、白色粒子・七本板パミス微量

第7号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・白色粒子・七本板パミス微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・白色粒子微量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、白色粒子・七本板パミス微量

第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、白色粒子・七本板パミス微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、七本板パミス微量

第10号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・白色粒子・七本板パミス微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、白色粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、七本板パミス微量

第11号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、七本松バミス微量
- 2 黒 色 ロームブロック少量、七本松バミス微量

第12号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、七本松バミス微量
- 2 黒 色 ロームブロック中量

第13号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 色 ロームブロック微量

第14号土壌層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 黒 色 ロームブロック少量

第15号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

第16号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量

第17号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第18号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック微量

第19号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
- 2 灰 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐色 ローム粒子微量

第20号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・七本松バミス・鉄分微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・七本松バミス少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、七本松バミス微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック・七本松バミス少量

第21号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 灰 褐色 ロームブロック少量、七本松バミス微量

第22号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

第23号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量

第24号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・白色スコリア少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第25号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色スコリア微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第26号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、白色スコリア少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第27号土壌層解説

- 1 黒 色 ロームブロック・焼土粒子・白色スコリア少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・白色スコリア少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、白色スコリア少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第28号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・白色スコリア少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第29号土壌層解説

- 1 黒 色 炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第30号土壌層解説

- 1 黒 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第31号土壌層解説

- 1 黒 色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黒 色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒 色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量

第33号土壌層解説

- 1 黒 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 4 黒 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 6 黒 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 7 褐色 白色粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 8 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 9 黒 褐色 白色粘土ブロック・ロームブロック少量、焼土粒子微量

第34号土壌層解説

- 1 黒 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・鹿沼バミス微量
- 3 黒 褐色 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・粘土粒子・鹿沼バミス微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量、粘土ブロック微量

第35号土壌層解説

- 1 黒 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 2 黒 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 4 黄 灰 褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量

第36号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量

第38号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・白色粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量

第39号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

第40号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、七本松バミス・粘土粒子微量
- 2 灰 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

第41号土壌層解説

- 1 黒 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・白色スコリア微量

第42号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・白色スコリア微量

第43号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第44号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・七本板バミス微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第45号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

第46号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第47号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子・七本板バミス微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、白色粘土粒子・七本板バミス微量
- 3 褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量

第48号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・白色粘土粒子・七本板バミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・白色粘土粒子・七本板バミス微量

第49号土坑土層解説

- 1 黒褐色 白色粘土粒子少量、ロームブロック・七本板バミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、七本板バミス微量

第50号土坑土層解説

- 1 暗褐色 白色粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・白色粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、白色粒子・七本板バミス微量

第51号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・白色粒子少量、七本板バミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、白色粒子・七本板バミス微量

第52号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、白色粒子・七本板バミス微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、七本板バミス・鉄分微量

第53号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、白色粘土粒子・七本板バミス微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第54号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・白色粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・白色粒子・七本板バミス微量

第55号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・白色粒子・七本板バミス微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、七本板バミス微量

第56号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・白色粒子少量、七本板バミス微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、白色粒子・七本板バミス微量

第57号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・白色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・七本板バミス微量
- 2 黒色 ローム粒子・炭化粒子・白色粒子・七本板バミス微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子・七本板バミス微量

第58号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・七本板バミス微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、七本板バミス微量

第59号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・白色粒子・七本板バミス少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第60号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・白色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・七本板バミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、白色粒子・七本板バミス少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第61号土坑土層解説

- 1 黒褐色 白色粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・七本板バミス微量

第62号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・白色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・白色粒子微量

第63号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第64号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子・七本板バミス微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 七本板バミス中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第65号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子

第66号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子・七本板バミス微量

第67号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、七本板バミス微量

第68号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第69号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

第70号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 黒色 ローム粒子中量

第71号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第72号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

第73号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・七本板バミス微量

第74号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土ブロック・七本板バミス微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック・細礫・七本板バミス微量

第75号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第76号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 白色粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 オリーブ褐色 白色粘土ブロック中量、ローム粒子微量
- 3 黒 褐色 白色粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗オリーブ褐色 白色粘土ブロック中量、炭化粒子・七本桜バミス微量

第77号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第78号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・七本桜バミス微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第79号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子中量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、白色粘土ブロック微量

第80号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 白色粘土ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒 褐色 白色粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 4 灰黄褐色 白色粘土粒子中量、ローム粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量

第82号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

第83号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

第84号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量

第85号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量

第86号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

第87号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 灰 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

第88号土坑土層解説

- 1 褐 灰色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量
- 2 黒 色 ロームブロック・粘土ブロック微量

第89号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量

第91号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第92号土坑土層解説

- 1 鮮暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 明 褐色 白色粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量

第93号土坑土層解説

- 1 鮮暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第94号土坑土層解説

- 1 鮮暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量

第95号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第96号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 鮮暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第98号土坑土層解説

- 1 鮮暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量

第99号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量

第100号土坑土層解説

- 1 灰 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量

第101号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

第102号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量

第103号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 黒 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量

第104号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ローム粒子微量
- 2 にふい黄褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第105号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 鮮暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第106号土坑土層解説

- 1 灰暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第107号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・七本桜バミス微量
- 2 鮮暗褐色 ロームブロック中量

第108号土坑土層解説

- 1 鮮暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・白色スコリア微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第109号土坑土層解説

- 1 鮮暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第110号土坑土層解説

- 1 鮮暗褐色 ロームブロック・七本桜バミス・白色スコリア微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・七本桜バミス少量、白色スコリア・焼土粒子微量

第111号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第112号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・白色スコリア微量

第 113 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・七本桜バミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第 114 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・七本桜バミス微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量

第 115 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

第 117 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量

第 118 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量

第 119 号土坑土層解説

- 1 暗灰色 ローム粒子少量
- 2 暗灰色 ローム粒子微量

第 120 号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第 121 号土坑土層解説

- 1 灰褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 3 灰黄褐色 炭化物・ローム粒子微量

第 122 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 3 暗灰色 粘土ブロック・ローム粒子微量

第 123 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量
- 4 明暗灰色 粘土ブロック多量
- 5 に近い褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック多量

第 124 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 灰白色 白色粘土ブロック多量
- 6 灰褐色 ローム粒子微量
- 7 黒褐色 白色粘土ブロック中量、ロームブロック少量

第 125 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 白色粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 4 黒色 ローム粒子微量
- 5 に近い黄褐色 白色粘土ブロック多量
- 6 黒色 ロームブロック少量、白色粘土ブロック微量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量
- 8 黒色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量

第 126 号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 白色粘土ブロック多量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 黒色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量
- 4 灰黄褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック微量

第 127 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 白色粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 白色粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 129 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 白色粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 白色粘土ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 白色粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 白色粘土ブロック少量
- 6 黒褐色 白色粘土ブロック少量、炭化粒子微量

第 130 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 白色粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 白色粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色褐色 白色粘土ブロック少量

第 131 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 白色粘土粒子微量

第 132 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量
- 4 黒褐色 白色粘土ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量

第 133 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 に近い黄褐色 ロームブロック少量、白色スコリア微量

第 135 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子多量、白色スコリア微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 136 号土坑土層解説

- 1 暗灰色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第 137 号土坑土層解説

- 1 暗褐色褐色 白色粘土ブロック・焼土粒子微量

第 138 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第 139 号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第 141 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

第 142 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 白色粘土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子微量
- 5 褐色 粘土ブロック・砂少量、焼土粒子微量

第 143 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 白色スコリア粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量

第 147 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 灰褐色 ローム粒子・砂粒子少量

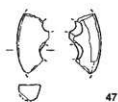
表 14 時期不明の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	F 3a6	-	円形	0.55×0.54	41	皿状	外傾	人為	-	
2	F 3b7	-	円形	0.70×0.64	13	平坦	直立	人為	-	
3	F 3b7	N-42°-W	楕円形	0.92×0.70	25	平坦	外傾	人為	-	
4	F 3b7	-	円形	0.70×0.69	37	凸凹	直立	自然	-	
5	F 3c7	N-10°-E	楕円形	0.72×0.61	21	階段状	外傾	人為	-	
6	F 3c6	N-71°-W	楕円形	0.52×0.41	28	皿状	外傾	-	-	
7	F 3c6	N-72°-E	楕円形	0.56×0.50	21	皿状	縦斜	自然	-	
8	F 3c6	N-65°-E	楕円形	0.47×0.37	23	皿状	外傾	自然	-	
9	F 3c7	N-35°-W	楕円形	0.49×0.43	27	平坦	外傾	自然	-	
10	F 3c7	-	円形	0.30×0.28	29	平坦	外傾	自然	-	
11	F 3c8	N-44°-E	楕円形	0.94×0.57	30	平坦	外傾	自然	-	SK12→本跡
12	F 3c8	N-46°-E	[楕円形]	(1.00)×0.80	31	平坦	外傾	自然	-	本跡→SK11
13	F 3c8	N-35°-E	[楕円形]	(1.46)×1.32	57	平坦	外傾	自然	土層部	SK14→本跡
14	F 3c8	N-41°-E	[楕円形]	(1.07)×1.35	61	平坦	外傾	自然	-	本跡→SK13
15	F 3c8	N-40°-W	楕円形	0.88×0.76	17	平坦	外傾	自然	土層部、鉄滓	
16	F 3c8	N-61°-E	[楕円形]	(0.67)×0.69	25	平坦	外傾	自然	土層部	
17	F 3c8	N-15°-W	楕円形	1.14×0.82	40	平坦	外傾	人為	-	
18	F 4a1	N-73°-E	楕円形	0.68×0.47	25	皿状	外傾 縦斜	人為	-	
19	F 3c9	-	円形	0.55×0.51	15	平坦	外傾	自然	-	
20	F 3a8	-	[円形]	0.86×(0.80)	32	平坦	外傾	自然	-	本跡→SD 7
21	F 3a7	-	[円形]	0.87×(0.85)	19	平坦	縦斜	自然	-	本跡→SD 7
22	F 3b6	N-30°-W	楕円形	0.68×0.52	20	平坦	外傾	自然	-	SK23→本跡
23	F 3f7	N-27°-E	[楕円形]	(0.79)×0.68	21	平坦	外傾	人為	-	本跡→SK22
24	F 3c6	N-78°-E	楕円形	0.80×0.63	15	平坦	縦斜	自然	-	
25	F 3c5	-	不整形円形	0.81×0.74	13	平坦	縦斜	自然	-	
26	F 3c5	N-74°-W	楕円形	(0.70)×0.49	14	平坦	外傾	自然	-	
27	F 3c6	N-36°-W	楕円形	0.73×0.60	36	皿状	外傾	自然	銅片(馬蹄)	
28	F 3c6	N-57°-E	楕円形	0.88×0.77	20	平坦	縦斜	自然	-	
29	F 3c6	-	円形	0.43×0.40	11	皿状	縦斜	自然	-	
30	F 3a1	N-54°-W	[楕円形]	1.52×[0.84]	14	平坦	外傾	自然	土層部	
31	F 3a8	N-72°-E	楕円形	3.04×1.43	75	皿状	外傾 縦斜	-	-	本跡→SD7
32	F 3e0	N-43°-W	長方形	2.28×1.05	-	-	-	-	-	SD1
33	F 3a9	N-10°-W	楕円形	1.22×0.83	73	平坦	外傾	人為	-	SD1→本跡
34	G 2b0	-	[楕円形]	0.79×(0.6)	43	平坦	外傾	自然	-	本跡→SD 9
35	G 3c1	N-41°-W	楕円形	1.18×0.63	48	皿状	外傾	自然	-	
36	G 3b2	N-25°-E	隅丸長方形	1.29×0.70	44	平坦	外傾	自然	-	
38	G 1d3	-	[円形]	0.36×(0.12)	29	皿状	外傾	自然	-	
39	F 3b7	N-5°-E	楕円形	1.78×1.50	27	皿状	縦斜	自然	-	SK40→本跡
40	F 3b7	[N-60°-E]	[楕円形]	(1.80)×1.40	11	平坦	縦斜	自然	土層部	SD 7→本跡→SK39
41	F 3b7	N-16°-W	楕円形	1.17×0.78	23	平坦	外傾	自然	-	SD 7→本跡
42	F 3c5	-	円形	0.46×0.42	25	平坦	外傾	自然	-	
43	F 3e5	-	円形	0.54×0.51	23	平坦	外傾	自然	-	
44	G 3a4	-	円形	0.81×0.76	19	皿状	縦斜	人為	-	
45	G 1b0	N-80°-E	長方形	1.55×0.81	21	平坦	外傾	人為	陶器	
46	G 1e0	N-83°-E	長方形	1.10×0.64	10	平坦	外傾	人為	-	
47	G 1b6	N-35°-E	楕円形	1.30×1.08	20	平坦	外傾	自然	-	
48	G 1f7	N-27°-W	楕円形	0.60×0.48	22	平坦	外傾	自然	-	
49	G 1e8	N-90°	楕円形	0.45×0.38	32	皿状	外傾	自然	-	
50	G 1e7	-	不整形円形	0.50×0.49	28	平坦	外傾	自然	-	
51	G 1e7	N-19°-W	楕円形	0.88×0.78	29	平坦	外傾	自然	-	
52	G 1f9	-	円形	1.48×1.45	35	皿状	外傾	自然	-	

保土通道路

番号	位置	長径方向	平面形	規 規		底 面	壁 面	覆 土	主 交 出 土 造 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
53	G 1g8	N-71'-E	楕円形	0.54×0.45	32	平坦	外傾	自然	-	
54	G 1f0	N-63'-E	[不整楕円形]	(0.73)×0.60	23	皿状	外傾	自然	-	本路→SK55
55	G 1f0	N-27'-W	[不整楕円形]	(0.64)×0.76	15	平坦	外傾	自然	-	SK54→本路
56	G 1f9	N-55'-E	楕円形	0.62×0.53	25	皿状	外傾	自然	-	
57	G 1e4	-	不整楕円形	0.42×0.39	50	皿状	外傾	人為	-	
58	G 1e9	N-55'-E	楕円形	0.90×0.72	15	平坦	外傾	人為	-	
59	G 1e9	N-30'-W	楕円形	0.58×0.51	22	平坦	外傾	人為	-	
60	G 1b9	N-55'-W	不整楕円形	0.74×0.69	22	平坦	外傾 縦斜	自然	-	
61	G 2b1	N-55'-W	楕円形	0.55×0.50	15	平坦	外傾	自然	-	
62	G 2e4	N-41'-W	楕円形	0.78×0.66	20	平坦	外傾	自然	-	
63	E 4f6	-	[円形]	1.02×(0.79)	11	平坦	外傾	人為	-	
64	E 4f5	-	[楕円形]	0.54×(0.45)	30	平坦	外傾	人為	-	
65	E 4f6	-	[楕円形]	1.32×(0.58)	9	平坦	外傾	自然	-	
66	F 4a7	N-86'-W	楕円形	0.98×0.85	26	皿状	外傾	自然	陶器, 瓦製品	
67	E 4f8	-	円形	0.31×0.29	27	平坦	外傾	人為	-	
68	E 4f9	N-63'-E	楕円形	1.05×0.64	13	平坦	縦斜	自然	礎	
69	E 4f7	N-63'-E	楕円形	1.17×1.01	49	皿状	外傾	自然	-	SK77・78→本路
70	E 4f9	N-72'-E	楕円形	0.47×0.41	15	皿状	縦斜	自然	-	
71	E 4f8	N-8'-E	楕円形	1.40×1.19	45	平坦	外傾	自然	須恵器, 陶器, 瓦質土器	
72	E 4f8	N-15'-E	楕円形	0.38×0.22	30	平坦	外傾	人為	-	
73	E 4f8	N-21'-E	楕円形	0.84×0.56	10	皿状	縦斜	人為	-	
74	F 5a2	-	円形	0.92×0.90	15	皿状	縦斜	自然	-	SD11→本路→SF1
75	E 4g0	N-62'-E	楕円形	0.90×0.61	21	平坦	外傾	人為	-	
76	F 5b2	N-69'-E	楕円形	0.89×0.67	35	平坦	外傾	自然	ガラス製品	
77	E 4f6	N-27'-E	[楕円形]	1.29×(0.85)	8	平坦	外傾	自然	-	本路→SK69・78
78	E 4f7	N-63'-E	[楕円形]	1.64×(0.78)	32	平坦	外傾	-	-	SK77→本路→SK69
79	E 5f5	N-38'-E	[楕円形]	0.34×[0.25]	35	皿状	外傾	自然	-	本路→SD13
80	E 5f6	N-39'-W	楕円形	1.97×1.15	28	皿状	縦斜	-	-	
82	E 6e1	N-15'-E	不定形	2.05×1.11	37	皿状	直立 縦斜	自然	-	
83	E 6f2	N-90'-	不整楕円	(2.75)×1.14	40 66	凸凹	外傾	自然	-	SK117
84	E 5f5	N-11'-W	不整楕円	2.45×1.77	18	平坦	外傾	自然	土師器, 陶器	SD13, SK100・101→本路→SK99
85	E 6d2	N-26'-E	楕円形	0.43×0.32	28	平坦	外傾	自然	-	SK86→本路
86	E 6d2	-	[楕円形]	0.42×(0.25)	12	平坦	外傾	人為	-	本路→SK85
87	E 6d2	N-69'-E	楕円形	0.59×0.38	10	平坦	縦斜	自然	-	SK88→本路
88	E 6d2	[N-65'-E]	[楕円形]	0.46×(0.21)	18	平坦	外傾	自然	-	本路→SK87
89	E 5e9	-	円形	0.68×0.67	13	平坦	縦斜	自然	土師器	SH2, PG6
91	E 5f0	N-66'-W	楕円形	0.90×0.55	13	平坦	縦斜	自然	-	
92	E 5f9	N-70'-E	楕円形	0.86×0.54	15	平坦	縦斜	自然	-	
93	E 5f8	N-23'-W	楕円形	0.38×0.31	29	平坦	外傾	自然	-	
94	E 5f9	-	円形	0.70×0.65	10	平坦	縦斜	自然	-	
95	E 5f9	-	円形	0.51×0.47	15	平坦	縦斜	自然	-	
96	E 5f0	-	円形	0.57×0.52	24	平坦	外傾	人為	-	SH2, PG6
98	E 5f0	-	円形	0.27×0.25	38	平坦	外傾	自然	-	
99	E 5f5	N-87'-W	楕円形	0.86×0.63	22	平坦	外傾	自然	-	SK84→本路
100	E 5f5	N-87'-E	[楕円形]	2.24×(1.40)	15	平坦	外傾	人為	-	SD13, SK101→ 本路→SK84
101	E 5f6	N-27'-W	不整楕円形	3.27×(1.08)	14	平坦	[外傾]	-	-	本路→SK84・100・102
102	E 5f6	N-43'-W	不整楕円形	2.69×0.46	29	平坦	外傾	人為	-	SK101→本路
103	E 5g6	N-78'-E	不整楕円形	2.38×1.10	53	平坦	外傾	自然	-	
104	E 5f8	N-58'-E	不整楕円形	1.11×0.72	46	皿状	縦斜	人為	-	
105	E 5e9	-	円形	0.78×0.72	8	平坦	縦斜	自然	-	
106	E 5e0	-	円形	0.70×0.70	10	平坦	外傾	自然	-	

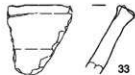
番号	位置	方位方向	平面形	40 規		底面	壁面	覆土	主出土土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
107	E 5 e0	-	円形	0.90 × 0.87	12 (25)	凸凹	外傾	自然	-	
108	E 5 e0	-	円形	0.47 × 0.45	13	皿状	外傾	自然	-	
109	E 6 c1	N - 70° - E	精円形	0.64 × 0.57	12	皿状	外傾	自然	-	
110	E 6 c1	N - 38° - W	精円形	0.59 × 0.52	4	平皿	縦斜	自然	-	
111	E 5 e0	-	円形	0.40 × 0.40	18	皿状	外傾	自然	-	
112	E 5 e0	N - 22° - E	精円形	0.82 × 0.52	11	平皿	外傾	自然	-	
113	E 5 e0	-	円形	0.35 × 0.32	20	V字状	直立	自然	-	
114	E 5 b4	N - 20° - E	精円形	0.86 × 0.60	16	平皿	外傾	自然	-	
115	E 5 g3	N - 8° - W	精円形	1.00 × 0.69	12	平皿	外傾	自然	-	SN2 → 本跡
117	E 6 f2	N - 7° - E	[精円形]	0.93 × (0.63)	22	皿状	外傾	自然	-	SK83
118	E 5 f7	N - 6° - W	精円形	0.86 × 0.54	27	平皿	外傾	人為	-	
119	E 5 f5	N - 19° - W	精円形	0.83 × 0.74	21	平皿	外傾	自然	-	SD15 → 本跡
120	E 5 f8	N - 24° - E	不整精円形	0.76 × 0.62	18	平皿	外傾	自然	-	
121	E 6 c3	N - 10° - W	精円形	0.58 × 0.47	31	平皿	外傾	人為	-	
122	E 5 g3	N - 10° - W	不整形	1.79 × 1.07	30	凸凹	縦斜	人為	-	SN2, SK123 → 本跡
123	E 5 g4	N - 3° - E	不整精円形	1.19 × 0.48	32	平皿	外傾	自然	-	SN2 → 本跡 → SK122
124	E 5 h4	[N - 16° - E]	不整精円形	(2.83) × 1.55	41	平皿	外傾	人為	-	SK125・126 → 本跡
125	E 5 h4	[N - 73° - E]	不整精円形	2.52 × (1.46)	34	平皿	外傾	百石 人為	-	SK126 → 本跡 → SK124
126	E 5 h4	[N - 19° - W]	不整精円形	(1.60) × 1.55	35	平皿	外傾	自然	-	本跡 → SK124・125
127	E 6 d3	N - 24° - W	精円形	1.22 × 0.95	16	平皿	縦斜	自然	-	
129	E 6 d3	N - 8° - E	精円形	1.71 × 1.32	23	皿状	縦斜	人為	-	SK135 → 本跡
130	E 6 c3	-	不整円形	64 × 60	29	平皿	外傾	自然	-	
131	E 6 c3	N - 30° - W	精円形	1.68 × 1.19	12	皿状	縦斜	自然	-	
132	E 6 b4	N - 25° - E	精円形	1.67 × 1.16	25	平皿	外傾	自然	-	
133	E 6 d8	N - 30° - E	[精円形]	[1.28] × 1.14	30	平皿	縦斜	自然	-	SK140
135	E 6 d3	-	[精円形]	0.53 × (0.45)	17	平皿	外傾	自然	-	本跡 → SK129
136	E 5 g4	N - 69° - E	精円形	0.69 × (0.60)	35	平皿	外傾	自然	土層器	SN2 → 本跡
137	E 5 h7	N - 18° - E	不整精円形	1.67 × 1.24	15	平皿	縦斜	人為	土層器	
138	E 5 e6	N - 30° - W	精円形	0.72 × 0.60	82	平皿	直立	人為	-	
139	E 5 e6	-	円形	0.65 × 0.64	27	平皿	外傾	自然	-	
140	E 6 d8	N - 29° - E	[精円形]	[1.28] × (0.86)	20	平皿	外傾	自然	-	SK133
141	E 6 g1	[N - 6° - E]	[精円形]	(1.55) × 1.30	12	平皿	外傾	自然	-	本跡 → SK142
142	E 6 f1	N - 83° - W	精円形	1.20 × 1.08	25	平皿	外傾	自然	-	SK141 → 本跡
143	E 6 f7	N - 85° - E	精円形	1.47 × 0.86	21	皿状	外傾	自然	-	
147	E 5 d0	N - 41° - E	精円形	1.00 × 0.67	19	皿状	外傾	自然	-	
148	E 5 e6	-	円形	0.56 × 0.54	13	平皿	外傾	-	-	
149	E 5 e6	-	円形	0.57 × 0.55	8	平皿	縦斜	-	-	
150	E 5 e6	-	円形	0.56 × 0.55	11	平皿	外傾	-	-	
163	E 5 e8	-	円形	0.31 × 0.30	12	平皿	外傾	-	-	
164	E 5 e8	-	円形	0.52 × 0.48	15	平皿	外傾	-	-	
165	E 5 e8	-	円形	0.60 × 0.55	21	皿状	外傾	-	-	
166	E 5 e8	-	円形	0.55 × 0.54	10	平皿	外傾	-	-	SIS, PG6
167	E 5 d7	N - 63° - E	精円形	0.53 × 0.48	13	皿状	外傾	-	-	SIS



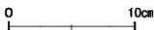
47



M2



33



第94图 第66・84号土坑出土遺物実測図

第66号土坑出土遺物観察表(第94図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
47	陶器	七厘	-	1.3	[9.8]	長石	明灰緑	普通	焼熱による割離	覆土中	5% PL20

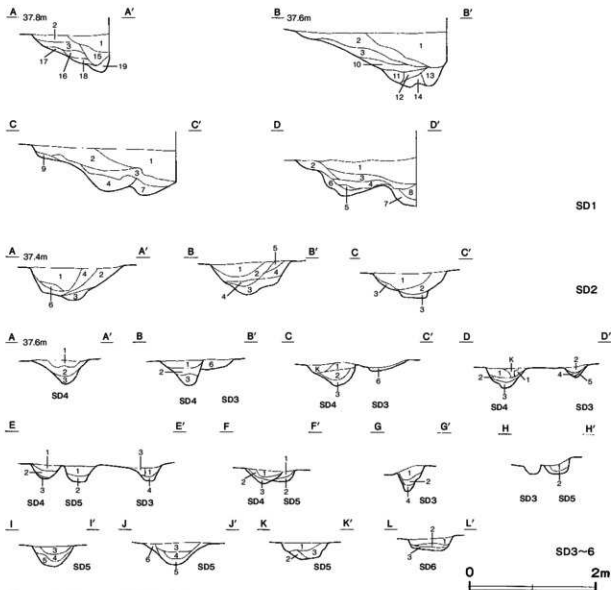
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	釘	(2.6)	0.6	0.4	(1.86)	鉄	上下端部欠損 断面方形	覆土中	PL20

第84号土坑出土遺物観察表(第94図)

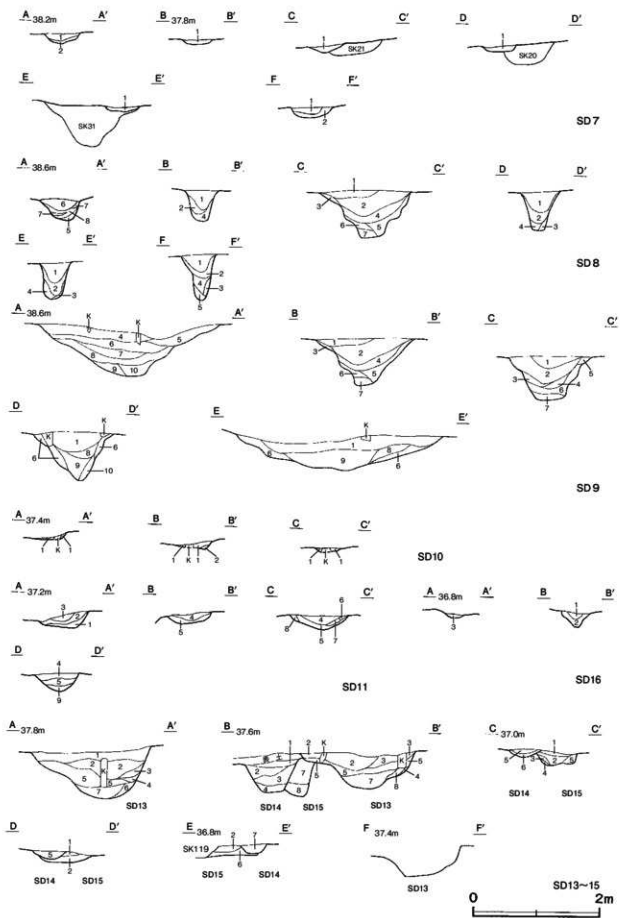
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
33	陶器	片口鉢	-	(5.6)	-	長石・石英	赤褐	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土上層	5%

(4) 溝跡

今回の調査で、時期不明の溝跡15条を確認した。以下、断面図と土層解説、一覧表を掲載し、平面図については遺構全体図で掲載する。



第95図 第1～6号溝跡実測図



第96图 第7~16号沟迹实测图

第1号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子微量
- 6 暗 褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 7 黒 褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量
- 8 黒 褐色 粘土粒子微量
- 9 黒 褐色 ローム粒子微量
- 10 黒 褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
- 11 黒 褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・細礫微量
- 12 暗 褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子中量、ロームブロック微量
- 13 に近い黄褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子中量、ロームブロック微量
- 14 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 15 黒 褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量
- 16 黒 褐色 炭化粒子中量
- 17 明 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、粘土ブロック微量
- 18 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 19 黒 褐色 砂質粘土粒子微量

第2号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、砂粒子微量
- 2 灰 褐色 ローム粒子中量、砂粒子少量
- 3 褐 灰色 ローム粒子・砂粒子少量
- 4 褐 灰色 ロームブロック・炭化粒子・砂粒子少量
- 5 黒 褐色 炭化粒子・砂粒子少量
- 6 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量

第3号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 4 黒 褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 6 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第4号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・七本板バミス微量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック・炭化物、ローム粒子・七本板バミス微量
- 3 黒 褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・七本板バミス微量

第5号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・粘土粒子・七本板バミス微量
- 2 暗 褐色 粘土ブロック・ローム粒子・七本板バミス微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、七本板バミス微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・七本板バミス微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・七本板バミス微量
- 6 暗 褐色 ローム粒子、七本板バミス微量

第6号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 白色スコリア少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・白色スコリア微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第7号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・七本板バミス微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第8号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 3 暗 褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量

- 4 暗 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 5 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 6 黒 褐色 ローム粒子微量
- 7 黒 褐色 ローム粒子少量
- 8 黒 褐色 ローム粒子微量

第9号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 8 黒 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 9 黒 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 10 黒 褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量

第10号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 白色粘土ブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック多量

第11号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・礫微量
- 2 黒 褐色 白色スコリア少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・七本板バミス微量
- 4 黒 褐色 粘土ブロック・炭化物、ローム粒子微量
- 5 黒 褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 白色粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 7 黒 褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 8 黒 褐色 粘土ブロック中量
- 9 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量

第13号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・白色粘土粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物、白色粘土粒子微量
- 5 灰 褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量
- 6 褐 褐色 ロームブロック中量
- 7 黒 褐色 ロームブロック少量、白色粘土ブロック微量
- 8 黒 褐色 ロームブロック微量

第14号満跡土層解説

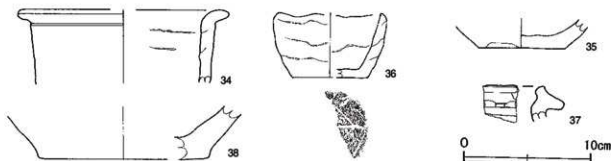
- 1 黒 褐色 ローム粒子・白色粘土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・白色粘土粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子・粘土粒子・七本板バミス微量
- 6 灰 褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 7 灰 褐色 七本板バミスブロック少量、ロームブロック微量

第15号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 砂粒子中量、ロームブロック・粘土ブロック・七本板バミス微量
- 3 灰 褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量
- 4 明 褐灰色 粘土ブロック中量、砂粒子少量
- 5 灰 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 6 灰 黄褐色 粘土粒子多量、ロームブロック微量
- 7 褐 灰色 白色粘土ブロック多量、ロームブロック少量
- 8 黒 褐色 ローム粒子・鉄分少量

第16号満跡土層解説

- 1 黒 褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量
- 2 に近い黄褐色 炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 炭化粒子微量



第97図 第5・9・11・13号溝跡出土遺物実測図

第5号溝跡出土遺物観察表 (第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
34	土師器	鉢	[16.0]	[5.8]	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ	内面輪襷痕	覆土中	5%

第9号溝跡出土遺物観察表 (第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
35	土師器	壺	-	[2.4]	[6.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面粗いヘラナデ	底部ヘラ顔り後ナデ	覆土中	5%
36	土師器	手捏	[8.2]	5.2	[5.9]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	輪襷痕	底部木葉痕	覆土中層	50% PL17

第11号溝跡出土遺物観察表 (第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	陶器	壺	-	[2.9]	-	長石・石英	オリーブ陶	普通	内面自然輪	底面	5% 常滑

第13号溝跡出土遺物観察表 (第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
38	陶器	鉢	-	[4.2]	[13.3]	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	自然輪	覆土下層	5%

表15 時期不明の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	縦横				横断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	F 3c8 - F 4j4	N-147°-E	直線状	(38.30)	0.43 - 2.21	0.10 - 0.55	58 - 86	縦斜	扇状	自然	-	重機関係(古→新) SI2-7→本跡→SK33 SK32
2	F 3j9 - F 4i3	N-71°-E	直線状	(18.84)	0.72 - 1.60	0.14 - 0.44	78 - 98	外傾	扇状	自然	-	本跡→SD1
3	F 3j9 - F 4g2	N-61°-E	直線状	(15.60)	0.28 - 0.58	0.04 - 0.20	18 - 74	外傾	扇状	自然	-	本跡→SD1・4 SI5
4	F 3j8 - F 4i2	N-63°-E	直線状	(21.74)	0.46 - 1.00	0.12 - 0.26	42 - 82	外傾	扇状	自然	-	SD3-5→本跡→SD1
5	F 3g0 - F 4i2	N-59°-E N-70°-W	C字状	(17.86)	0.30 - 0.72	0.10 - 0.32	36 - 50	外傾	扇状	自然	-	本跡→SD1・4 SD3
6	F 3i8 - F 4f1	N-62°-E	直線状	(14.30)	0.54 - 0.66	0.20 - 0.38	42	外傾	扇状	自然	-	本跡→SD5
7	F 3j2 - F 4f1	N-69°-E	直線状	(43.20)	0.32 - 0.89	0.14 - 0.51	10 - 20	外傾	扇状	自然	-	SK20・21・31→本跡→SD1, SK40・41
8	F 2i8 - G 1j4	N-20°-E N-50°-E	への字状	(80.42)	0.32 - 0.81	0.06 - 0.43	32 - 75	外傾	扇状	自然	-	本跡→SD9 SE1
9	G 1i3 - G 3i3	N-85°-E	直線状	(80.07)	0.92 - 1.60	0.10 - 0.53	50 - 75	外傾	扇状	自然	土師器	SD8, SK34→本跡
10	E 4a9 - E 5j1	N-55°-E	直線状	(12.30)	0.44 - 0.63	0.22 - 0.36	5 - 12	縦斜	平坦	自然	-	-
11	F 4e9 - F 5a2	N-57°-E	直線状	(15.05)	0.44 - 0.76	0.10 - 0.28	14 - 27	外傾	扇状	自然	陶器	-
13	E 5f4 - E 5j5	N-170°-E	直線状	(19.23)	0.6 - 1.95	0.18 - 0.54	38 - 72	縦斜	扇状	自然	陶器	SNI, SK79, SD14・15 →E跡→SK84・100

番号	位置	方向	形状	規 模				壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
14	E 5.4 ~ E 5.5	N - 161° - E	直線状	(18.58)	0.42 ~ 0.85	0.18 ~ 0.49	12 ~ 50	外堀 掘削 外堀	平坦	人為	-	SN1, SD15 → 本跡 → SK13
15	E 5.4 ~ E 5.5	N - 168° - E	直線状	(18.61)	0.45 ~ 0.98	0.15 ~ 0.68	15 ~ 60	外堀 掘削 外堀	平坦	自然	-	SN1 → 本跡 SD13・14, SK119
16	E 6.g2 ~ E 6.B	N - 65° - E N - 105° - E	への字状	(23.33)	0.28 ~ 0.40	0.11 ~ 0.30	5 ~ 22	外堀 掘削	起伏	自然	-	

(5) ビット群

今回の調査で、ビット群が6か所確認できた。いずれのビット群も明確に建物跡を想定できず、また伴出する出土遺物がないことから、時期を決定することもできない。ここでは、ビット群ごとに遺構平面図と計測表を掲載する。

第1号ビット群計測表

ビット群	位置	形状	規 模 (cm)		
			長さ × 短径	深さ	深さ
1	G 1.d	楕円形	43 × 37	29	
2	G 1.d	楕円形	58 × 49	28	
3	G 1.d	円形	39 × 38	28	
4	G 1.d	円形	54 × 51	30	
5	G 1.d	楕円形	54 × 42	26	
6	G 1.f	円形	52 × 50	26	
7	G 1.f	楕円形	53 × 48	27	
8	G 1.d	円形	45 × 42	31	
9	G 1.d	楕円形	46 × 30	29	
10	G 1.d	円形	43 × 41	24	
11	G 1.f	楕円形	25 × 23	14	
12	G 1.d	楕円形	29 × 21	32	
13	G 1.g2	楕円形	54 × 47	28	
14	G 1.g3	円形	31 × 29	23	
15	G 1.b3	円形	20 × 19	27	
16	G 1.b3	不要 遺物	42 × 30	17	
17	G 1.b3	楕円形	37 × 30	21	
18	G 1.b3	楕円形	35 × 27	18	
19	G 1.b4	不要 遺物	43 × 32	16	
20	G 1.b4	楕円形	42 × 35	18	
21	G 1.b4	楕円形	33 × 30	26	
22	G 1.b4	楕円形	38 × 28	24	

ビット群	位置	形状	規 模 (cm)		
			長さ × 短径	深さ	深さ
23	G 1.b4	楕円形	38 × 29	34	
24	G 1.b4	楕円形	36 × 26	19	
25	G 1.b4	円形	37 × 35	23	
26	G 1.g4	楕円形	50 × 40	23	
27	G 1.g3	円形	26 × 24	32	
28	G 1.g4	楕円形	48 × 33	36	
29	G 1.g4	円形	36 × 35	29	
30	G 1.d3	楕円形	41 × 36	29	
31	G 1.d3	楕円形	48 × 35	34	
32	G 1.f4	円形	15 × 14	28	
33	G 1.g4	楕円形	41 × 35	27	
34	G 1.g4	楕円形	46 × 35	27	
35	G 1.f4	円形	24 × 23	20	
36	G 1.f4	円形	20 × 20	23	
37	G 1.f5	楕円形	30 × 24	13	
38	G 1.e5	楕円形	18 × 15	15	
39	G 1.e5	円形	23 × 22	29	
40	G 1.f5	円形	25 × 24	29	
41	G 1.f5	円形	27 × 25	25	
42	G 1.f5	楕円形	39 × 30	26	
43	G 1.f5	楕円形	28 × 23	27	

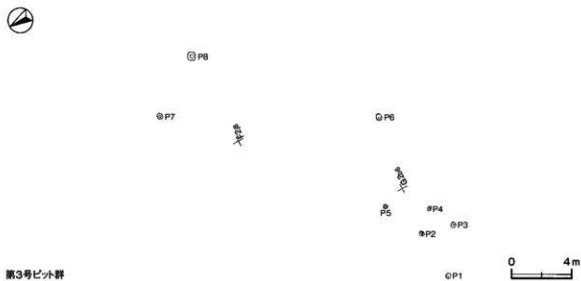
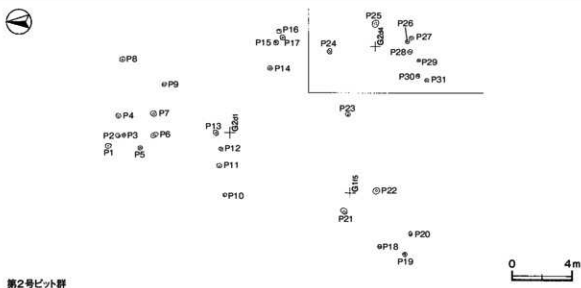
ビット群	位置	形状	規 模 (cm)		
			長さ × 短径	深さ	深さ
44	G 1.f5	楕円形	28 × 29	19	
45	G 1.d5	楕円形	39 × 32	39	
46	G 1.g6	円形	32 × 31	54	
47	G 1.e7	楕円形	31 × 25	40	
48	G 1.e7	楕円形 狭長 長方形	70 × 28	47	
49	G 1.e7	楕円形	44 × 37	44	
50	G 1.e6	楕円形	55 × 41	23	
51	G 1.e6	楕円形	37 × 30	32	
52	G 1.g6	楕円形	60 × 45	23	
53	G 1.e7	楕円形	71 × 50	27	
54	G 1.g6	円形	42 × 40	32	
55	G 1.g6	楕円形	49 × 31	45	
56	G 1.g6	円形	24 × 24	31	
57	G 1.g6	楕円形	25 × 20	42	
58	G 1.g6	楕円形	83 × 72	25	
59	G 1.g5	楕円形	30 × 27	18	
60	G 1.g6	円形	27 × 27	42	
61	G 1.b6	円形	33 × 32	35	
62	G 1.b5	楕円形	26 × 23	16	
63	G 1.b5	円形	21 × 19	29	
64	G 1.f5	楕円形	34 × 30	35	

第2号ビット群計測表

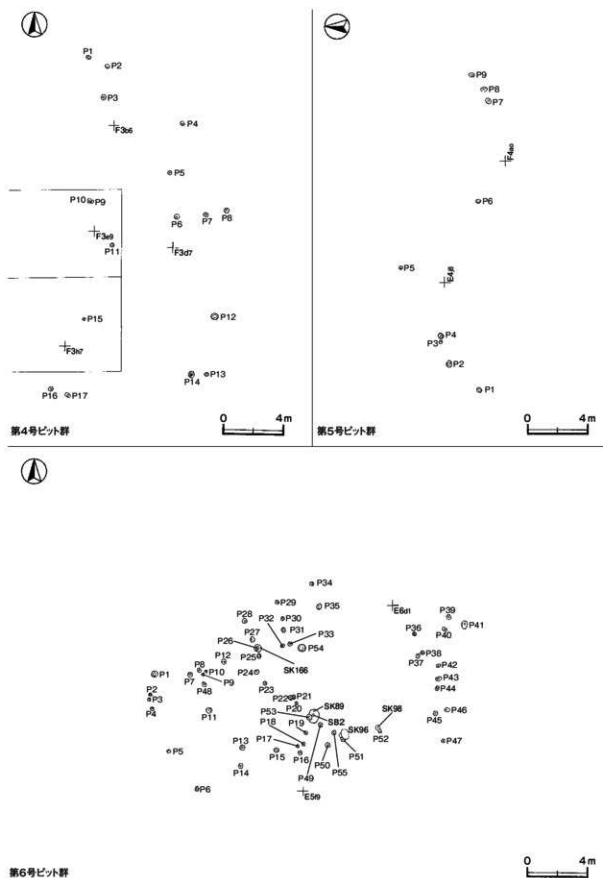
ビット群	位置	形状	規 模 (cm)		
			長さ × 短径	深さ	深さ
1	G 1.b0	楕円形	33 × 29	8	
2	G 1.b0	楕円形	34 × 30	12	
3	G 1.b0	円形	24 × 24	12	
4	G 2.b1	楕円形	35 × 31	15	
5	G 1.b0	楕円形	26 × 21	14	
6	G 1.b0	不要 遺物	53 × 28	33	
7	G 2.b1	円形	37 × 35	20	
8	G 2.b2	円形	35 × 32	21	
9	G 2.b1	楕円形	31 × 27	17	
10	G 1.e9	楕円形	25 × 21	33	
11	G 1.e0	楕円形	29 × 24	13	

ビット群	位置	形状	規 模 (cm)		
			長さ × 短径	深さ	深さ
12	G 1.e0	不要 遺物	34 × 16	16	
13	G 1.e0	楕円形	34 × 26	19	
14	G 2.g2	楕円形	25 × 22	16	
15	G 2.g2	楕円形	30 × 24	24	
16	G 2.g2	楕円形	30 × 26	37	
17	G 2.g2	楕円形	33 × 30	15	
18	G 1.g9	円形	27 × 27	25	
19	G 1.g8	楕円形	20 × 17	31	
20	G 1.g9	楕円形	33 × 25	24	
21	G 1.e9	円形	41 × 38	35	
22	G 1.g9	円形	40 × 39	24	

ビット群	位置	形状	規 模 (cm)		
			長さ × 短径	深さ	深さ
23	G 2.e1	円形	29 × 27	14	
24	G 2.e3	楕円形	35 × 26	13	
25	G 2.d4	楕円形	55 × 35	19	
26	G 2.g3	楕円形	30 × 25	19	
27	G 2.d4	円形	28 × 26	16	
28	G 2.d4	円形	35 × 33	22	
29	G 2.g3	円形	21 × 22	24	
30	G 2.g3	楕円形	29 × 19	10	
31	G 2.g3	円形	21 × 20	14	



第98図 第1～3号ピット群実測図



第99図 第4～6号ピット群実測図

第3号ビット群計測表

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
1	G2a4	楕円形	34 × 28	38
2	G2a5	円形	25 × 23	43
3	G2b5	楕円形	36 × 32	48

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
4	G2b5	楕円形	28 × 20	30
5	G2a5	円形	28 × 28	10
6	G2b7	円形	44 × 40	23

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
7	F2f9	楕円形	38 × 34	53
8	F2f9	円形	57 × 54	33

第4号ビット群計測表

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
1	E3f5	楕円形	33 × 28	38
2	F3a5	円形	30 × 28	32
3	F3a5	円形	27 × 27	8
4	F3a7	円形	25 × 24	32
5	F3b6	楕円形	32 × 27	18
6	F3c7	円形	30 × 30	16

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
7	F3c7	楕円形	30 × 25	14
8	F3c7	円形	35 × 34	50
9	F3d8	不整楕円形	28 × 23	24
10	F3d8	不整楕円形	27 × 19	21
11	F3e9	円形	26 × 24	31
12	F3e7	円形	48 × 48	13

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
13	F3f7	円形	29 × 28	18
14	F3f7	楕円形	44 × 40	32
15	F3g7	円形	19 × 19	29
16	F3f4	楕円形	33 × 24	17
17	F3f5	楕円形	39 × 27	32

第5号ビット群計測表

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
1	E4a6	円形	30 × 30	16
2	E4a6	楕円形	43 × 36	13
3	E4a6	楕円形	27 × 24	15

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
4	E4f7	円形	38 × 35	15
5	E4a8	円形	25 × 24	14
6	E4f9	楕円形	34 × 30	20

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
7	E5j1	楕円形	40 × 34	12
8	E5j1	楕円形	41 × 31	10
9	E5j1	楕円形	31 × 28	15

第6号ビット群計測表

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
1	E5e7	円形	40 × 37	24
2	E5e6	楕円形	16 × 13	7
3	E5e6	楕円形	17 × 15	44
4	E5e7	円形	23 × 21	26
5	E5f7	楕円形	30 × 18	19
6	E5g7	楕円形	25 × 22	21
7	E5e7	円形	28 × 25	27
8	E5e7	楕円形	30 × 27	22
9	E5e7	円形	17 × 16	9
10	E5e7	円形	14 × 14	14
11	E5e7	円形	36 × 34	17
12	E5d8	楕円形	34 × 30	26
13	E5f8	円形	29 × 27	14
14	E5f8	円形	36 × 24	29
15	E5f9	楕円形	38 × 24	44
16	E5f9	楕円形	23 × 19	31
17	E5f9	円形	19 × 18	15
18	E5f9	楕円形	21 × 19	32
19	E5f9	円形	19 × 17	14

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
20	E5e9	円形	25 × 23	33
21	E5e9	円形	22 × 21	23
22	E5e9	楕円形	33 × 34	31
23	E5e8	円形	24 × 22	62
24	E5e8	楕円形	30 × 22	34
25	E5d8	楕円形	35 × 25	18
26	E5d8	円形	28 × 36	24
27	E5d8	円形	29 × 27	19
28	E5d8	円形	30 × 28	23
29	E5e9	円形	25 × 23	16
30	E5d9	円形	20 × 30	9
31	E5d9	円形	30 × 29	23
32	E5d9	楕円形	24 × 18	20
33	E5d9	円形	25 × 25	24
34	E5e9	円形	26 × 25	14
35	E5d9	楕円形	33 × 30	22
36	E6d1	楕円形	25 × 17	27
37	E6d1	楕円形	25 × 20	23
38	E6d1	楕円形	25 × 30	15

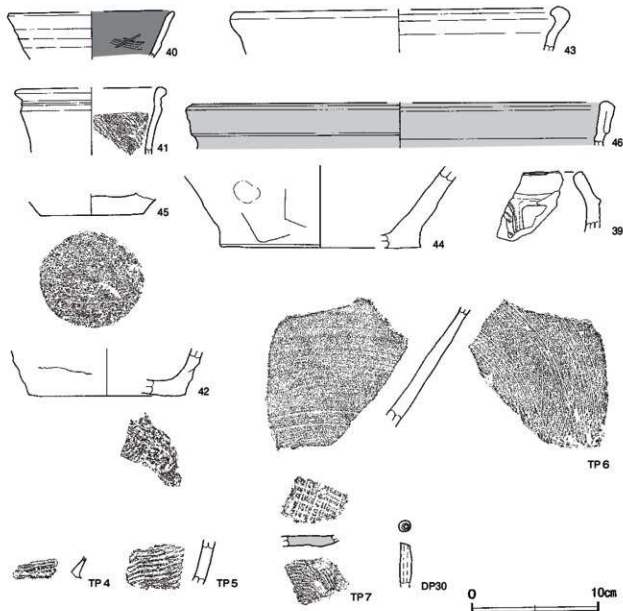
ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径 × 短径	深さ
39	E6d1	楕円形	30 × 25	27
40	E6d1	楕円形	32 × 24	18
41	E6d2	楕円形	65 × 37	37
42	E6e1	円形	23 × 23	35
43	E6e1	円形	44 × 43	31
44	E6e1	楕円形	30 × 24	19
45	E6e1	円形	26 × 24	26
46	E6e1	不整楕円形	38 × 24	18
47	E6f1	円形	21 × 20	23
48	E5e7	楕円形	35 × 27	17
49	E5d9	円形	30 × 30	20
50	E5d9	楕円形	40 × 30	16
51	E5f0	楕円形	33 × 30	20
52	E5f0	円形	28 × 27	37
53	E5d9	円形	33 × 33	9
54	E5d9	円形	46 × 46	10
55	E5f0	楕円形	30 × 27	10

表 16 時期不明のピット群一覧表

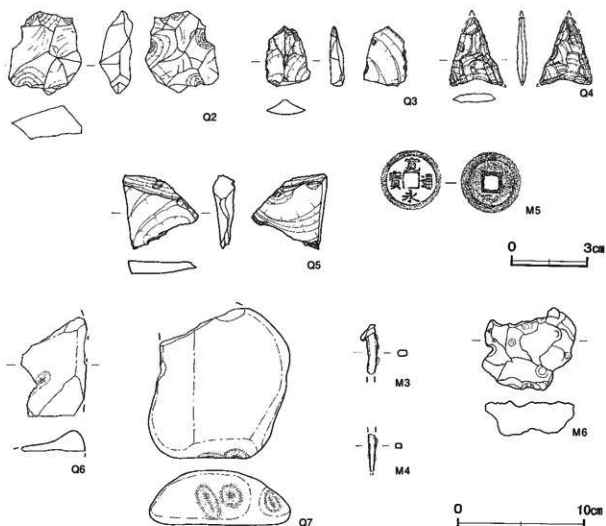
番号	位置	柱 穴 (cm)					主な出土遺物	備 考 重複関係
		柱穴	平面形	長径	短径	深さ		
1	G 1b3 - G 1f2	64	円形・楕円形	83	14	13 ~ 47	-	
2	G 1b9 - G 2d2	31	円形・楕円形	55	16	8 ~ 55	-	
3	F 2f4 - G 2d9	8	円形・楕円形	57	20	10 ~ 53	-	
4	E 3c5 - F 3g7	17	円形・楕円形	48	19	8 ~ 50	-	
5	E 4a8 - E 5j1	9	円形・楕円形	43	24	10 ~ 20	-	
6	E 5d7 - E 6f1	55	円形・楕円形	65	13	7 ~ 62	-	SB2 SK09・96・166

(6) 遺構外出土遺物 (第 100・101 図)

遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを実測図と遺物観察表で記述する。



第 100 図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第101図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物出土遺物観察表(第100・101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
39	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	口縁部沈積 磨消縄文 単筋縄文LR	表土	5%
40	土器	鉢	[128]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面へラミガキ 内面黒色地埋	表土	5%
41	土器	深鉢	[11.1]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	4条1単位の縞り目 外面ナデ	表土	10%
42	土器	甕	-	(3.7)	[12.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部へラ削り 輪積肌	SD13	10%
43	土器	鉢	[25.7]	(3.4)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	外面ナデ	表土	5%
44	土器	土器	-	(6.5)	[15.8]	長石・石英	明赤褐	普通	外面へラ削り 後部いへラナデ 内面ナデ 底部へラ削り 担頭肌	表土	5%
45	土器	甕	-	(1.7)	8.3	長石・石英・雲母・紺靑・赤色粒子	にぶい橙	良好	底部へラ削り 輪積肌	表土	5%
46	陶器	大甕	[32.8]	(3.6)	-	長石・黒色粒子	暗赤褐	良好	折り返し口縁 全面施釉	表土	5% 常滑

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP-4	弥生土器	甕	長石・石英	にぶい黄橙	附加赤縄文	表土	PL16
TP-5	須恵器	甕	長石	灰	外面平行叩き	表土	PL16
TP-6	陶器	深鉢	長石	黒	6~9条1単位の縞り目 外面ロクロナデ	表土	PL16
TP-7	陶器	深鉢	長石・黒色粒子	明赤褐	底部回転糸切り 灰釉	表土	PL16

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP30	管状土鉢	(3.2)	0.9	0.4	(2.2)	長石・石灰	一方向からの穿孔 外面ナデ	SF1	PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	尖頭器*	3.3	2.9	1.3	10.25	チャート	未成品	表土	PL30
Q 3	刮器	2.4	1.8	0.6	1.58	珪質頁岩	刃部は鋭い・側面	SH1	PL30
Q 5	刮片	2.9	3.0	0.9	5.45	チャート	刃部は鋭い・側面 自然面2面	表土	PL30
Q 4	石鏝	(2.7)	(2.1)	0.4	(1.38)	花崗理岩	両面押圧剥離 先端・側面・脚部欠損 凹底無条線	表土	PL30
Q 6	磨石	(7.9)	(5.2)	(1.6)	(58.5)	ホルンフェルス	磨面2面 凹痕1か所	SH1	PL30
Q 7	磨石	(11.9)	11.1	4.4	(668.0)	凝灰岩	磨面3面 凹痕3か所	SH1	PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 3	釘	(3.9)	1.3	0.5	(7.2)	鉄	先端部欠損 断面長方形	表土	PL30
M 4	釘	(2.9)	(0.6)	0.4	(2.7)	鉄	上下端部欠損 断面長方形	表土	PL30

番号	銭種	径	孔径	厚さ	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M 5	寛永通寶	2.44	0.53	0.15	3.04	銅	1636	無背銭	表土	PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	着磁	材質	特徴	出土位置	備考
M 6	板状斧	6.5	7.5	2.8	153.0	弱	鉄	鍍色は黒褐色 表面は顆粒状突起及び突孔が点在し、凹凸がある 底面は板状で凹凸少ない	SD6	PL30

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査で、竪穴住居跡1軒（古墳時代）、掘立柱建物跡5棟（近世2、時期不明3）、竪穴遺構1基（近世）、道路跡2条（近世）、窯跡1基（近世）、橋跡2列（近世）、粘土採掘坑2か所（近世）、土坑146基（近世1、時期不明145）、井戸跡1基（時期不明）、溝跡16条（近世1、時期不明15）、ピット群6か所（時期不明）を確認した。そのうち、調査区東部の掘立柱建物跡2棟、橋跡2列、竪穴遺構1基、粘土採掘坑2か所と土坑1基は竪穴に関連する遺構と考えられる。ここでは、古墳時代の住居跡1軒を概観した後、保土通地区に竪穴が築かれることとなった背景を考察しまとめたい。

2 古墳時代の遺構と遺物（第62～65図参照）

第1号竪穴住居跡1軒が確認できた。一辺5.15mほどで、森戸遺跡の住居の規模による分類にあてはめると、森戸Ⅳ期（和泉2期）の中型住居の範疇に入る¹⁾。遺物のうち、土師器の坏は、森戸遺跡のE類に対応するものが多く出土し、森戸遺跡Ⅶ期土器群には対応しており、時期は6世紀末から7世紀初頭と考えられる。古墳時代の住居跡は1軒だけであるが、集落の本体は調査区北側の台地上に展開していたものと考えられる。

3 窯跡（第66～70図参照）

第1号窯跡は、後世の削平により窯の構造物はほぼ取り払われ、窯壁の一部と数点の窯道具のみを残した状態で確認できた。窯跡がある場所は平坦であり、削平を考慮しても地下に窯の下部構造が確認できないことから、ここに設営された窯は平窯であると考えられる。窯跡からは19世紀代の波佐見焼の碗（第67図21）が出土しており、窯関連遺構である第1号竪穴遺構、第1・2号粘土採掘坑から出土した遺物は近世のものである。出土した窯道具は、トチン、初団子、輪ドチ、棒状粘土紐、留具、杭、サヤ鉢である。出土した窯道具から推察すると、焼成時の降灰から素地を保護するサヤ鉢が出土していることから、磁器生産も試みたと考えられる。また、留具や棒状粘土紐が出土していることから、陶製の土管やニンシ鉢のような角皿など多様な製品の生産を意図していたことが推察される。

近世の窯跡として、2003年に発掘調査が行われた町田窯跡（常陸太田市町田）出土の窯道具は、トチン、ハマ、ニギリドチ、焼台、キキョウ台、サヤ鉢、輪ドチが出土している。本跡の窯跡からは、焼台やニギリドチは出土しておらず、町田窯跡では、本跡で確認された初団子や留具、杭は確認されていない。本跡の窯跡から出土した波佐見焼と同時期のものが町田窯跡からも出土しているため、本跡の窯跡は、町田窯跡とはほぼ同時期と考えられるが、出土する窯道具の構成は異なり、生産を意図した陶磁器の種類は異なっている。また、本跡の窯跡と関連遺構から出土するトチン、初団子は初殻を混ぜて焼成しているため全面に初殻痕が確認できるが、町田窯跡のトチンには見られない。加えて、町田窯跡から出土しているトチンには窯印のヘラ書きがあるものもあるが、本跡では確認できなかった。さらに、町田窯跡出土のトチンやハマには磁器化したものもあるが、本跡出土のトチンは焼け具合が弱く、サヤ鉢に飛散した釉の付着も少ないことから繰り返し使用されたとは考えられない。本跡の窯跡は短期間の操業であったことがわかった。

4 窯跡関連施設

調査区の東部で確認された掘立柱建物跡2棟、欄柵2列、竪穴遺構1基、粘土採掘坑2か所と土坑1基は、窯跡に関連する遺構と考えられる。ここでは、これらの遺構について検討を試みたい。

第2・3号掘立柱建物跡は、窯跡に近接し、火道の長軸方向と桁行方向がほぼ一致していることから、窯跡に関連する遺構と考えられる。これらの掘立柱建物跡には四面に塀が巡らされていたことが確認できた。第2号掘立柱建物跡には第1・2号欄柵が併設されている。遺物が出土していないため第2・3号掘立柱建物跡の性格を決定することはできないが、工房もしくは作業場としての施設と想定される。また、周囲に塀を巡らせていることから、目隠し、日除け、防風等を意図して設置したものと想定される。窯跡からはサヤ鉢が出土しており、磁器の生産も試みたと考えられることから、製法などの機密事項を保持する意図があったのかもしれない。また、欄柵が併設されていることも同様の意図が想定される。いずれにせよ、これら2棟の掘立柱建物跡は、塀や欄柵によって遮蔽される必要のあった施設であったと考えられる。第1号竪穴遺構は窯跡に近接し、第2・3号掘立柱建物跡と長軸方向がほぼ一致している。また、両者に挟まれていることから窯跡の関連遺構と考えられる。出土遺物は近世の常滑焼片（甕）である。倉庫もしくは作業場のような機能を持っていた可能性が考えられる。第2号粘土採掘坑からは、サヤ鉢、留具が出土しており、第1号窯跡に関連する遺構と考えられる。第1号粘土採掘坑から窯道具は出土していないが、第2号粘土採掘坑に近接し、規模と形状が似ていることから同時期の粘土採掘坑で、窯跡に関連する遺構と考えられる。第90号土坑は、西側に第2号掘立柱建物跡が近接していることから、その併設遺構と考えられる。土坑の底面には凹凸があり、底面の中心部を除いて、壁面に粘土が貼り付けられている。第1・2号粘土採掘坑で採集した粘土を水蔵するための沈殿槽のような用途が想定されるが、性格は不明である。

また、第4・5号掘立柱建物跡は、遺構が調査区域外に伸びており、出土遺物がないため窯関連遺構と認定することができなかったが、第2・3号掘立柱建物跡、第1号竪穴遺構と近接しており、窯に関連する遺構の可能性がある。

5 窯業の背景について

今回調査した保土通地区の窯に関する史料は確認できず、近隣に住む人々からも手がかりはつかめなかった。ただし、本跡と町田窯跡からは、同時期の波佐見焼の碗が出土しており、これらの窯が築かれた時期は共通している。

江戸時代初期に始まる磁器生産は、重要な海外貿易品の一つとなり、その技術を持つ藩は他藩の羨望的であった。幕末になると諸藩の財政は疲弊し、諸藩は殖産興業に乗り出した。水戸藩及び近隣諸藩の窯場の創始年代を見ると、寛文年間と伝えられるどびん焼（旧小川町）、享保12（1727）年の勿来焼（北茨城市）、安永年間の笠間焼（笠間市）を別格とすれば、おおむね化政期（文化・文政）の前後と、天保・嘉永期に大別される。前者には桃源焼（常陸太田市）、松岡焼（北茨城市）、岡野台焼（矢板市）、後者には七面製陶所（瓦屋窯含む、水戸市）、町田焼（旧水府村）、小砂焼（馬頭町）、益子焼（益子町）、志鳥焼（南那須町）、平野焼（矢板市）、成田焼（矢板市）、穴戸焼（旧友部町）が属する²⁾。化政期は諸藩がこぞって殖産興業政策を推し進め、新たな産業として陶業を興した藩もある。さらに農民の農閑稼ぎが一般化する時期でもあり、その一つとして陶業が選ばれる場合も多い。また、天保・嘉永期はさらにこの傾向が強まるとともに、各藩が直接その経営を行う藩窯と、この創始・操業に援助を与える民窯があり、ともに藩財政への貢献を期待している。

第9代藩主の徳川斉昭は、文政12（1829）年に9代水戸藩主となり、藩政改革に着手した。斉昭は、領内

の殖産興業の一つとして陶器生産を考えた。会津藩と平戸藩に依頼し、採取状態のままの土をサンプルとして取り寄せ、領内の陶土産出地を調査させている。その結果、七面製陶所、町田焼、小砂焼などが開窯されている。陶土調査翌年の天保2（1831）年には、通事の伊藤友寿を京都へ派遣し、陶器製法を研究させている³¹。保土通遺跡や隣接する鹿島台遺跡では、古代から近世に至るまで粘土採掘坑が数か所確認されており、粘土が採取できる土地であった。斉昭が保土通地区に築窯したという記録はないが、町田窯跡と時期を同じくすること、斉昭が藩内で陶土産出の候補地を探していたこと、また、後述するが彼は陶土が産出する場所に窯を築きたかったことなどから、当跡の窯跡は、斉昭の希望した以上の候補地条件に合致しており、斉昭による陶器生産に関わる窯跡の可能性が想定できる。

斉昭は、領内の数か所で行われていた「陶器」の生産のほか、より商品価値の高い「石焼」と称する「磁器・半磁器」の生産も目指した。他藩と同様に、高値で売買できる磁器の国産（藩産）に取り組んだのである⁴¹。「石焼」は水戸城下での試験焼成に成功しているが、城下での生産は原料土の輸送にコストがかかり過ぎ利益が薄いため、それぞれの原料土地での生産が望ましいと斉昭は考えていた。天保6（1835）年には、「郡官から異議の申し立てがあったために下町に作ったが、ゆくゆくは山近辺に作るべし」とある⁵¹。

天保9（1838）年には、神埼七面堂の下に七面製陶所を設置し、天保12（1841）年の正月には、肥前唐津の陶工傳五郎を招聘して本格的に製陶を開始する。しかし、天保15（1844）年には斉昭が幕府から致仕謹慎を命ぜられ、水戸藩の天保改革は挫折した。

当跡の窯跡は、記録に残っていないことから、試験的に焼成が試されたが、七面焼や町田焼、小砂焼のようにはいかず、何らかの理由で廃棄されたと推察される。斉昭が水戸藩での陶土探索を指示した当初、藩の官僚は、「今までに陶土を探したが見つからず、焼物を興そうとしてもうまくいった試しがない」という主旨のことを述べており、これが当時の感覚であったと思われる。以上のことから、斉昭の命により陶土探索をした結果、陶磁器製作可能な粘土が採取できる当地で築窯し、試験的に焼成を行ったと考える方が自然であろう。地元の庄屋クラスの者が、藩主斉昭の望みを実現すべく、陶業を興した可能性も考えられる。藩官ではなくとも、藩主の希望に沿ったものとするば築窯の動機付けになるだろう。近隣地区の今後の調査を待ち、いつの日か保土通遺跡の窯跡の性格が明らかになることを期待したい。

註

- 1) 加藤雅夫・西野則史・浅井哲也「一般国道349号橋道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 北郷C遺跡 森戸遺跡」、『茨城県教育財団文化財調査報告』第55集 1990年3月
- 2) 河野一也・水野順敏・河野真理子「町田焼窯跡発掘調査報告書」日本窯業史研究所 2004年3月
- 3) 第四章「藩政特書」の陶器の項参照『水戸藩史料』別記巻二一 吉川弘文館 1970年
- 4) 伊藤鳳堂「斉昭公の『陶の道』についての試論 -水府村「町田焼」の調査-」『水戸史学会』第59号 水戸史学会 2003年11月
- 5) 第四章「藩政特書」の町奉行共への項参照『水戸藩史料』別記巻二一 吉川弘文館 1970年

参考文献

- 伊藤鳳堂「幕末における水戸藩の窯業から -神崎七面焼について-」『水戸史学』第65号 水戸史学会 2006年11月
- 川口武彦・関口慶久「水戸城下における近世生産遺跡の調査と課題 -七面製陶所跡の調査を中心に-」水戸市教育委員会 2006年9月
- 瓦吹堅「北茨城市の陶器窯跡と窯道具について」『北茨城市史』6 北茨城市史編さん委員会 1986年1月
- 高橋拓「東北近世窯における窯道具の転換的原因」『山形大学歴史・地理・人類学論集』10号 山形大学 2009年3月
- 水戸市教育委員会「七面製陶所跡 -第2次・3次発掘調査現地説明会資料-」2007年7月

写 真 图 版

鹿 島 台 遺 跡
保 土 通 遺 跡



鹿島台遺跡出土遺物



鹿島台遺跡調査区遠景（南から）



鹿島台遺跡調査区全景（上空から）

PL2



第4号住居跡
遺物出土状況



第4号住居跡
完掘状況



第2号住居跡
遺物出土状況

第 2 号住居跡
完掘状況



第 6 号住居跡
完掘状況



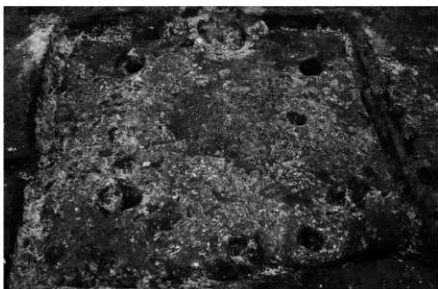
第 9 号住居跡
遺物出土状況



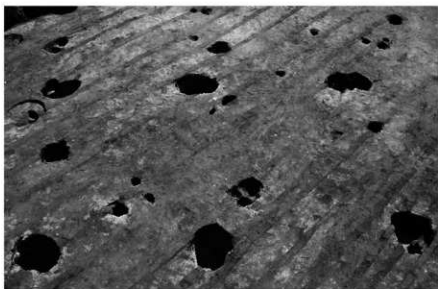
PL4



第9号住居跡
完掘状況



第12号住居跡
完掘状況



第2号掘立柱建物跡
完掘状況

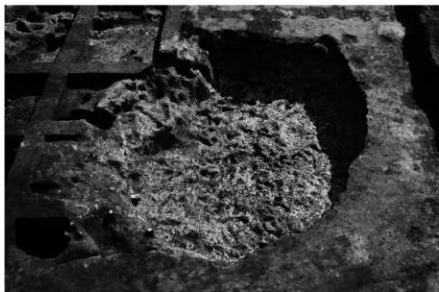
第 1 号住居跡
完掘状況

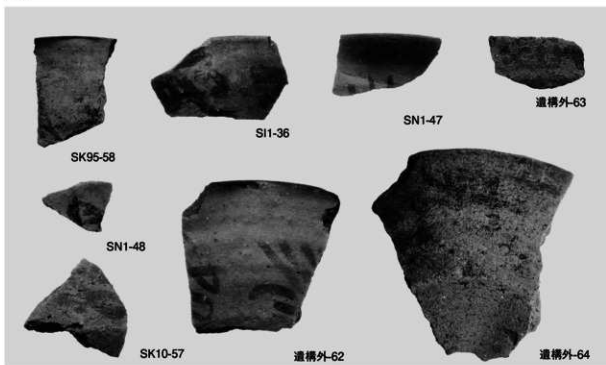


第 10 号住居跡
完掘状況

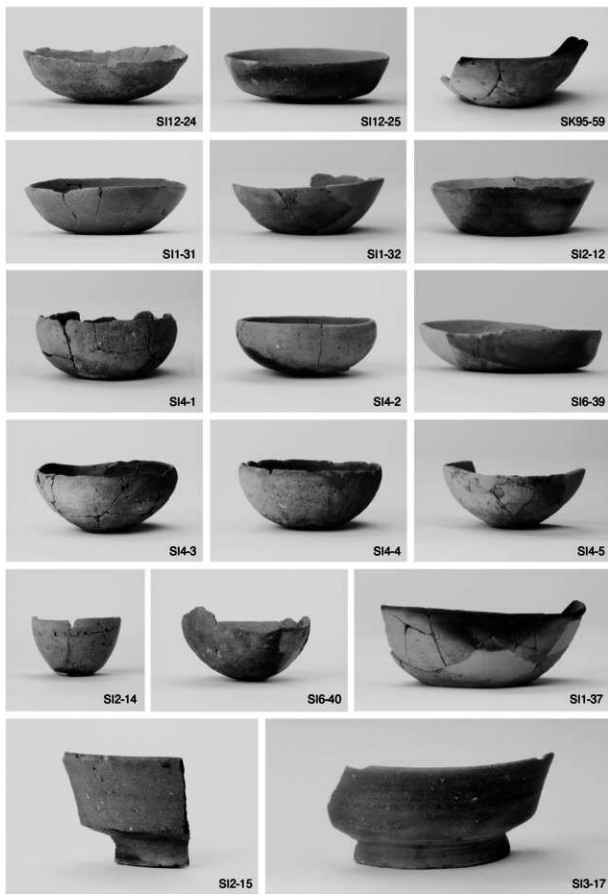


第 1 号粘土採掘坑
完掘状況

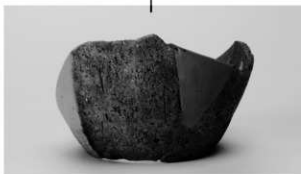


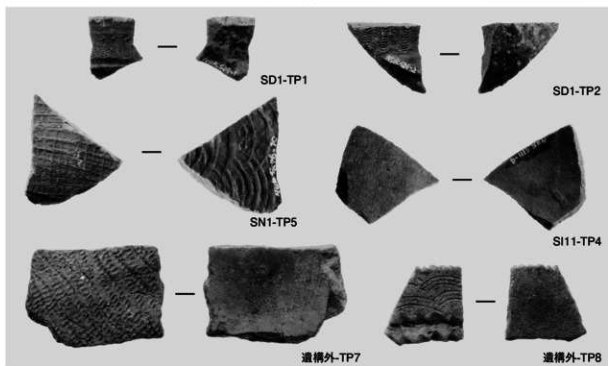
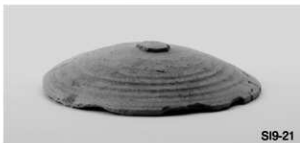


第1号住居跡，第1・2号粘土探掘坑，第10・95号土坑，遺構外出土墨書土器



第1~4・6・12号住居跡，第95号土坑出土土器



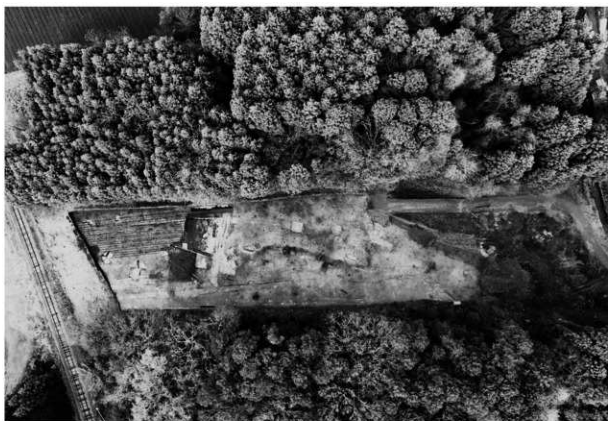


第3・4・6・9・11・12号住居跡，第1号粘土探掘坑，第1号溝跡，遺構外出土土器





保土通遺跡調査区遠景（東から）



保土通遺跡調査区東部（上空から）



第 1 号住居跡
遺物出土状況



第 1 号住居跡
遺物出土状況



第 1 号住居跡
完掘状況

第 1 号 窯 跡
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 窯 跡
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 窯 跡
遺 物 出 土 状 況



PL14



第 1 号 豎 穴 遺 構
遺 物 出 土 狀 況



第 1 号 豎 穴 遺 構
第 2 号 掘 立 柱 建 物 跡
第 90 号 土 坑
完 掘 狀 況



第 2 号 掘 立 柱 建 物 跡
第 1 号 柵 跡
完 掘 狀 況

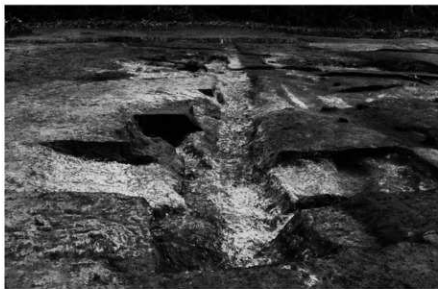
第2号粘土採掘坑
完掘状況

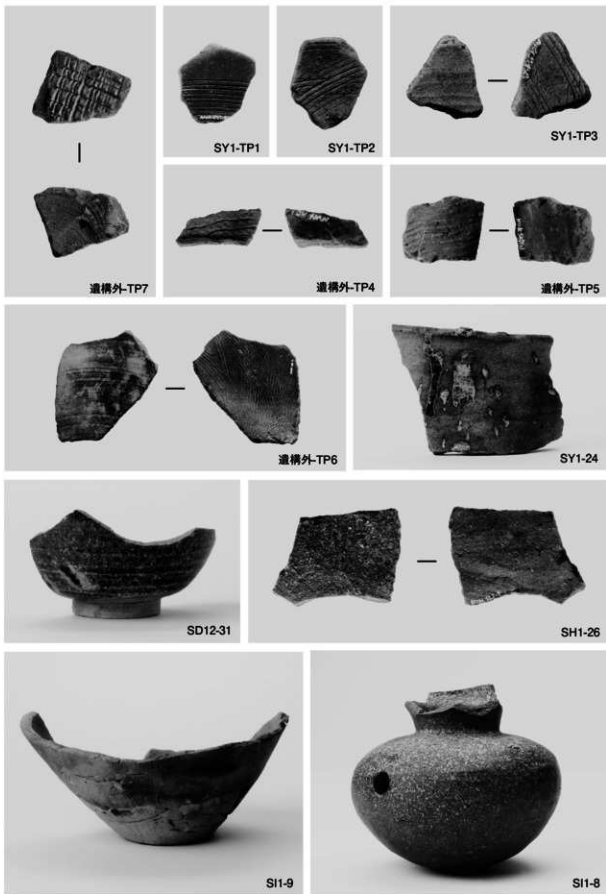


第12号溝跡
遺物出土状況

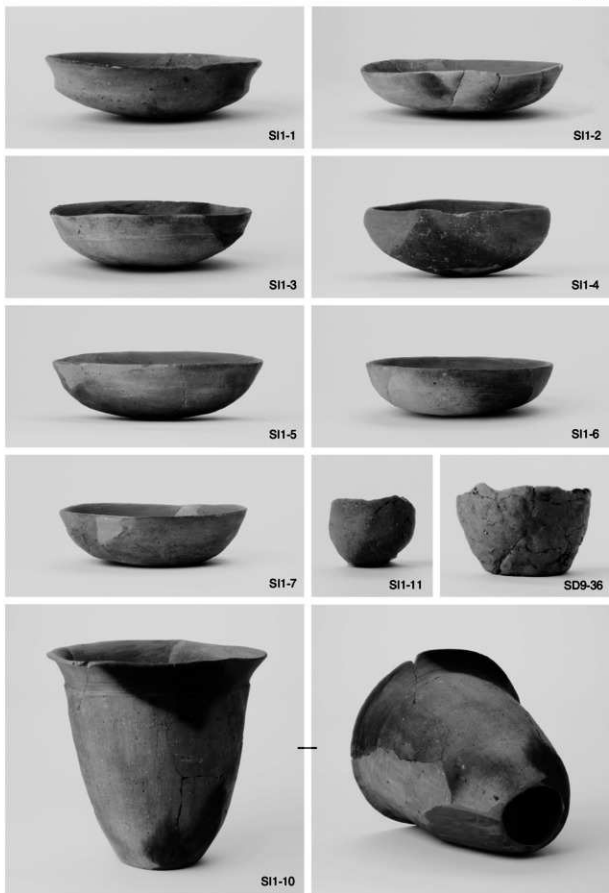


第13号溝跡
完掘状況

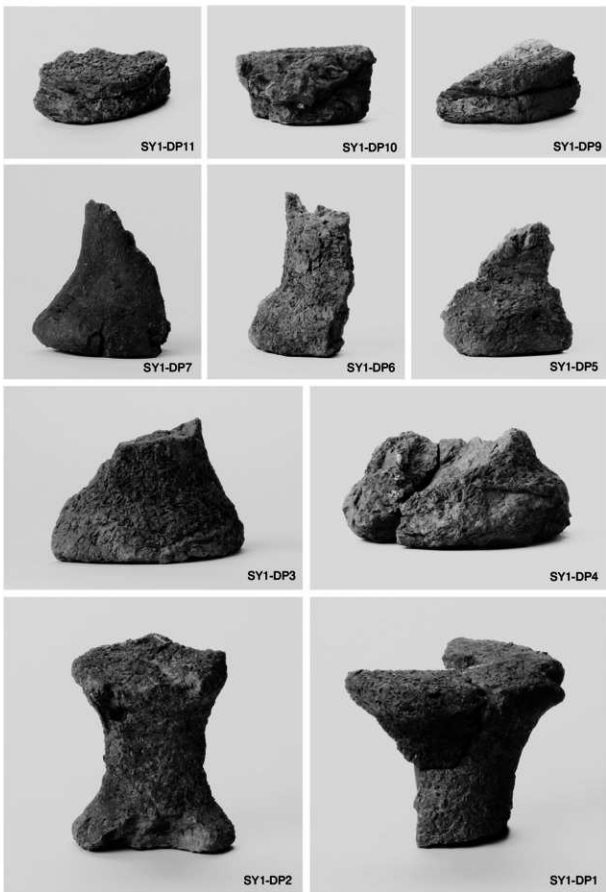




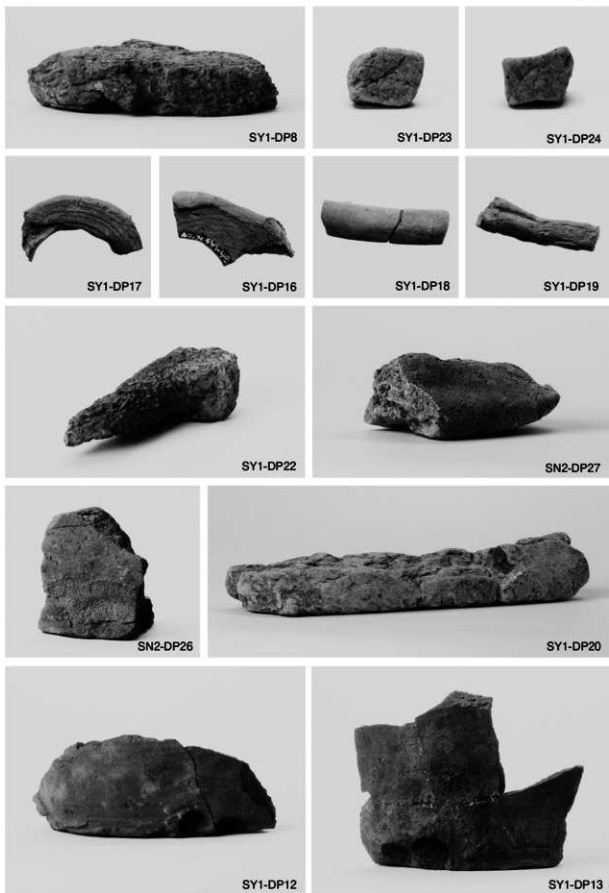
第8・9号住居跡，第1号窯跡，第1号竪穴遺構，第1号溝跡，遺構外出土土器



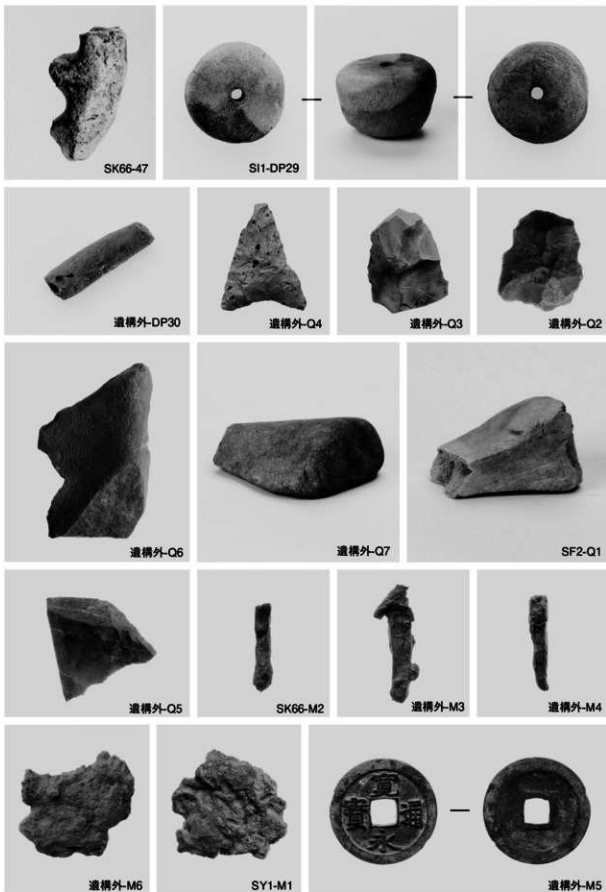
第1号住居跡，第9号溝跡出土土器



第1号窟跡出土竈道具



第1号窯跡，第2号粘土探掘坑出土窯道具



出土土器，土製品，石器，金屬製品



保土通遺跡出土竈道具

抄 録

ふりがな	かしまだいいせき ほどとおりいせき								
書名	鹿島台遺跡 保土通遺跡								
副書名	都市計画道路平野杉本線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第355集								
著者名	宮崎 剛								
編集機関	財団法人茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行日	2012(平成24)年3月16日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
鹿島台遺跡	茨城県那珂市 瓜連866-1番地ほか	08226 343015	36度 29分 47秒	140度 27分 23秒	37m	20100701 ～ 20101031	1,720㎡	都市計画道路平野杉本線道路整備事業に伴う事前調査	
保土通遺跡	茨城県那珂市 瓜連811-3番地ほか	08226 343032	36度 29分 46秒	140度 27分 18秒	38m	20101001 ～ 20101231	5,607㎡		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
鹿島台遺跡	集落跡	古 墳	聖穴住居跡	1軒	土師器(杯・椀・高杯・甕・甕類)、須恵器(甗・甕)、石器(台形石器)、石製品(双孔円板)	第2号粘土採掘坑から、「高月郷a」と記された須恵土器が出土している。当遺跡が所在する地域は「後文郷」に比定されていることから、交流があったことを知る貴重な資料になる。			
			聖穴住居跡 竪立柱建物跡	5軒 1棟	土師器(椀・鉢・甕・小形甕・甕)、須恵器(杯・高台付杯・甕)、土製品(管状土師・支脚)、石器(砥石)、鉄製品(剣さ・釘)				
	平 家	聖穴住居跡	6軒	土師器(杯・椀・高台付杯・甕)、須恵器(杯・短頸甕・甕)、土製品(支脚・紡錘車)、石器(砥石)					
		聖穴遺構	1基						
		粘土採掘坑	2か所						
	その他	時期不明	土 塚	11基	土師器(杯・甕・甕類、手捏)、陶器(甕)				
竪立柱建物跡 井戸跡			1棟 2基	土師器(杯・甕類、手捏)、陶器(甕)、灰釉陶器(椀)、石器(台形石器)					
保土通遺跡	集落跡	古 墳	聖穴住居跡	1軒	土師器(杯・甕・甕・手捏)、須恵器(甗)、土製品(紡錘車)、石器(磨石)	調査区東部からは、近世の遺跡1基とそれに関連する施設と考えられる竪立柱建物跡2棟、横溝2列、聖穴遺構1基、粘土採掘坑2か所、土塚1基を確認した。			
			近 世	道路跡	2条				土師質土器(内耳鍋)、陶器(磁鉢・甕)
			遺跡	溝跡	1条				農道具(トチン)
	その他	時期不明	竪立柱建物跡	3棟					
			井戸跡	1基					
			聖穴遺構	1基	土師質土器(鉢・甕・内耳鍋・磁鉢)、陶器(椀・大皿・小皿・鉢・磁鉢・甕・仏花瓶・火入・灰吹・徳利把手)、磁器(碗)、土製品(トチン・桐団子・輪下ナ・棒状粘土器・留具・杖・サヤ鉢・燗壺)、鉄製品(陶状押)、石器(砥石)				
その他	時期不明	土 塚	145基	土師器(甕・手捏)、陶器(片口鉢・七椀)、鉄製品(釘)					
		溝跡	15条						
		ビット群	6か所						
要 約	鹿島台遺跡は、古墳時代から平安時代にかけて断続的に営まれた集落跡である。奈良時代は、律令期の計画的な集落形態の様子が見られる。 保土通遺跡では、古墳時代後期の住居跡1軒が確認された。集落の中心は当調査区の北側の台地上に広がっていたものと考えられる。また、近世の遺跡とその関連遺構として竪立柱建物跡2棟、横溝2列、聖穴遺構1基、粘土採掘坑2か所、土塚1基を確認した。遺跡の採集は短期間であったと想定できる。								

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 7 Home Premium ServicePack 1
	編集	Adobe InDesign CS4
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000 図面類 EPSON ES-1000G
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第355集

鹿島台遺跡 保土通遺跡

都市計画道路平野杉本線道路整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成24（2012）年 3月14日 印刷

平成24（2012）年 3月16日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 有限会社平電子印刷所

〒970-8024 福島県いわき市平北白土西ノ内13

TEL 0246-23-9051